平成３年度

三重県埋蔵文化財センター年報３

１９９２・３

三重県埋蔵文化財センター

はじめに

バブル経済の崩壊や景気の低迷が呼ばれている本年度においても、住環境や交通体系の整備をはじめとする各種の開発事業は活発に推進されています。これに伴い県下各地で開発事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査が依然多数行われています。

このような発掘調査により、地域の歴史を解明するいくつかの新たな事実が判明しています。ことに本年度は城之越遺跡をはじめ新聞紙上を賑わせた遺跡も少なくなく、現地説明会等では多くの人々に発掘調査で判明した歴史資料に直接ふれて頂くことができました。

しかし、このような状況の中で出土品と実測図・写真を残して地上から永久に消滅して行った多くの遺跡がある事も忘れることはできません。

当埋蔵文化財センターでは、発足以来、埋蔵文化財の保護のために関係機関と調整を重ね、発掘調査のほかに様々な研修・普及啓蒙事業を実施してまいりました。私たち埋蔵文化財保護にたずさわる者にとって埋蔵文化財を守り将来に伝えてゆくことはもとより、新たな文化創造の基盤としてこれをいかに活用してゆくかが今後の課題と言えましょう。

この冊子は三重県内で本年度に実施された発掘調査の概要と当埋蔵文化財センターの事業内容をまとめたものです。簡単な冊子ではありますが、今後の埋蔵文化財保護と活用の一助として、ご利用頂ければ幸いに存じます。

最後に本書の作成にあたり、ご指導ご協力下さいました各位に厚くお礼申し上げます。

平成4年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長　中　林　昭　一

例　　言

1．この冊子は、平成３年度における三重県内の発掘調査の概要と三重県埋蔵文化財センターの事業概要をまとめたものである。

2．Ⅱ．平成３年度緊急発掘調査については、平成３年度の三重県下における発掘調査の概要として、三重県埋蔵文化財センター担当の発掘調査成果および、県内市町村担当の発掘調査成果もあわせて収録した。なお、各遺跡の緊急発掘調査の概要については、それぞれの発掘調査担当者の協力を得た。

3．本冊子の編集は、関係機関及び各位の協力を得て、管理指導課が中心となって行った。

目　　次

Ⅰ　組織及び業務体系 …… 1

Ⅱ　平成３年度緊急発掘調査 …… 4
　1．緊急発掘調査一覧
　2．発掘調査の概要

Ⅲ　埋蔵文化財保護体制の充実 …… 98
　1．各種会議
　2．埋蔵文化財発掘技術者研修
　3．市町村事業等への指導・協力

Ⅳ　資料の整理・保管・公開 …… 106
　1．資料の整理・保管
　2．科学的保存処理
　3．資料の公開
　　・出版物の発行
　　・現地説明会
　　・三重県埋蔵文化財展
　　・斎宮歴史博物館への展示協力
　4．保管遺物等の貸出・写真等の掲載許可

《付　編》
　1．平成３年度三重県文化財調査員名簿 …… 113

Ⅰ．組織及び業務体系

〔組　織〕

- 所　長（兼）
  - 次　長（兼・事）
  - 次　長（技）
  - 総務課長（兼）
    - 主査（兼）
    - 総務担当（兼２）
  - 調査第一課長
    - 主査
    - 第一係長（兼）―― 調査担当＜農林＞（７）
    - 第二係長（兼）―― 調査担当＜土木＞（５）
  - 調査第二課長
    - 主査（２）
    - 調査担当＜近畿道＞（２、派３）
    - ＜松多バイパス＞（１）
    - 第二係長（兼）―― 調査担当＜国１バイパス＞（１）
    - 第三係長（兼）―― 調査担当＜中勢道路＞（３、派２）
  - 管理指導課長（兼）
    - 管理指導担当（４）
    - 研修生（３）

職員数４０名（兼務１１名、専任２９名、派遣５名）

〔分掌事務〕

総務課

1．公印の管理に関すること
2．職員の身分及び服務に関すること
3．予算及び経理に関すること
4．給与及び旅費等の支給に関すること
5．契約及び入札事務に関すること
6．施設、設備の保守管理に関すること
7．文書の収発に関すること
8．職員の健康、福利厚生に関すること
9．防災管理に関すること
10．その他他課に属さないこと

調査第一課

1．埋蔵文化財保護にかかる文化振興課ならびに関係部局との連絡調整に関すること
2．県関係公共事業における埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
3．市町村埋蔵文化財保護の指導に関すること

調査第二課

1．近畿自動車道に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
2．国道１号亀山バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
3．国道23号中勢道路に関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
4．国道42号松阪多気バイパスに関する埋蔵文化財の発掘調査及び保護に関すること
5．建設省、日本道路公団との調整協議と事務処理に関すること

管理指導課

1．遺物収納倉庫の管理に関すること
2．整理済み出土品の収蔵及び保管に関すること
3．遺跡及び遺物の実測図・写真等の整理及び保管に関すること
4．関係図書等の整理及び保管に関すること
5．遺跡台帳、遺跡地図の整備及び保管に関すること
6．出土品の洗浄・注記・接合・復元及び実測等に関すること

7．出土品の科学的保存処理に関すること
8．埋蔵文化財展に関すること
9．遺跡及び遺物等資料の貸出、掲載許可等に関すること
10．センター通信及び埋蔵文化財年報等の刊行に関すること
11．埋蔵文化財行政調査等に関すること
12．市町村の埋蔵文化財調査・文化財展等の指導及び協力に関すること
13．埋蔵文化財発掘調査技術の研修に関すること
14．埋蔵文化財センター内外の各種会議に関すること

〔職員〕

所　長　　中林　昭一　（斎宮歴史博物館館長兼務）
次　長（事務）　東谷　　勇　（斎宮歴史博物館次長兼務）
〃　（技術）　山澤　義貴

総務課
課長　青木　眞一　（斎宮歴史博物館兼務）
主査　池野　加代子（　〃　）
主事　堀内　稔伸　（　〃　）
〃　寺前　秀紀　（　〃　）

調査第1課
課長　伊藤　克幸
主査　倉田　直純

第1係
係長　倉田　直純（主査兼務）
主事　増田　安生
〃　吉澤　　良
〃　福田　哲也
〃　石川　隆朗
〃　森川　幸雄
技師　泉　　雄二
〃　穂積　裕昌

第2係
係長　倉田　直純（主査兼務）
主事　川戸　達也
〃　上村　安生
〃　斎藤　直樹
〃　浜口　　元
技師　伊藤　裕偉

調査第2課
課長　新田　　洋
主査　駒田　利治
〃　田中喜久雄

第1係
主事　河瀬　信幸
〃　河北　秀実
〃　角谷　泰弘（伊勢市から派遣）
〃　稲本　賢治（多気町から派遣）
〃　前川　嘉宏（玉城町から派遣）
技師　野原　宏司

第2係
係長　駒田　利治（主査兼務）
主事　森川　常厚

第3係
係長　駒田　利治（主査兼務）
主事　渡辺　尚登
〃　近藤　　健
〃　天野　秀昭
〃　村木　一弥（津市から派遣）
〃　山口　　格（津市から派遣）

管理指導課
課長　山澤　義貴（次長兼務）
主事　田村　陽一
〃　小坂　宜広
〃　杉谷　政樹
〃　小林　　秀
研修生　高崎　　仁
〃　中浦　基之
〃　伊藤　徳也

〔施設〕

三重県埋蔵文化財センター

所在地　多気郡明和町竹川503番地

TEL　05965-2-1732 ・3800　FAX 05965-2-3724

面積　敷地面積 18,000 ㎡

建築面積　4,537 ㎡

延床面積　5,077 ㎡

構造　鉄筋コンクリート造　1階（1部2階）建

（建物は斎宮歴史博物館と共用）

遺物収納倉庫

桜橋収納倉庫	津市桜橋2丁目126	TEL　0592-27-2465
藤方収納倉庫	津市藤方2283-1	TEL　0592-24-4560
上野収納倉庫	上野市丸之内117	TEL　0595-24-0079

現場整理所

近畿自動車道玉城整理所	度会郡玉城町勝田2837-1 TEL　059658-4520　FAX 059658-7029
国道42号松阪・多気バイパス整理所	松阪市射和町16-1 TEL　0598-29-4643　FAX 0598-29-4553
国道1号亀山バイパス整理所	亀山市和田町1278-9 TEL　05958-2-2581　FAX 05958-3-1866
国道23号中勢道路整理所	津市納所町字西沢田481 TEL　0592-29-2770　FAX 0592-29-2771

II. 平成３年度緊急発掘調査

１．緊急発掘調査調査一覧

本年度、当埋蔵文化財センターが実施した発掘調査は98遺跡、約63,000㎡（試掘調査を含む）、市町村教育委員会が実施した発掘調査は95遺跡、約106,000㎡である。これらのほとんどは開発事業に伴う事前の緊急発掘調査であるが、遺跡の解明あるいは保存整備のための調査も、城之越遺跡・斎宮跡・伊勢国分寺跡・夏見廃寺等で実施している。

また、城之越遺跡は、県史跡（12,000㎡）に新たに指定された。

県（埋蔵文化財センター）担当分　　（※は国費補助事業）

No	遺跡名	所在地	原因	費用負担
1	東樺野２号墳	亀山市管内町	国道改良	県土木部
2	阿野田遺跡	〃　阿野田町	〃	〃
3	大石遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部 〃
4	大里西沖遺跡	津市大里睦合町	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
5	南所遺跡	〃大里野田町		〃
6	若林遺跡	〃　〃	〃	〃
7	小谷Ａ・Ｃ遺跡	〃大里山室町	〃	〃
8	六大Ｂ遺跡	〃大里窪田町	中勢道路建設	建設省
9	橋垣内遺跡	〃　〃	〃	〃
10	大古曽遺跡	〃一身田	〃	〃
11	宮野広遺跡	一志郡嬉野町宮野	県営ほ場整備	県農林水産部
12	高瀬Ｂ遺跡	〃　白山町北家城	〃	〃
13	曲里中遺跡	松阪市曲町	〃	県教育委員会※ 県農林水産部 〃
14	王子遺跡	〃　伊勢寺町	河川改修	県土木部
15	桜垣内遺跡	〃　大足町	県営ほ場整備	県農林水産部
16	阿形遺跡	〃　阿形町	〃	県教育委員会※ 県農林水産部 〃
17	ヒタキ廃寺	〃　〃	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
18	打田遺跡	〃　岡本町	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
19	下恵本遺跡	〃　笹川町	〃	〃
20	宮浦遺跡	〃　西黒部町	〃	〃
21	長瀬遺跡	〃　〃	〃	〃
22	天王遺跡	〃　〃	〃	〃
23	朱中遺跡	〃　射和町	松阪多気バイパス建設	建設省
24	鴻ノ木遺跡	〃　〃	〃	〃
25	上ノ垣内遺跡	多気郡多気町荒蒔	県営ほ場整備	県農林水産部
26	本郷遺跡	〃　明和町明星	〃	県教育委員会※ 県農林水産部

27	上ノ山遺跡	度会郡玉城町勝田	県道改良	県土木部
28	波瀬Ｂ遺跡	〃　〃　下田辺	〃	〃
29	古市・中之地蔵町遺跡	伊勢市中之町・桜木町	近畿自動車道建設	日本道路公団
30	杉葉崎遺跡	〃　朝熊町	県道改良	県土木部
31	西殿遺跡	志摩郡阿児町国府	〃	〃
32	藤林長門守城跡	阿山郡阿山町東湯舟	〃	〃
33	馬田Ｂ遺跡	〃　〃　馬田	県営ほ場整備	県農林水産部
34	馬田Ｃ遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
35	外山大坪遺跡	上野市外山	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
36	伊賀国府推定地	〃　坂ノ下	〃	県教育委員会※ 県農林水産部
37	馬場遺跡	〃　沖	〃	〃
38	鉾坪遺跡	〃　印代	〃	〃
39	北城Ｇ・Ｆ遺跡	〃　羽根	〃	〃
40	風呂ノ上遺跡	〃　下友生	県道改良	県土木部
41	城之越遺跡	〃　比土	県営ほ場整備・農免道路はか	県教育委員会※ 県農林水産部 〃
42	勝地大坪遺跡Ａ地区	名賀郡青山町勝地	県営ほ場整備	県教育委員会※ 県農林水産部
43	勝地大坪遺跡Ｂ地区	〃　〃　妙楽寺	〃	〃
44	天久保遺跡	名張市滝之原	〃	〃

県（埋蔵文化財センター）担当分試掘

ア	市場寺屋敷跡	員弁郡藤原町本郷	県道改良	県土木部
イ	精好遺跡	〃　北勢町奥村	県営ほ場整備	県農林水産部
ウ	稲生Ｉ-4号窯跡	鈴鹿市稲生町	中勢道路建設	建設省
エ	南谷遺跡	〃　稲生町	〃	〃
オ	南畑遺跡	〃　西庄内町	県道改良	県土木部
カ	西庄内遺跡	〃　〃	〃	〃
キ	水巻遺跡	〃　高岡町	〃	〃
ク	須賀遺跡	〃　須賀町	〃	〃
ケ	中之庄古墳	亀山市中之庄町	国道改良	〃
コ	目細遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備	県農林水産部
サ	金谷遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
シ	横山遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
ス	小野平遺跡	〃　〃　小野平	県道改良	県土木部
セ	西野々遺跡	津市大里山室町	県営ほ場整備	県農林水産部
ソ	石田３号墳	〃大里野田町	農免道路	〃
タ	多為遺跡	〃大里睦合町	県営ほ場整備	〃
チ	東裏遺跡	〃大里野田町	〃	〃
ツ	大里西沖遺跡	〃大里睦合町	〃	〃
テ	南所遺跡	〃　〃	〃	〃
ト	小野田古墳群	〃大里小野田町	農免道路	〃

ナ	睦合Ａ古墳	津市大里睦合町	〃	〃
ニ	睦合Ｂ古墳群	〃　〃	〃	〃
ヌ	すの坪古墳群	〃大里川北町	〃	〃
ネ	橋垣内遺跡	〃大里窪田町	県道改良	県土木部
ノ	大垣内遺跡	〃　〃	〃	〃
ハ	西岡１・２号墳	〃河辺町字西岡	中勢道路建設	建設省
ヒ	細谷古墳	〃大字垂水	免許センター建設	土地開発公社
フ	的場遺跡	久居市榊原町	県道改良	県土木部
ヘ	淵草遺跡	一志郡嬉野町小原	〃	〃
ホ	土井沖遺跡	〃　美杉村上多気	国道改良	〃
マ	上蛸路Ａ遺跡	松阪市蛸路町	県道改良	県土木部
ミ	上蛸路Ｂ遺跡	〃	〃	〃
ム	池上遺跡	〃　西黒部町	県営ほ場整備	県農林水産部
メ	小狐遺跡	〃　〃	〃	〃
モ	寺浦遺跡	〃　〃	〃	〃
ヤ	下〆遺跡	〃　〃	〃	〃
ユ	渕ノ上・道賈遺跡	〃　六根町・腹太町	〃	〃
ヨ	甘糟遺跡	多気郡多気町荒蒔	松阪多気バイパス建設	建設省
ラ	多気条里遺構跡	〃　〃　〃	〃	〃
リ	発シＡ遺跡	〃　明和町有爾中	県道改良	県土木部
ル	城之前遺跡	度会郡度会町和井野	県営ほ場整備	県農林水産部
レ	小広木遺跡	〃　〃　田間	〃	〃
ロ	前山遺跡	〃　〃　〃	〃	〃
ワ	ワダ遺跡	〃　南勢町宿浦	国道改良	県土木部
ヲ	鹿田西遺跡	伊勢市楠部町	県道改良	〃
ン	一宇田古墳群	〃　〃	〃	〃
あ	蝮尾遺跡	〃　久世戸町	近畿自動車道建設	日本道路公団
い	沖玉新田古墳	度会郡二見町三津	道路改良	県土木部
う	穴川遺跡	志摩郡磯部町穴川	県道改良	〃
え	一丁田遺跡	上野市服部羽根	県営ほ場整備	県農林水産部
お	川南Ａ遺跡	名賀郡青山町勝地	県道改良	県土木部
か	川南遺跡	〃　〃　〃	県営ほ場整備	県農林水産部
き	滝地区	名賀郡青山町滝	〃	〃
く	滝之原地区	名張市滝之原	〃	〃

県（斎宮歴史博物館）担当分

No	45	斎宮跡※	重要遺跡確認	斎宮歴史博物館	H3.4.8～H4.1.21	3,984㎡

調査次数	調査面積（㎡）	調査期間	地番・地籍	備考
90	1,420	H3.4.8～7.16	明和町斎宮字西加座2680他	計画発掘調査
91	624	H3.7.17～12.5	明和町竹川字中垣内393他	〃
92	220	H3.8.5～9.9	明和町斎宮字鍛冶山2734-2	〃
93	1,500	H3.9.30～H4.1.17	明和町斎宮字内山3045他	〃
94	220	H3.11.18～H4.1.21	明和町斎宮字御館2942	〃

No	45	斎宮跡※	史跡現状変更	明和町	H4.1.6～H4.3.31	1,550㎡

調査次数	調査面積(㎡)	調査期間	地番・地籍	原因	調査機関
89-1	200	H4.1.6～1.16	明和町斎宮3043-3	近鉄斎宮駅々舎改築	斎宮歴史博物館
89-2	1,190	H4.1.20～3.31	明和町斎宮2432-2他	盛土	〃
89-3	160	H4.1.20～1.24	明和町斎宮	近鉄斎宮駅ホーム延伸	〃

市町村担当分　　（※は国・県費補助事業）

No.	遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
46	白瀬城跡	員弁郡藤原町本郷字東中森	工業団地開発	町教委	町
47	段遺跡	〃　員弁町石仏	店舗拡張	〃	事業者
48	村前遺跡	〃　東員町瀬古泉字村前ほか	工場建設	〃	〃
49	西金井遺跡	桑名市西金井字高添ほか	土地改良	市教委	市
50	縄生廃寺跡	三重郡朝日町大字縄生字中谷	緊急調査	町教委	町　※
51	赤堀城跡	四日市市城西町 319-1ほか	分譲住宅建設	市教委	事業者
	〃	〃　城東町263-9	地中送電線新設工事	市遺跡調査会	〃
52	小割Ｂ遺跡	〃　美里町字小割～北山	市道改良	市教委	〃
	〃	〃　〃　〃6753-4ほか	店舗建築	〃	〃
53	貝野遺跡	〃　東坂部町602ほか	宅地造成	〃	〃
54	南かに島遺跡	〃　赤水町1274.1276	宅地造成	〃	〃
55	御池古墳群	〃　西坂部字足洗2646-1ほか	造成工事	市遺跡調査会	〃
56	北野遺跡・四ッ谷橋北方遺跡	〃　桜町字北野7822ほか	県道改良	市教委	県土木部
57	小判田遺跡	〃　芝田二丁目99-1、99-12	事務所建設	〃	事業者
58	宮の西遺跡	〃　中川原二丁目122-2 ほか	個人住宅建築	〃	市教委
59	西野山遺跡	〃　南小松町字西野山	工場建設	市遺跡調査会	〃
60	寺山遺跡	鈴鹿市高岡町字寺山	水道施設道路建設	〃	事業者
61	南谷遺跡	〃　稲生町字稲生山	鉄塔建設	〃	〃
62	伊勢国府推定地	〃　国府町字木曽田・高畔	モータープール建設	市教委	〃
63	大塚山古墳	〃　御薗町字池ノ谷	工業団地造成	〃	〃
64	伊勢国分寺跡	〃　国分町字南浦ほか	学術調査	〃	〃　※
65	塚腰遺跡	〃　郡山町字塚腰	市道側溝工事	〃	市
66	沢城跡	〃　飯野寺家町字城掛り	店舗建設	〃	事業者
67	北ノ添遺跡	〃　北玉垣町字北ノ添	宅地造成	市遺跡調査会	〃
68	南畑遺跡	〃　西庄内町字南畑	県道改良	〃	県土木部
69	上箕田遺跡	〃　中箕田町字上月	消防分署建設	市教委	市
70	石薬師寺	〃　石薬師町字古里	学術調査	〃	〃
71	石薬師東方遺跡	〃　河田町字丸山	市道改修	〃	〃
72	沢城・沢遺跡	〃　西条町字城之西	住宅建設	〃	事業者
73	大垣内古墳	亀山市山下町字大垣内	道路建設	〃	市
74	鈴鹿関関連遺跡	鈴鹿郡関町新所字東町北	宅地造成	町教委	事業者
75	県史跡西の追分	〃　〃　〃　字権現地内	道路改良	〃	町
76	峯治城跡	津市一身田上津部田	宅地造成	市教委	事業者
77	渋見砦跡	〃　渋見町	〃	〃	〃
78	六大Ｂ遺跡	〃　大里窪田町	圃場整備	〃	土地改良区
79	位田東遺跡	〃　北河路町	産業振興センター建設	〃	事業者
80	平田遺跡	〃　〃	〃	〃	〃
81	蔵田遺跡	〃　〃	〃	〃	〃
82	北ノ垣内遺跡	〃　高茶屋小森町	宅地造成	〃	〃
83	雲林院青木遺跡	安芸郡芸濃町雲林院字青木	土地改良事業	町教委	町
84	下川遺跡	〃　〃　〃　字宗下ほか	県道改良	〃	県土木部
85	内多馬場遺跡	〃　安濃町大字内多字馬場	工事団地造成	町遺跡調査会	町
86	平塚遺跡	〃　〃　大字戸島字平塚	〃	〃	〃

87	岡副遺跡	安芸郡安濃町大字川西字岡副	農村集落道新設	〃	〃
88	天野山遺跡	〃　〃　大字今徳字天野山	宅地造成	町遺跡調査会	事業者
89	南口遺跡	〃　〃　大字内多字南口	〃	町教委	〃
90	西前野遺跡	〃　〃　大字今徳字西前野	工場建設	〃	〃
91	蛇ケ谷合野遺跡	〃　〃　大字田端上野字北合野	町道拡幅	〃	〃
92	川南中世墓	〃　美里村家所3465ほか	工業団地造成	村教委	村
93	久居城址	久居市西鷹跡町	県道新設	市教委	県土木部
94	赤坂遺跡	〃　木造町字赤坂	農道改良	〃	県農林部
95	里ノ内遺跡	〃　川方町字里ノ内	民間宅地開発	〃	事業者
96	野田遺跡	一志郡嬉野町大字野田	宅地造成	町教委	〃
97	ミツコベ古墳	〃　〃　須賀字ミツコベ	道路建設	〃	町
98	上尾土窯跡	〃　〃　大字滝之川	ゴルフ場建設	〃	事業者
99	下沖遺跡	〃　〃　大字宮野字下沖	県営ほ場整備	〃	県農林部
100	下之庄東方遺跡	〃　〃　大字中川	区画整理	〃	整理組合
101	中川西遺跡	〃　〃　〃　〃	〃	〃	〃
102	小谷遺跡	〃　〃　大字天花寺	霊園拡張	〃	宗教法人
103	片野遺跡(４次)	〃　一志町片野字北浦	共同住宅建設	〃	事業者
104	薬師谷古墳群	〃　〃　八太	ゴルフ場建設	〃	〃
105	世古地内	〃　美杉村大字下多気世古地内	宅地造成	村教委	〃
106	涌早崎遺跡	松阪市大津町涌早崎	民間宅地造成	市教委	〃
107	松阪城	〃　殿町	公共施設設置	市教委	市
108	立岡山古墳群	多気郡多気町大字相可字立岡谷	住宅団地造成	町教委	事業者
108	立岡山中世墓群	〃　〃　〃	〃	〃	〃
109	明気古墳群 1～15号墳	〃　〃　〃字明気	住宅団地造成	〃	〃
110	石塚谷古墳	〃　〃　大字荒蒔字石塚谷	工業団地造成	〃	〃
111	倉懸古墳群１～３号墳	〃　〃　大字五佐奈字倉懸	〃	〃	〃
112	平松東方遺跡	〃　〃　大字土羽字平林	事務所建設	〃	〃
113	戸峯Ｂ遺跡	〃　明和町大字池村字戸峯	資材置場造成	〃	町
114	粟垣外遺跡	〃　〃　大字坂本字粟垣外	住宅等造成	〃	〃
115	坂本古墳群	〃　〃　〃字西垣外	共同住宅建設	〃	〃
116	六軒屋遺跡	度会郡小俣町湯田	企業施設新設	〃	事業者
117	大仏八端古窯・西部屋西遺跡	〃　玉城町長更酒部屋西	競技場建設	〃	小俣町
118	乗入田遺跡	〃　〃　〃	小学校防音工事	〃	町
119	田丸城址	〃　〃　田丸	石積修復	〃	〃
120	細尻・東沢遺跡	〃　〃　世古字細尻	店舗造成	〃	事業者
121	安養寺跡・豆石山経塚ほか	〃　二見町溝口・山田原	住宅等造成	〃	〃
122	向井古墳	〃　紀勢町錦字向井	林道開設	〃	町
123	昼河古墳群	伊勢市朝熊町字昼河	世界祝祭博会場造成	市教委	市
124	隠岡遺跡	〃　倭町字隠岡	敷地造成	〃	宗教団体
125	皆戸遺跡	〃　東大淀町字皆戸	小学校プール造成	〃	市
126	袴田遺跡	〃　磯町字コウダ	倉庫建設	〃	事業者
127	下屋敷遺跡	〃　旭町字下屋敷	マンション建設	〃	〃

128	まこも遺跡	伊勢市上地町字まこも	工事建設	市教委	事業者
129	阿津里貝塚	志摩郡志摩町	道路改良	町教委	町
130	釜ノ平遺跡	熊野市有馬町松原	工場建設	市教委	事業者
131	北門遺跡	上野市大谷字北門 670ほか	教育会館用地造成	市遺跡調査会	事業者
132	堂垣内・大多田遺跡	〃　佐那具町字堂垣内・大多田・澤	工業団地造成	〃	〃
133	鳥ケ峰遺跡	上野市下友生字鳥ケ峰	宅地造成	市遺跡調査会	事業者
134	西蓮寺中近世墓	〃　長田字垣内	墓地整備	〃	〃
135	堂垣内館址	〃　佐那具町字堂垣内	工場建設	〃	〃
136	三反田遺跡	〃　〃　字三反田	アパート建設	〃	〃
137	森脇・城田遺跡	〃　市部字森脇上野 〃　佐那具町字城田	新都市開発整備	〃	市
138	上野新都市整備事業地内遺跡群	〃　下友生・中友生・依那具・市部地内	〃	〃	〃
139	夏見廃寺	名張市夏見	史跡整備	市教委	市
140	名張藤堂家邸跡	〃　丸之内	〃	遺跡調査会	〃

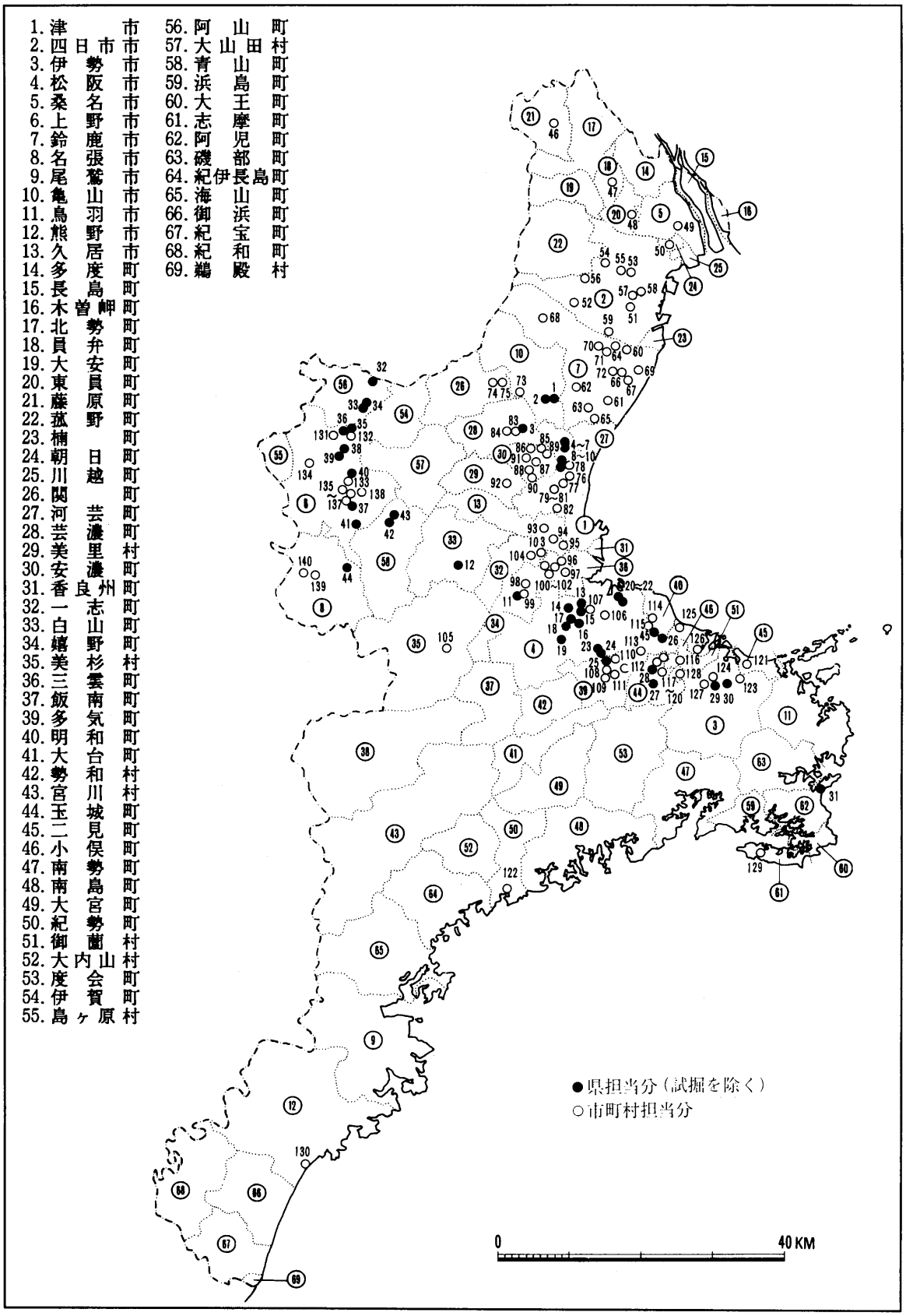


図1　平成3年度三重県内発掘調査遺跡位置図

2．発掘調査の概要

No.	1	遺跡名	東榊野２号墳	所在地	亀山市菅内町字上野
調査原因	国道306号線道路改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.8.21～10.15	調査面積	240㎡	担当者	伊藤　裕偉・伊藤　徳也

遺　跡　の　概　要

東榊野古墳群（９基、３～８号墳は消滅）中の一基である。埋葬施設は一基のみで、割竹形本棺と考えられる。須恵器壺、杯、鉄鏃、刀子、石製紡錘車が出土した。埋葬施設の時期はＴＫ43と考えられるが盛土下にＴＫ10の竪穴住居があり、関連が注目される。その他には、縄文早期末・弥生後期の土器、磨石、石斧および中～近世土師器・陶器がある。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
東榊野２号墳	円	径13.5	割竹形木棺１基	須恵器、土師器 鉄鏃、刀子、石製紡錘車	ＴＫ43	盛土下に竪穴住居あり

関連文献

No.	2	遺跡名	阿野田遺跡（立会）	所在地	亀山市阿野田町
調査原因	国道306号線道路改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.8.12	調査面積	43㎡	担当者	上村　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
周知の阿野田遺跡の縁辺部にあたる。	なし	・土師器

関連文献

No.	3	遺跡名	大石遺跡	所在地	安芸郡芸濃町椋本
調査原因	県営ほ場整備事業事	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.5.8～8.12・H3.10.11～10.30	調査面積	3,600㎡	担当者	森川　幸雄・伊藤　徳也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本調査3,000㎡、立会調査600㎡を実施した。 調査の結果、縄文時代中期後半・平安時代後期から鎌倉時代前半・近世の遺構、遺物を確認した。 縄文時代中期後半の竪穴住居は、いずれも、方形の石組炉をもつもので、うち１棟からは多量の土器片が出土した。これらは、炉内及び壁際からの遺物の出土が少ないことから、竪穴住居廃絶後に一括廃棄されたものと考えられる。なかには、復元可能なものも多く、当時期の土器の器種構成や編年を考えるうえで貴重な資料となる。 平安時代後期から鎌倉時代前半の掘立柱建物には、南東隅土坑をもつものが３棟ある。土坑墓には、頭蓋骨が出土しているものも見られる。石組土坑は、壁に２～３段の石組みを行うもので、性格は不明である。 その他、近世の石組溝などがある。	○縄文時代 ・竪穴住居３棟 ・土坑５基 ・埋甕１基 ○平安時代後期から鎌倉時代前半 ・掘立柱建物23棟 ・土坑墓12基 ・石組土坑１基 ・井戸１基 ○近世 石組溝	・深鉢・鉢 ・局部磨製異形石器１点 ・磨製石斧１点 ・石錘４点・石鏃１点 ・土師器皿、鍋 ・山茶椀 ・青磁椀、皿 ・白磁椀、皿 ・石鍋 ・小刀 ・石臼

関連文献

No.	3	遺跡名	大石遺跡（立会）	所在地	安芸郡芸濃町椋本
調査原因	中勢用水建設事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H.3.10.2～10.9	調査面積	350㎡	担当者	森川　幸雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平安時代後半から室町時代の遺構遺物が出土している。 主な遺構に、室町時代の石組井戸、石組土坑、大溝などがある。石組土坑は、壁に2～3段の石組が見られるもので、性格は不明である。	・石組井戸1基 ・石組土坑1基 ・大溝2条	・黒色土器椀 ・土師器皿、羽釜 ・擂鉢 ・山茶椀

関連文献	

No.	4	遺跡名	大里西沖遺跡	所在地	津市大里睦合町字西沖
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H.3.9.17～11.12	調査面積	2,100㎡	担当者	伊藤　裕偉・伊藤　徳也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
南にゆるやかに傾斜する平地である。縄文時代中期末頃の竪穴住居・土坑などのほか、奈良～平安時代の集落、室町後半の水路・道路が確認された。縄文土器は当該地域の良好な資料である。また、奈良～平安時代の建物には「総通し柱構造」のものがあり、注目される。	○縄文時代 ・竪穴住居1棟 ・土坑数基 ○奈良～平安時代 ・掘立柱建物6棟	○縄文時代 ・深鉢、石斧 ○奈良～平安時代 ・製塩土器、灰釉陶器

関連文献	

No.	5	遺跡名	南所遺跡（立会）	所在地	津市大里野田町字南所
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.5.13～5.29・H3.10.23～11.8	調査面積	1,660㎡	担当者	伊藤　裕偉

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
大里野田集落の南に隣接する。奈良時代頃～室町時代後半にかけての遺構を認めた。特に、室町時代後半では区画溝を伴った屋敷地を検出した。	○奈良時代 ・掘立柱建物 ○鎌倉～室町時代 ・掘立柱建物、道状遺構、区画溝	須恵器、土師器、灰釉陶器、中世の土師器（鍋、羽釜、皿）、陶器（常滑、瀬戸、信楽）

関連文献	

No.	6	遺跡名	若林遺跡（立会）	所在地	津市大里野田町字若林
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.11.14	調査面積	140㎡	担当者	伊藤　裕偉

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
遺跡の北東隅にある。遺構は検出されなかった。		・近世瓦質土器羽釜、 ・近世以降の陶器

関連文献	

No.	7	遺跡名	小谷A・C遺跡（立会）	所在地	津市大里山室町
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.11.5～11.14	調査面積	小谷A遺跡300㎡小谷C遺跡150㎡	担当者	森川　幸雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
小谷A遺跡 時期不明の焼土坑1基、溝3条が確認された。遺物はほとんど見られない。	・焼土坑ほか	・なし
小谷C遺跡 見るべき遺構は、確認されなかった。遺物は、磨製石斧1点、磨石・敲石類1点、石錘1点、縄文時代中期後半の土器片、須恵器片、山茶椀片などが出土している。	・なし	・磨製石斧1点 ・磨石・敲石類1点 ・石錘1点

関連文献

No.	8	遺跡名	六大B遺跡（B～F・H地区）	所在地	津市大里窪田町字竹花ほか
調査原因	一般国道23号中勢道路建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	B～F地区H3.10.16～12.4 H地区H3.5.7～9.3	調査面積	B～F地区620㎡H地区2,800㎡	担当者	村木一弥・近藤　健・天野秀昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
六大B遺跡は志登茂川とその支流毛無川に挟まれた河岸段丘が大里窪田町の集落から南側の毛無川に向かって緩やかに傾斜する段丘各面及び低地に立地している。 今年度はB～F地区のパイロット道路部分の補完調査とH地区の本調査を実施した。 B～F地区では昨年同様飛鳥・奈良～平安時代の掘立柱建物などを検出した。遺物は日常雑器を中心に緑釉陶器や石帯などが出土した。 H地区では調査区の南半で毛無川の旧河道を検出した。出土遺物から鎌倉～室町時代の旧河道と考えられる。	B～F地区 ○飛鳥・奈良時代 ・掘立柱建物3棟 ・土坑3基 ○平安時代 ・掘立柱建物5棟 ・溝1条 ○鎌倉時代 ・井戸1基 H地区 ○中世 ・旧河道1条 ○近世以降 ・溝3条	・土師器 ・須恵器 ・灰釉陶器 ・緑釉陶器 ・山茶椀 ・天目茶椀 ・石帯（巡方）1点

関連文献

No.	9	遺跡名	橋垣内遺跡B地区	所在地	津市大里窪田町字橋垣内
調査原因	一般国道23号中勢道路建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.11.11～12.4	調査面積	100㎡	担当者	村木　一弥・近藤　健

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
橋垣内遺跡は、志登茂川の支流である毛無川の右岸の低地・下位段丘に立地する。 今年度は、一昨年度調査を行ったB地区の大溝のパイロット道路部分の補完調査を行った。 調査の結果、大溝のほか、掘立柱建物1棟、井戸1基が検出され、須恵器・土師器・灰釉陶器などの土器や、櫛、下駄、弓、曲物などの木製品が出土した。	○飛鳥時代 ・掘立柱建物　1棟 ・井戸　1基 ○飛鳥～平安時代 ・大溝　1条	大溝 ・土師器、須恵器 ・灰釉陶器 ・弓、曲物 井戸 ・土師器、須恵器 ・櫛、下駄

関連文献

No.	10	遺跡名	大古曽遺跡	所在地	津市一身田大古曽字山ノ口
調査原因	一般国道23号中勢道路建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.7.1～H4.1.16	調査面積	5,160㎡	担当者	渡辺尚登・山口　格・天野秀昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
見当山丘陵北側の扇状地及び毛無川右岸に広がる下位段丘上に立地する。橋垣内遺跡と北接し、現況は水田である。 道路予定地内遺跡面積は14,200㎡で、本年度はA・B・CのうちB地区5,160㎡を調査した。 検出した遺構は、掘立柱建物、土坑墓・溝などで飛鳥・奈良時代と鎌倉時代のものである。 出土した遺物は、石鏃から磁器まで時期幅は広いが、少ない。	○飛鳥・奈良時代 ・掘立柱建物　3棟 ・土坑　1基 ・溝　1条 ○鎌倉時代 ・土坑墓　4基 ・大溝　1条 ・溝　1条 ○その他 ・掘立柱建物　1棟 ・井戸　1基 ・牛の足跡群	・須恵器 ・土師器 ・山茶椀 ・山皿 ・小刀・刀子

関連文献	

No.	11	遺跡名	宮野広遺跡（立会）	所在地	一志郡嬉野町宮野
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.24～9.25	調査面積	170㎡	担当者	吉澤　良

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
遺物を伴わない遺構（土坑）を検出する。時期は不明である。	・土坑　7基 ・溝　3条	なし

関連文献	

No.	12	遺跡名	高瀬B遺跡（立会）	所在地	一志郡白山町北家城
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.10.15～11.12	調査面積	1,000㎡	担当者	増田　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川中流左岸の段丘に位置する。縄文時代早期～鎌倉時代の複合遺跡である。	○縄文時代後期 ・土坑12基以上 ○古墳時代後期 ・竪穴住居3棟 ○平安時代末～鎌倉時代 ・掘立柱建物4棟 ○鎌倉時代 ・土坑2基	○縄文時代早期 市松文・山形文ネガティブ楕円文の押型文土器30点以上。 ○縄文時代後期 中津・福田K2・北白川上層式併行期有文・無文土器100点。 ○弥生時代中期 甕・壺 ○古墳時代後期 土師器甕・須恵器杯

関連文献	

No.	13	遺跡名	曲里中遺跡ほか	所在地	松阪市曲町里中・仁王堂
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.12～9.30	調査面積	860㎡	担当者	増田　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
曲里中遺跡 広義の曲遺跡の4地点を発掘した。A・B・Cは集落跡である。 A地区（300㎡）本調査 B地区（60㎡）本調査 A地区の北50mにある。 C地区（300㎡） 小字は仁王堂、A地区の南200mにある。南北方向道路の西側を線的に立会調査した。 熊野神社跡（200㎡） 曲の集落の北東隅に位置し堀坂川左岸の段丘上に立地する。明治時代に廃絶した神社跡であり、一の鳥居は現曲神社に移築されたという。	・古墳時代後期竪穴住居 ・平安時代末期　土坑2 ・弥生時代後期　土坑 ・鎌倉時代　溝 ・古墳時代前期竪穴住居 ・室町時代後期土坑 ・石敷遺構	・縄文時代後・晩期深鉢 ・古墳時代後期土師器甕、須恵器杯 ・弥生時代後期 ・縄文時代後期深鉢 ・土師器鍋、皿 ・肥前産磁器 ・瀬戸、美濃産陶器皿

関連文献

No.	14	遺跡名	王子遺跡	所在地	松阪市伊勢寺町王子
調査原因	堀坂川小規模河川改修事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.10.15～11.12	調査面積	610㎡	担当者	上村　安生・高崎　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
遺跡の立地は、堀坂川の左岸にあたり、標高は38m前後である。 調査地は、周知の遺跡である。 王子遺跡の縁辺部にあたる。 調査地の大半が旧堀坂川の西岸部にあたる。	○鎌倉時代前半 ・溝1・土坑2・集石遺構1	・土師器皿・鍋 ・山茶椀・山皿 ・施釉陶器壺・甕 ・青白磁合子 ・青磁椀

関連文献

No.	15	遺跡名	桜垣内遺跡（立会）	所在地	松阪市大足町
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.11.1	調査面積	50㎡	担当者	福田　哲也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
古墳時代初めの遺跡で大足遺跡に接し、阿形遺跡の約200m北に位置する。	遺構なし	・高杯、山茶椀

関連文献

No.	16	遺跡名	阿形遺跡	所在地	松阪市阿形町字海道田
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.17～H4.1.11	調査面積	2,900㎡	担当者	福田　哲也・石川　隆郎

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
阪内川の中流、標高約20mの阿形町集落の南側に阿形遺跡がある。 遺跡は弥生時代後期と平安時代後期～室町時代後期の二つの時期に分かれる。 弥生時代後期の溝は一部に弧を描くところが見られ、幅6m、深さ2mに及ぶものもあった。 調査後電波探査により溝が約100m余の直径をもつ環濠となることがわかった。 また、平安時代後期になると再び集落がつくられ、室町時代の終わり頃まで続いていたことが、検出された多数の建物跡と17基の井戸から判明した。	○弥生時代 ・溝　5条（うち環濠4条） ○古墳時代 ・土坑　1基 ○平安時代後期～室町時代後期 ・掘立柱建物　10棟 （うち総柱建物6） ・井戸　17基 ・中世墓　2基 ・溝、土坑、柵等	・弥生土器 （壷、甕、高杯、台付甕、甑、ミニチュア土器） ・古墳時代土師器 （片口土器、椀、紡錘車） ・土師器 ・皿（墨書を含む） ・鍋、甕、ねり鉢、すり鉢 ・ロクロ土師器（椀） ・山茶椀（墨書を含む） ・山皿 ・山茶椀からの転用硯 ・常滑甕 ※墨書には「艮」「坤」「乾」など方位を示すものもある。 その他 ・呪符「蘇民将来子徒也」 ・石臼 ・瓦器火鉢 ・鉄鍋 ・中世陶器片

関連文献	

No.	17	遺跡名	ヒタキ廃寺	所在地	松阪市阿形町字ヒタキ
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.6.7～7.25	調査面積	800㎡	担当者	福田　哲也・泉　雄二

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
ヒタキ廃寺は平成3年度ほ場整備前の分布調査で新発見の遺跡である。調査の結果、真北方向の3間×3間の総柱の柱穴と瓦の堆積層が確認された。瓦の特徴から奈良時代末から平安時代初めにかけてのものと思われる。また瓦の堆積も軒瓦が一線に並ぶなどの状況から縄生廃寺に次ぐ県下2例目の倒壊建物であることが判明した。建物の性格は現在不明であるが、周囲に目立った遺構がないなどの理由で官衙や伽藍配置の大寺院とは考えられず、仏堂的なものと考えられる。また100m程南に方位を同じくする掘立柱建物群の出ている打田遺跡との関連も考えられる。	・瓦葺き掘立柱建物 南北5.4m×東西4.5m （3間×3間） ・屋根の構造は瓦の分布状況から切妻屋根破風・掛瓦丸納めか、寄棟や入り母屋が考えられる。いずれにしろ総瓦葺きのものである。	・鬼瓦（2～3個体） ・軒丸瓦（約34個体） ・軒平瓦（約27個体） ・平瓦（438枚） ・丸瓦（308枚） ・斗瓦（36枚以上） ・鉄釘（20点） 等 総重量2,879kgの瓦類が出土した。

関連文献	

No.	18	遺跡名	打田遺跡	所在地	松阪市岡本町字打田
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.4.22～8.31	調査面積	3,000㎡	担当者	福田　哲也・泉　雄二

遺跡の概要

打田遺跡は平成2年度県営ほ場整備事業前の分布調査で発見された遺跡である。

調査の結果、奈良時代を中心に飛鳥時代から平安時代にかけての遺物、遺構が検出された。平成2年に2,100㎡を調査済である。

その結果、官衙的配置をもつ掘立柱建物群を検出できた。

遺跡の性格については不明であるが「門」と墨書された土器が十数点出ているのは示唆を与えるものである。

主な遺構

	H2	H3	計
〈飛鳥時代〉			
竪穴住居	2	2	4
〈奈良時代〉			
竪穴住居	21	21	42
掘立柱建物	7	12	19
井戸	2	0	2
溝	1	0	1
柵	0	1	1
〈平安時代〉			
掘立柱建物	0	2	2
井戸	0	1	1
溝	0	1	1

主な遺物

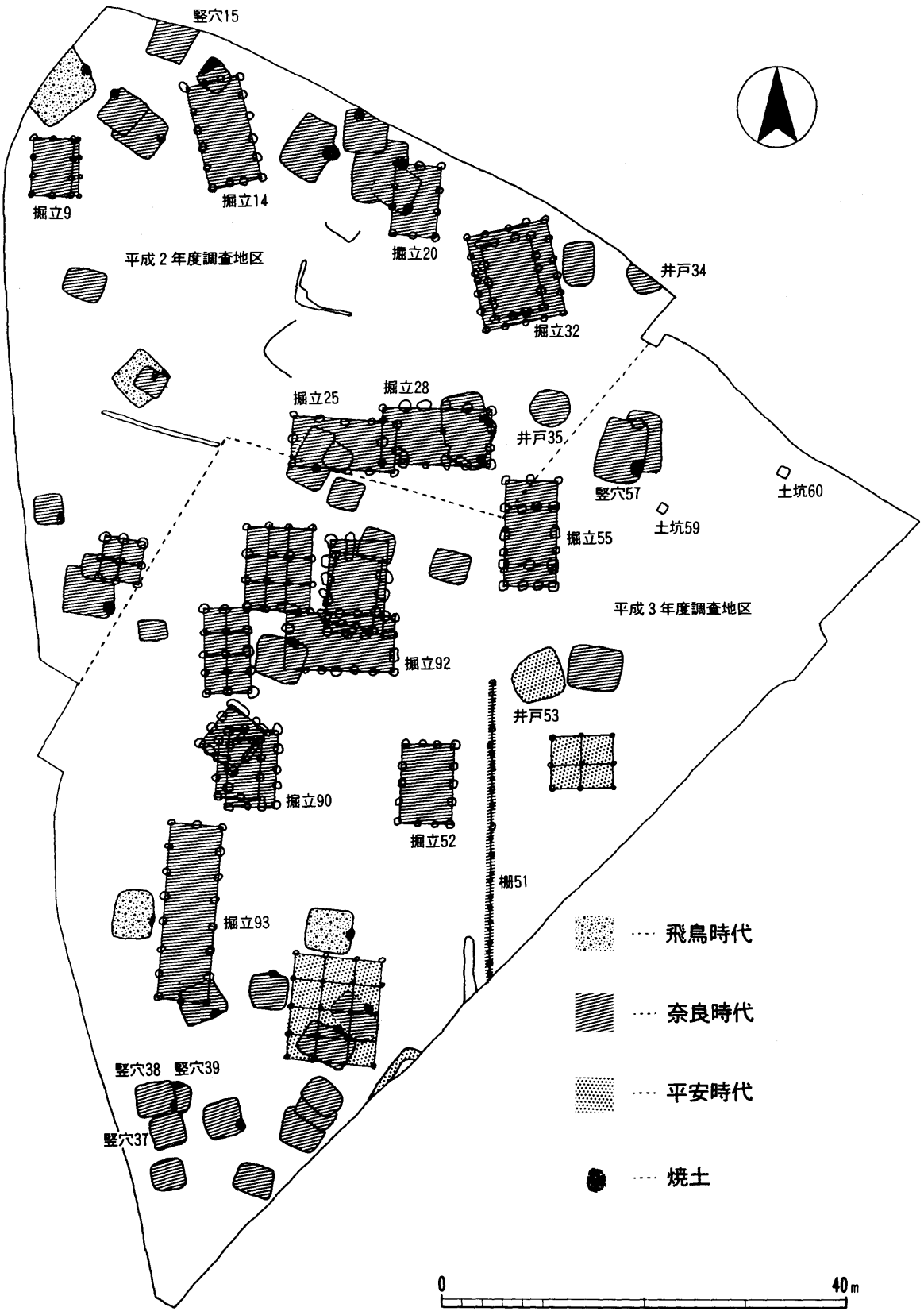
○土師器
- 杯（墨書土器を含む）
- 甕
- 高杯
- 甑
- 皿（墨書土器を含む）
- 椀

○須恵器
- 杯蓋
- 杯
- 甕
- 円面硯（3点）

○製塩土器

○二彩小壺（県下3例目）

関連文献	



打田遺跡遺構略図（１：600）

ヒタキ廃寺　瓦葺き掘立柱建物(瓦層取りはずし後)

ヒタキ廃寺出土軒丸・平瓦

ヒタキ廃寺出土鬼瓦

阿形遺跡溝土器出土状況

阿形遺跡環濠

No.	19	遺跡名	下恵本遺跡（立会）	所在地	松阪市笹川町向下恵本
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.4～9.12	調査面積	260㎡	担当者	吉澤　良

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平安時代末～鎌倉時代初頭にかけての遺跡である。 4間×3間の総柱建物で、南東隅に土杭を伴う建物及び調査区外へ延びる2間×3間以上の建物を検出する。又、B区では、等間隔な溝状遺構を検出する。	・掘立柱建物2棟 ・土坑 ・溝3条	・ロクロ土師器皿 ・山茶椀

関連文献	

No.	20～22	遺跡名	宮浦・天王・長瀬遺跡（立会）	所在地	松阪市西黒部
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.10.2	調査面積	1,000㎡	担当者	増田　安生・高崎　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
・宮浦遺跡150㎡立会調査 排水路部分を調査した。中世の水田2面、道路跡を確認した。 ・天王遺跡440㎡ 長瀬遺跡330㎡については、工事立会を行ったが、明確な遺構は、検出されなかった。	・中、近世水田2面（断面で確認） ・道路跡	・室町時代鍋 ・近世陶器 ・山茶椀・土師器皿

関連文献	

No.	23	遺跡名	朱中遺跡（A・B地区）	所在地	松阪市射和町字朱中
調査原因	一般国道42号 松阪・多気バイパス建設事業	事業主体	建設省中部地方 建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.6.1～H4.3	調査面積	4,800㎡	担当者	田中喜久雄・野原　宏司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
櫛田側中流左岸の標高24～27mの河岸段丘上に位置する。 調査はA地区（2,300㎡）、B地区（2,500㎡）とわけて実施する。 〔A地区〕 奈良～平安時代の掘立柱建物13棟、竪穴住居1棟を確認。古墳時代前期の円形周溝状遺構、室町時代頃の集石遺構を検出。 〔B地区〕 奈良時代～平安時代の竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟を確認。調査区南西端に大溝を検出し、昨年度調査実施した鴻ノ木遺跡（第1次）で確認した旧流水路に続くものと見られる。 調査区南東側の下層から縄文時代早期の押型文土器片が出土するが、遺構は検出されなかった。	〔A地区〕 ・掘立柱建物13棟 （3間×2間が中心） ・竪穴住居1棟 （3.0m×3.2mの方形） ・円形周溝状遺構 （推定直径17m、巾2m、深さ0.5m） ・集石遺構 （一辺3.5m、巾1mで「コ」の字状に残存する。） 〔B地区〕 ・竪穴住居1棟 （3.1m×1.9mの長円形） ・掘立柱建物1棟 （3間×3間） ・大溝 （巾2m、深さ1.5m）	〔A地区〕 ・土馬 ・須恵器、杯、甕 ・土師器、杯、甕 〔B地区〕 ・須恵器杯、甕 ・土師器杯、高杯、甕、甑、壺 ・縄文時代早期の押型文土器片

関連文献	

No.	24	遺跡名	鴻ノ木遺跡（第2次調査）	所在地	松阪市射和町字鴻ノ木
調査原因	一般国道42号松阪・多気バイパス建設事業	事業主体	建設省中部地方建設局	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.4.23～5.31	調査面積	460㎡	担当者	田中喜久雄・野原　宏司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
昨年度から開始された鴻ノ木遺跡の第2次調査にあたり、県道御麻生薗、豊原線沿いに位置する。 調査の結果、奈良・平安～中世を中心とする遺構、遺物が検出された。	・溝 ・土坑 ・ピット ・旧河道	・須恵器、杯、甕 ・土師器杯、甕、鍋 ・縄文時代後・晩期の土器片 ・円筒埴輪片 ・土錘

関連文献

No.	25	遺跡名	上ノ垣外遺跡（立会）	所在地	多気郡多気町荒蒔
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.20	調査面積	290㎡	担当者	高崎　仁

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
前年度の試掘調査により、竪穴住居とみられる遺構が発見された周辺の調査。	・溝1	・土師器小片

関連文献

No.	26	遺跡名	本郷遺跡	所在地	多気郡明和町本郷
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.5.7～8.30	調査面積	4,900㎡	担当者	増田安生・高崎仁・石川隆朗

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本郷の集落を含む20,000㎡の本郷遺跡の北端の畑地を調査。本調査はA地区4,000㎡、B地区600㎡、A地区の西隣りの立会調査部分300㎡の4,900㎡である。 古墳時代初期～明治時代にわたる複合遺跡である。堀、区画溝で5つに区切られる室町時代後期の居館跡として注目される。	○古墳時代前期 ・ピット1基 ○奈良時代 ・掘立柱建物1棟 ・土坑1基 ○平安時代後・末期 ・掘立柱建物3棟以上 ○平安時代末期 ・土坑10基以上 ・井戸1基 ○鎌倉～室町時代 ・掘立柱建物6棟以上 ・土坑50基以上 ○室町時代以降 ・井戸8基 ○その他 ・溝100条前後	○古墳時代前期 ・土師器高杯 ○奈良時代 ・須恵器杯蓋 ・土師器甕、皿 ・土製支脚 ○平安時代後・末期 ・土師器甕、鍋、皿、蓋 ・須恵器甕 ・山茶椀、瓦器椀、白磁椀 〔井戸出土遺物は400個にのぼり、一括性が高い〕 ○鎌倉時代 ・土師器鍋、皿 ・山茶椀、山皿、青磁椀 ○室町時代 ・土師器鍋、皿 ・瀬戸・美濃産施釉陶器 ・天目茶椀、皿

関連文献

No.	27	遺跡名	上の山遺跡	所在地	度会郡玉城町勝田
調査原因	県道度会玉城線道路改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.6.10～7.22	調査面積	1,600㎡	担当者	浜口　元・上村　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
国東山系から北へ派生する低丘陵上に立地する。標高は35m前後である。弥生時代前期より鎌倉時代後半まで人々の生活が営まれていたことを明らかにした。 弥生時代前期の竪穴住居の平面形は東西5.76m、南北5.16mのほぼ円形である。新段階の遺物が出土している。 方形周溝墓は2基検出したが、いずれも一部を検出したにすぎない。 平安時代前期の掘立柱建物のうち1棟は、3間×3間の総柱建物で0.7m前後の方形の柱掘形を持つ。 遺物は整理箱で10箱分程度と少ない。	・弥生時代前期新段階の竪穴住居1 ・弥生時代中期後半Ⅲ様式の方形周溝墓2、溝1 ・平安時代前期（10C前半）の掘立柱建物2、堀1 ・鎌倉時代後半の掘立柱建物4、土坑4、溝1 ・時期不明の溝1、土坑1	・弥生土器（前期新段階） ・土師器 ・山茶椀 ・サヌカイト・チャートの剝片

関連文献	

No.	28	遺跡名	波瀬B遺跡	所在地	度会郡玉城町下田辺
調査原因	県道田丸（T）斎明線道路改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.12.18～H4.3.10	調査面積	1,800㎡	担当者	上村　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
外城田川左岸の標高27m前後の低丘陵南端部に位置する。 弥生時代中期の方形周溝が3基検出されており、調査地は墓域であったと考えられる。平安時代には、集落が営まれており、9C代前半の竪穴住居2、土坑6が検出されている他、10C後半～11C前半の井戸からは、土師器杯・皿・甕、黒色土器椀、灰釉陶器椀が出土している。 鎌倉時代の遺構はみられず、室町時代の15C～16C代の掘立柱建物1、土坑15、溝8、井戸2が検出されており、再び集落が営まれている。	○弥生時代中期 ・方形周溝3・土坑2 ○平安時代前期 ・竪穴住居2 ・土坑6 ○平安時代後期 ・掘立柱建物2 ・井戸1 ○室町時代 ・掘立柱建物1 ・土坑15 ・溝8 ・井戸2	・弥生土器 細頸壺・甕・高杯 ・土師器杯・皿・甕 甕の中には「清郷型」甕が1点ある ・須恵器杯・甕・高杯 ・黒色土器椀 ・土師器皿・鍋 ・灰釉陶器椀 ・緑釉陶器

関連文献	

No.	29	遺跡名	古市・中之地蔵町遺跡	所在地	伊勢市中之町・桜木町
調査原因	近畿自動車道建設事業	事業主体	日本道路公団	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.6.22～H4.3.31	調査面積	2,160㎡	担当者	角谷泰弘・前川嘉宏・河北秀実

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
遺構は、地山までが浅く、家屋の建て替えや整地によってかなり破壊されているため、時代を見極めるのが困難である。建物跡はグリ石の上に礎石を置くものが一般的である。井戸の中に文政二年の銘があるものがある。溝は現在の宅地割とほぼ一致している。 遺物は、肥前の磁器を中心に瀬戸の陶器、在地系の土師器が出土している。多く出土した大甕は常滑産のものと思われる。遺物の時期は18・19世紀のものが中心である。江戸時代中頃から後期に該当する。	・建物跡 ・井戸 ・埋め甕土坑 ・溝など	・磁器 ・椀・皿など 陶器椀・皿・灯明皿 徳利・土瓶・急須擂鉢・甕など ・土師器 皿・小皿・焙烙 鍋・羽釜・壺・茶釜など ・その他 銭貨 キセル 瓦など

関連文献	

No.	30	遺跡名	杉葉崎遺跡（立会）	所在地	伊勢市朝熊町字杉葉崎
調査原因	県道鳥羽松阪線道路改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.8.7～8.13	調査面積	340㎡	担当者	伊藤　裕偉

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
丘陵西斜面に立地。古墳時代末頃の遺構・建物があり、昼河古墳群との関連が想定される。	・古墳時代末頃の落ち込み。 ・鎌倉時代前半の掘立柱建物2棟	・須恵器坏、高坏、壺、ほか ・土師器甕、把手付甕、ほか ・中世鍋、青磁

関連文献	『伊勢を掘る』(1992.2伊勢市郷土資料館)

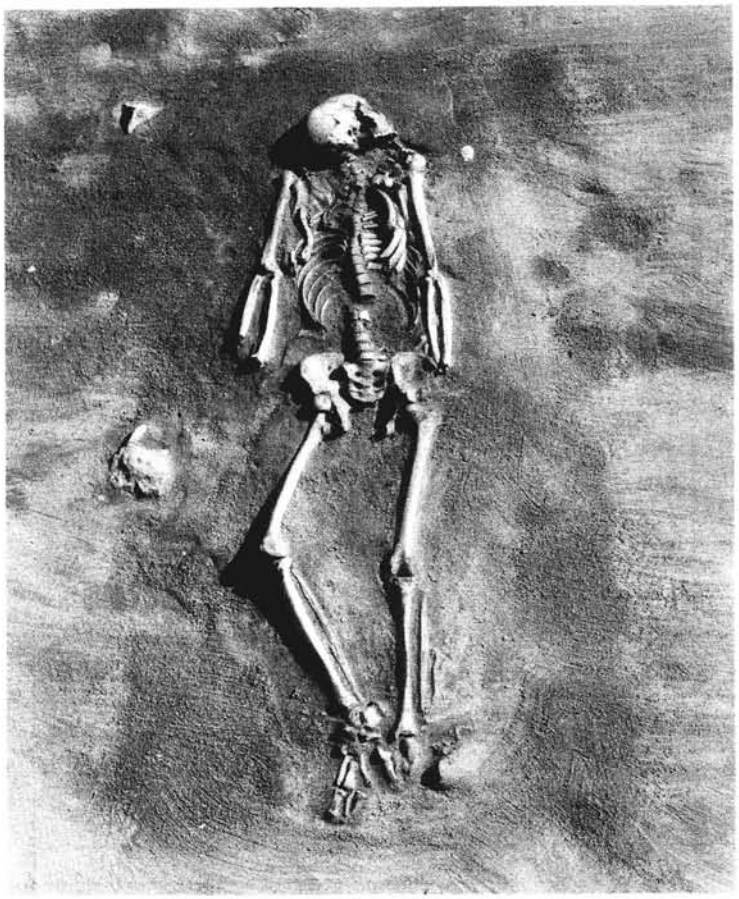
No.	31	遺跡名	西殿遺跡（にしどの）	所在地	志摩郡阿児町国府
調査原因	県道安乗港線道路改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	第1次：H3.7.6～H3.10.7 第2次：H4.1.31～H4.2.19	調査面積	1,400㎡（第1次：1,080㎡ 第2次：320㎡）	担当者	齋藤　直樹・上村　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
・調査区は、太平洋に面する国府白浜海岸と志摩特有の隆起海食台地に挟まれた標高2m前後の沖積低地に立地。 ・1遺跡で25体の人骨が出土したのは県下では初めて。 ・ほとんどの人骨は、頭部を北東～東に向けた伸展葬だが、時期については今後の検討を要する。 ・墓壙は2基確認されたが、副葬品はなかった。 ・後世の再葬の可能性があるのは1体。 ・建物の一つは、柱穴の一つが人骨の腰部を破壊、その柱穴からは16世紀代の土師器鍋の口縁が出土。	○古墳時代 ・土坑　：1基 ○中世 ・掘立柱建物　：2棟（根石を持つ） ・溝　：2条 ○近世以降 ・性格不明遺構　：1基 ○時期不明 ・土坑　：9基 ・溝　：2条 ・墓壙　：2基	○古墳～奈良 ・土師器：高坏・甕壺・甕 ・須恵器：甕・無頸壺 ・管玉 ○中世～近世 ・土師器：皿・鍋 ：内耳鍋（尾張からの搬入か） ・陶　器：山茶椀（1点は転用硯） ・輸入銭 人骨：時期については検討中

人骨No.	埋葬施設	埋葬状況	性別	年齢	残存状況	備考	人骨角度（920130測定）体軸方向	備考
1	—	伸展葬	男性	青年	ほぼ完全な人骨	中世以降の特徴を持つ	N52.00E	
2	—	伸展葬	男性	壮年	下肢の骨のみ	頑丈な人。	N12.30E	
3	—	—	?	子供	頭骸骨のみ		N109.00W	視線の方向
4	—	伸展葬	男性	老年	骨盤と下肢骨	上部は攪乱により破壊消滅	N57.00E	
5	—	伸展葬	男性	老年	ほぼ完全な人骨	骨の病気の痕跡あり、鼠害あり	N64.15E	
6	—	—	?	?	上肢骨と下肢骨の一部。	拡張掘削前に壁ごと崩落	—	
7	墓壙	伸展葬	男性	壮年	頭骸骨と足の一部、残存悪い	残存悪い	N28.00E	
8	—	伸展葬	?	成人	残存悪い	古い骨の可能性あり	(N59.30E～N78.40E)	推定軸線
9	—	伸展葬	?	成人	残存悪い	古い骨の可能性あり、首より管玉出土	(N56.30E～N73.40)	推定軸線
10	—	—	?	子供	頭骸骨のみ	No.24と関連ありか	(N117.00E)	視線の方向
11	—	—	?	子供	残存悪く、骨片のみ		—	
12	—	屈葬	男性	老年	ほぼ完全な人骨	上肢が華奢で下肢が頑丈、縄文人の特徴	N57.15E	
13	石敷	—	?	?	残存悪く、骨片のみ		—	
14	—	伸展葬	?	?	首から下が残存。		N59.00E	
15	—	伸展葬	男性	壮年	ほぼ完全な人骨、柱穴が頭部破壊	江戸時代以前の特徴、柱穴から中世の土師器	N54.30E	
16	—	—	?	熟年	後頭部と上顎部のみ		—	
18	—	伸展葬	?	?	右上肢と下肢の一部	攪乱されている、鼠害あり	N56.00E	
19	—	—	?	?	下肢骨の一部		—	
20	—	伸展葬	?	青年	ほぼ完全な人骨	全体的には女性的な特徴。	N65.45E	
21	—	—	?	?	一部のみ残存		—	
22	—	伸展葬	男性	?	ほぼ完全な人骨	頑丈な骨、地中で攪乱	N62.00E	
23	墓壙	屈葬	女性	成人	ほぼ完全な人骨	成人であれば女性、青年であれば男性の可能性	N22.30E	
24	—	伸展葬	?	?	ほぼ完全な人骨	No.10と関連ありか	N61.00E	
25	—	伸展葬	?	?	ほぼ完全な人骨		N71.30E	
26	—	伸展葬	?	?	ほぼ完全な人骨		N48.30E	

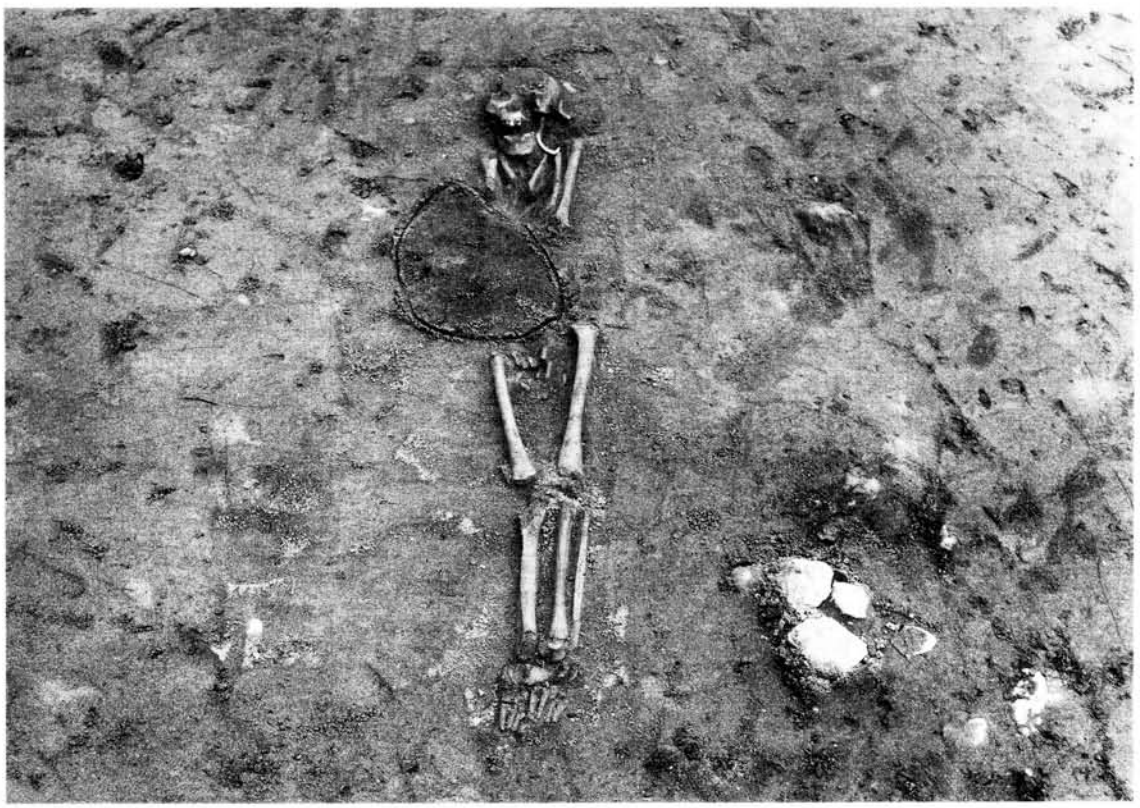
人骨17は欠番。－：確認できなかった。？：現地では詳細不明

関連文献	



西殿遺跡出土人骨
No. 1 人骨

No.15 人骨



No.	32	遺跡名	藤林長門守城跡	所在地	阿山郡阿山町大字東湯舟字辻内
調査原因	県道東湯舟甲賀線改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.6.24～7.6	調査面積	300㎡	担当者	川戸　達也・藤井　尚登

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
藤林長門守の居城と言われる中世城館である。 県道改良にともない削平される部分について発掘調査及び測量調査を行った。 当初、第2郭と考えられていた場所は、近代の宅地造成にかかわる盛土がされており、中世の遺構は確認できなかった。	測量調査によって、調査区南西部の宅地において土塁が、丘陵上にも土塁と堀切が確認された。 丘陵上に第1郭・丘陵下南西部に第2郭・東に第3郭の配置が考えられる。 その他、縄張り内に道がみられるが、城に伴うものではない。 伊賀の中世城館の縄張りを考えるのに重要な資料が得られた。	城館に伴う遺物は出土しなかった。

関連文献	

No.	33	遺跡名	馬田B遺跡（立会）	所在地	阿山郡阿山町大字馬田字沢田
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.17～9.26	調査面積	400㎡	担当者	川戸　達也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中世を中心とする遺物散布地である馬田遺跡の南端部に位置する。 近代のほ場整備による攪乱で遺構は確認できなかった。	近代のほ場。	なし。

関連文献	

No.	34	遺跡名	馬田C遺跡（立会）	所在地	阿山郡阿山町大字馬田字稲畑
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.17～9.26	調査面積	300㎡	担当者	川戸　達也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中世を中心とする遺物散布地である馬田遺跡の西部に位置する。 調査区東に通称「城ノ辻」とよばれる道が南北に通り、北東に「城山」とよばれる小山がある。中世城館に関連した遺跡の可能性が考えられる。	・3間×4間の掘立柱建物1棟 ・旧河道	なし。

関連文献	

No.	35	遺跡名	外山大坪遺跡	所在地	上野市外山字大坪
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.7.26～9.12	調査面積	1,670㎡	担当者	川戸　達也・泉　雄二

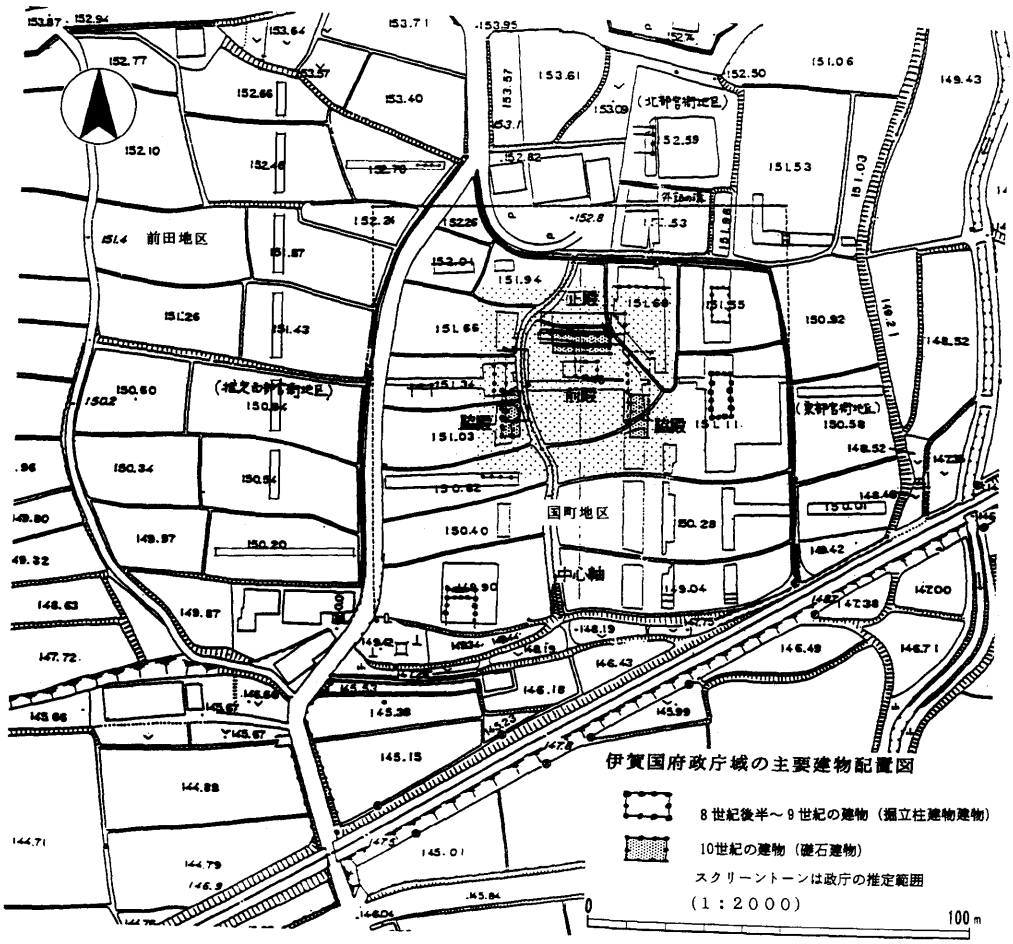
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
柘植川左岸、ＪＲ佐那具駅北側の河岸段丘上に位置し、西500ｍに伊賀国庁推定地、北に外山古墳群が存在する。 古墳時代と７世紀の竪穴住居が検出され、周辺の遺跡との関連に注目される。	・竪穴住居　13棟 ・掘立柱建物 ・甕棺墓　１基	・須恵器 把手付碗（５Ｃ） 高坏 坏（７Ｃ後） 円面硯（７Ｃ後） ・土師器 古式土師器（布留） 坏（７Ｃ後） 長胴甕 ・緑釉陶器

関連文献

No.	36	遺跡名	伊賀国府推定他	所在地	上野市坂之下ほか
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.10.14～H4.2.26	調査面積	3,000㎡	担当者	泉　雄二・中浦　基之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
伊賀国府の所在地は従来より柘植川南部であると言われてきたが、昭和63年の調査では検出されず、平成元年・２年の調査で柘植川の北部、国町地区に存在する可能性の高いことが判明した。国町地区は柘植川の河岸段丘上に位置し、西の前田地区を含め東西約300ｍ、南北約180ｍの平坦地しかとれない地域である。 今回の調査は、政庁の可能性の高い国町地区ではその配置および範囲を、西の前田地区では国府の範囲を、段丘下の地域では東海道の検出を目的として実施した。 調査の結果、国町地区では遺構が密集する地域があり、ここで８世紀後半から10世紀にかけての正殿、脇殿、前殿など国府の政庁域に相当する建物が検出された。この外でも建物、溝が検出されており官衙域はさらに広がることが予想される。政庁を画する明確な施設は検出されなかったが、正殿、脇殿の西と北、東を巡ると思われる塀列から推定すると一辺50～60ｍの規模が考えられる。 前田地区は、幅２ｍのトレンチ調査で、国町地区に近い地区では掘立柱建物も検出しているが、明確な遺構は少ない。今後の調査により当地区の性格が明かとなるだろう。 また、段丘下の調査では、古道を検出することはできなかった。 現時点では、当遺跡を伊賀国府と考えるのが最も妥当であるが、政庁の範囲、建物配置などの変遷、７世紀から８世紀のより古い国府の位置など、今後に残された課題が多い。	国町地区で検出した建物の方位は、ほぼ真北で統一されている。正殿、脇殿、前殿は、ほぼ同一場所で３～４回の立て替えがあり、出土遺物から奈良時代後半（８世紀後半）から平安時代中期（10世紀）にかけての建物で、10世紀には、掘立柱建物から礎石建物に建て替えられている。 最も古い正殿は、５間×２間で４面に廂を持ち、柱間は３ｍで柱掘方は約１ｍと規模の大きな建物で、同時期の建物には南に３間×２間の前殿、西側に８間×２間の脇殿、東の脇殿の建物規模については不明である。 正殿と考えられる掘立柱建物の東部で南北方向に２棟配置された５間×３間の建物は国庁の外側に配置された官衙を構成する建物と考えられる。	整理箱で約150箱出土している。弥生時代から室町時代の遺物があるが、その中心は9・10世紀を中心とする平安時代の遺物である。特殊なものには円面硯10点、風字硯３点（須恵器１点、黒色土器２点）、猿面硯１点、転用硯多数のほか、緑釉陶器約120点、土馬２点、馬歯３点、製塩土器、フイゴの羽口、土錘がある。緑釉陶器は、今回の調査も含め伊賀国府のこれまでの調査で約280点出土しているが、国町地区からはこのうちの250点近くが出土している。

関連文献



伊賀国府政庁域の主要建物配置図

伊賀国府推定地　平成３年度調査区航空写真

伊賀国府推定地　政庁域

No.	37	遺跡名	馬場遺跡	所在地	上野市沖
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.10.7～10.9	調査面積	260㎡	担当者	吉澤　良

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
古墳時代中期～後期にかけての集落跡と考えられる。	・土坑5基 ・溝4条 ・竪穴住居1棟	・土師器高坏・壺 ・須恵器坏身

関連文献

No.	38	遺跡名	鉾坪遺跡（立会）	所在地	上野市東条字鉾坪
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.11.5	調査面積	90㎡	担当者	川戸　達也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中世を中心とした遺物散布地である。 調査区は遺跡の縁辺部でありまた、道路際の水路のために攪乱されているため、遺構・遺物共に確認できなかった。	なし。	なし。

関連文献

No.	39	遺跡名	北城G遺跡（立会）	所在地	上野市羽根字北城
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.11.25	調査面積	90㎡	担当者	川戸　達也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中世の遺物散布地であり、北城F（箕増氏館跡）遺跡があり関連した遺跡と考えられる。	なし。	・瓦器椀片

関連文献

No.	39	遺跡名	北城F遺跡	所在地	上野市羽根字北城
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.11.25	調査面積	210㎡	担当者	川戸　達也

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三国地志に記載のある箕増氏館跡と言われている遺跡の周辺に広がる中世の遺物散布地である。 北城F遺跡はこの中世城館の空堀部分にかかる可能性があり発掘調査を行う予定であった。しかし、調査前に工事が進められ、調査区内には水路が敷設されていたため、発掘調査は実施できなかった。	なし。 土層確認のために70cmほど掘り下げたが、耕土の下は灰白色砂質の層が続いており、堀である可能性がある。小字名「ホリ田」	なし。

関連文献

No.	40	遺跡名	風呂ノ上遺跡（立会）	所在地	上野市下友生
調査原因	県道中村上野線道路改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.7.24	調査面積	240㎡	担当者	上村　安生

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
久米川右岸、標高154m前後に位置する。道路改良部分では遺構は確認されなかった。	なし。	土師器・瓦器が少量出土した。

関連文献	

No.	41	遺跡名	城之越遺跡	所在地	上野市比土
調査原因	県営ほ場整備事業・農免道路整備事業他	事業主体	県農林水産部・県教委	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.5.7～12.26	調査面積	4,500㎡	担当者	穂積裕昌・中浦基之・吉沢　良

遺跡の概要

城之越遺跡は、木津川上流右岸の丘陵先端部に接する標高169～170mの水田に立地する、古墳時代前期から鎌倉時代までの複合遺跡である。

〔Ａ地点〕

調査の結果、古墳時代前期の貼石をもつ大溝を確認した他、古墳時代から奈良時代の竪穴住居や掘立柱建物、中世の掘立柱建物や土坑などを検出した。

大溝は、上流部が３本に枝分かれしており、このうち２本の源流部に水源となる枠状石組（井泉）が存在する。そこから流れ出た水は、法面に貼石を行った上流部を通り抜け、素堀りの下流部へ流れる。大溝からは、小形丸底壺や高坏を中心とする多量の土器や、武器形の祭祀具・日常用具等の木製品も出土しており、貼石の部分は祭祀をとり行う「神聖な場」という意識があったものと思われる。

〔Ｂ地点〕

Ａ地点から約500ｍ谷筋へ入った丘陵斜面に立地している。古墳時代後期の大形掘立柱建物２棟と、竪穴住居２棟を検出した。

なお、Ａ地点の12,000㎡は県指定史跡として保存されることとなった。

主な遺構

〔Ａ地点〕

大溝

・３本に分かれた上流部分では法面に貼石をもつ。流路の合流点では立石を配した３角形のテラス状突起部や、胴木を敷いて大形の石を配した階段状遺構が存在する。溝の形状は貼石部分（上流）では曲線的であるが、素掘り部分（下流）は直線的である。源流部では２ヶ所で源流となる枡状石組（井泉）があり、小さい方では水を溜めるため板を組んだ堰状の遺構が存在した。

その他

・古墳時代～奈良時代の竪穴住居が27棟、古墳時代～中世の掘立柱建物が約50棟検出された。

〔Ｂ地点〕

・５間（13.8m）×４間（12.4m）の掘立柱建物と５間（12.4m）×４間（11.6m）の掘立柱建物が南面を揃えて東西に並ぶ。いずれの建物も母屋部分は２間×２間で、四面に廂がつく。

・この他、竪穴住居が２棟ある。

主な遺物

〔Ａ地点〕

大溝

・古式土師器多数
・韓式系土器２
・須恵器・土師器（上層）
・木製遺物
　飾弓・弓・剣形・刀形・有頭棒・木鍾・臼・木槌・手巻き・案・建築部材・杭他
・植物遺体
　モモ・クリ・ヒョウタン・モクレン属等

その他

　土師器
　須恵器
　緑釉陶器
　瓦器
　木製遺物（梯子他）

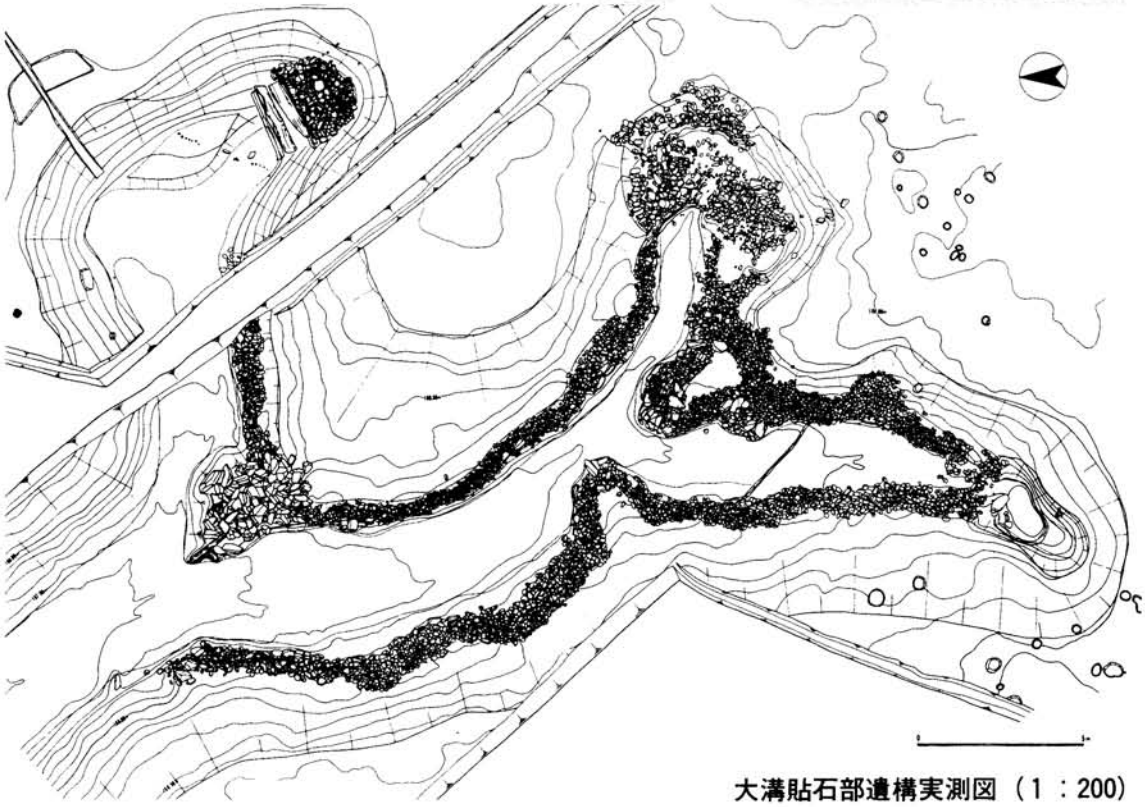
〔Ｂ地点〕

　須恵器
　土師器

関連文献	

城之越遺跡Ａ地点　大溝貼石部

大溝枡状石組（井泉）

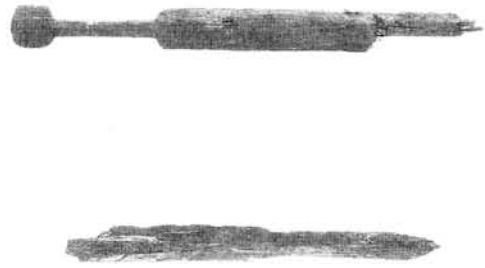


大溝貼石部遺構実測図（1：200）

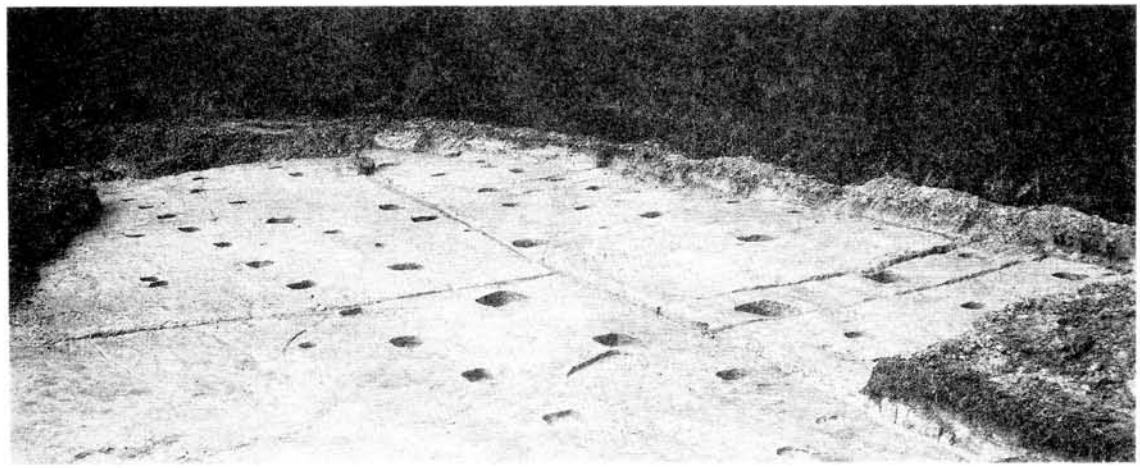
城之越遺跡A地点　大溝出土土師器

大溝出土　韓式系土器

飾弓



剣形木製品



城之越遺跡B地点　大型掘立柱建物

No.	42	遺跡名	勝地大坪遺跡（A地区）	所在地	名賀郡青山町勝地
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.5.7～8.7	調査面積	1,700㎡	担当者	吉澤　良

遺跡の概要

古墳時代後期を中心とする遺構（横穴式石室をもつ円墳3基）と縄文時代早期末の土坑（獣を捕獲する為の落し穴）3基を検出する。
また、中世（鎌倉時代前半）までにこれらの石室の一部を再利用した可能性があり、同時に上部削平が行われたのも、この時期以降と考えられる。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
1 号 墳	円墳	12.0	横穴式石室	須恵器	古墳時代後期	
2 〃	〃	12.4	〃	蓋、坏、壺	〃	
3 〃	〃	不明	〃	提瓶、高杯	〃	
				短頸壺、長頸		
				壺、台付椀		
				土師器		
				甕、長頸壺		
				短頸壺、椀		
				鉄鏃、馬具		
				直刀、刀子		
				等90点		

関連文献

No.	43	遺跡名	勝地大坪遺跡（B地区）（立会）	所在地	名賀郡青山町妙楽地
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.9.30～10.4	調査面積	120㎡	担当者	吉澤　良

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平安時代末～鎌倉時代初期の遺跡と考えられ、長軸6m×短軸3.5mの長方形状の土坑 中に拳大～人頭大までの石が多く積まれており、中より日用雑器が出土している。	・集石遺構1 ・溝2条	・瓦器椀、皿 ・土師器皿 ・白磁椀

関連文献

No.	44	遺跡名	天久保遺跡（立会）	所在地	名張市滝之原
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	三重県埋蔵文化財センター
調査期間	H3.10.18～10.23	調査面積	170㎡	担当者	吉澤　良

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平安時代末～鎌倉時代前半にかけての建物1棟（南東隅に土坑を持つ総柱建物）を検出する。	・掘立柱建物2棟	・瓦器椀 ・〃 皿 ・土師器皿

関連文献

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
ア	市場寺屋敷跡	員弁郡藤原町字本郷	県道畑毛本郷線道路改良事業	79㎡	調査区東に寺屋敷跡があるが調査区までは及ばないと思われる。空掘と見られていたものは、区画溝を兼ねた用水路と考えられる。
イ	精好遺跡	員弁郡北勢町字奥村	公害防除特別土地改良事業	64㎡	青川左岸に広がる縄文～中世の遺跡内であるが、試掘の結果、遺構・遺物共に認められなかった。調査区東端で近世の火葬墓を検出。
ウ	稲生Ⅰ－4号窯	鈴鹿市稲生町字稲生山	一般国道23号中勢道路建設事業	185㎡	丘陵西のゆるやかな斜面に立地する。トレンチ調査の結果、土坑状の遺構を確認し、弥生土器片等が出土した。
エ	南谷遺跡	鈴鹿市稲生町字南谷	一般国道23号中勢道路建設事業	176㎡	丘陵尾根上に立地する。トレンチ調査の結果、弥生後期の竪穴住居・溝を確認した。
オ	南畑遺跡	鈴鹿市西庄内町字南畑	県道水沢野田関線道路改良事業	104㎡	遺物は表土上に散布するが、土中からは出土しない。試掘坑からはピットが検出されているが、性格は不明。
カ	西庄内遺跡	鈴鹿市西庄内町南畑	県道水沢野田関線道路改良事業	48㎡	土坑・ピットを確認。900㎡が本調査対象。
キ	水巻遺跡	鈴鹿市高岡町字水巻	県道四日市鈴鹿線道路改良事業	12㎡	調査区の原地形は、ゆるやかな斜面であると考えられ、遺跡の中心は山寄りの段丘上であると思われる。遺物は、古墳～近世にわたる。
ク	須賀遺跡	鈴鹿市須賀町	県道南堀沢須賀線道路改良事業	6㎡	遺構は検出されなかった。遺物についても著しく磨耗しており、量も少ない。遺跡の中心から外れているものと思われる。
ケ	中之庄古墳	亀山市中之庄町	国道306号線道路改良事	4㎡	自然地形の高まりで、墳丘は確認されなかった。遺物もなかった。
コ	目細遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備事業	168㎡	中世～近世の遺物出土。
サ	金谷遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備事業	48㎡	中世後期の遺物出土。
シ	横山遺跡	安芸郡芸濃町椋本	県営ほ場整備事業	40㎡	表土でサヌカイト片を採集。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
ス	小野平遺跡	安芸郡芸濃町小野平	県道亀山白山線道路改良事業	48㎡	試掘坑からピットと溝を検出したが、いずれも顕著な遺構とは言いがたい。遺物も広い時期に及ぶので流れ込みの可能性が高い。
セ	西野々遺跡	津市大里山室町	県営ほ場整備事業	84㎡	遺構、遺物とも認められない。
ソ	石田3号墳	津市大里野田町	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	7㎡	古墳ではない。
タ	多為遺跡	津市大里睦合町	県営ほ場整備事業	32㎡	奈良時代前後の掘立柱建物（方形ピット）を確認。
チ	東裏遺跡	津市大里野田町	県営ほ場整備事業	280㎡	奈良時代頃の溝・土坑を確認
ツ	大里西沖遺跡	津市大里睦合町	県営ほ場整備事業	176㎡	奈良時代頃の竪穴住居（？）ピットを確認。
テ	南所遺跡	津市大里野田町	県営ほ場整備事業	40㎡	中世（？）の溝と確認。
ト	小野田古墳群	津市大里小野田町	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	8㎡	古墳ではない。
ナ	睦合A古墳	津市大里睦合町	〃	7㎡	古墳ではない。
ニ	睦合B古墳群	津市大里睦合町	〃	11㎡	古墳ではない。
ヌ	すの坪古墳群	津市大里川北町	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	11㎡	古墳ではない。
ネ	橋垣内遺跡	津市大里窪田町	県道津関線道路改良事業	92㎡	奈良時代・頃の遺構および、それ以前の河道を確認した。
ノ	大垣内遺跡	津市大里窪田町	県道津関線道路改良事業	92㎡	弥生時代・奈良時代の遺構を確認。奈良時代の瓦多い。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
ハ	西岡1・2号墳	津市河辺町字西岡	一般国道23号中勢道路建設事業	1号墳70㎡ 2号墳30㎡	1号墳は丘陵の頂部に立地する。須恵質の円筒埴輪片などが出土。5世紀後半頃の円墳と考えられる。 2号墳は自然地形と判明した。
ヒ	細谷古墳	津市大字垂水字細谷・丸地	三重県運転免許センター建設	8㎡	自然地形と判明
フ	的場遺跡	久居市榊原町浜野田	県道亀山白山線道路改良事業	48㎡	明確な遺構・遺物なし
ヘ	淵草遺跡	一志郡嬉野町小原	県道亀山白山線道路改良事業	32㎡	調査区内は河川の氾濫原であると考えられる。遺物は中近世の皿・椀が見られるが現集落からの流れ込みであると思われる。
ホ	土井沖遺跡	一志郡美杉村上多気土井沖	国道368号線道路改良事業	40㎡	石垣・側溝・石敷あり。450が本調査対象。
マ	上蛸路A遺跡	松阪市蛸路町字上蛸路	県道松阪第2環状線道路改良事業	24㎡	2m×4m×3ヶ所の試掘坑を設定し、調査をおこなったが、いずれも遺構・遺物とも検出されなかった。
ミ	(仮称)上蛸路B遺跡	〃　〃	〃	6㎡	遺構は検出されなかった。遺物は著しく磨耗しており、量も少ないため詳しくは不明である。
ム	池上遺跡	松阪市西黒部町	県営ほ場整備事業	88㎡	西黒部町の集落の北西の水田内の微高地に立地する。井戸1基・平安時代杯・皿が検出され、2600㎡が調査対象。
メ	小狐遺跡	松阪市西黒部町	県営ほ場整備事業	64㎡	西黒部町と高須町の間の標高1m前後の微高地と水田に立地する。古地図に塩釜の所在地となっており一部で焼土・焼石が検出され1600㎡が調査対象。塩田のひろがりも予想される。
モ	寺浦遺跡	松阪市西黒部町	県営ほ場整備事業	16㎡	西黒部町の集落の北西にある水田内の微高地にある。中世の土師器の散布が見られたが、明瞭な遺構は検出されなかった。
ヤ	下ノ(しもじめ)遺跡	松阪市西黒部町	県営ほ場整備事業	48㎡	高須町の集落の南東隣の現況高0.27m前後の水田に立地。明瞭な遺構は検出されなかった。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
ユ	渕ノ上・道買遺跡	松阪市六根町腹太町	県営ほ場整備事業	112㎡	腹太町集落の北方にある。畑地であり、近世以降の溝と、明治期の遺物が少量認められた。本調査の必要はなし。
ヨ	甘糟遺跡	多気郡多気町荒蒔字甘糟	一般国道42号松阪・多気バイパス建設事業	144㎡	縄文時代から中近世の土器片が出土したが、遺構は近世の開墾時に削平されたものと考えられた。
ラ	多気郡条里遺構	多気郡多気町荒蒔字巣護ほか	一般国道42号松阪・多気バイパス建設事業	908㎡	古墳時代から中世にかけての土器片が出土したが、条里遺構と考えられる溝や畦畔は検出されなかった。 上ノ垣外遺跡の南縁辺部において遺構・遺物が確認された。
リ	発シA遺跡	多気郡明和町有爾中	県道田丸斎明線道路改良事業	40㎡	2m×4m×5ヶ所の試掘坑を設定し、調査をおこなった。いずれも遺構は確認されなかった。遺物は流れこみによる土師器杯・皿・鍋の細片が出土した。
ル	城之前遺跡	度会郡度会町和井野	県営ほ場整備事業	88㎡	和井野の集落の西方の水田に立地する。近世以降に段丘を開田と確認。
レ	小広木遺跡	度会郡度会町田間	県営ほ場整備事業	176㎡	田間の集落の西隣の水田面である。明瞭な遺構は確認されなかった。
ロ	前山遺跡	度会郡度会町田間	県営ほ場整備事業	96㎡	宮川右岸の河岸段丘上に立地する周知の遺跡。ほ場整備事業地の6100㎡が遺跡範囲。
ワ	ワダ遺跡	度会郡南勢町宿浦	国道260号線道路改良事業	2㎡	周知の遺跡ではあるが、縁辺部にあたるためか、遺構遺物とも検出されなかった。
ヲ	(仮称)鹿田西遺跡	伊勢市楠部町	県道鳥羽松阪線道路改良事業	24㎡	表土から10cm～20cmで地山に達した。穴は果樹(柿)等の植栽によるものと思われる。遺物は小片で磨耗が激しい。
ン	(仮称)一宇田古墳群	伊勢市楠部町	県道鳥羽松阪線道路改良事業	50㎡	3ヶ所の尾根上のマウンドに巾1mのトレンチを設定したが、遺構・遺物とも検出されなかったので、自然地形と判断した。
あ	蝮尾遺跡	伊勢市久世戸町字蝮尾	近畿自動車道(勢和～伊勢)建設事業	32㎡	浄土宗鎮西派に属する二河山白道院本誓寺境内に位置し、中世器の散布がみられたが、遺構・遺物ともになし。

No.	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	遺跡の概要
い	沖玉新田古墳	度会郡二見町大字三津字沖玉新田	伊勢二見鳥羽有料道路建設事業	10㎡	自然地形と判明
う	（仮称）穴川遺跡	志摩郡磯部町大字穴川	県道国府磯部線道路改良事業	24㎡	表土から20〜40cmで地山に達した。遺構・遺物とも検出されなかった。
え	一丁田遺跡	上野市服部羽根	県営ほ場整備事業	70㎡	遺構密度は低いが、中世の溝、石組遺構を検出。範囲は7800㎡。
お	川南A遺跡	名賀郡青山町勝地	県道伊賀青山線道路改良事業	30㎡	人為的な配置と見られる石組遺構（中世）などを検出。
か	（仮称）川南遺跡	名賀郡青山町勝地	県営ほ場整備事業	300㎡	A・C地区で中世の土坑・溝等を検出。遺物が若干出土。遺跡範囲は約10,000㎡。
き	滝地区	名賀郡青山町滝	県営ほ場整備事業	40㎡	遺構・遺物ともなし。
く	（仮称）滝之原地区	名張市滝之原	県営ほ場整備事業	90㎡	A地区においてピット・溝を検出。中世の遺物が出土。遺跡範囲は1,000㎡。

No.	46	遺跡名	白瀬城跡（試掘）	所在地	員弁郡北勢町
調査原因	藤原工業団地造成	事業主体	藤原町・員弁郡土地開発公社	調査機関	藤原町教育委員会
調査期間	H4.2.	調査面積		担当者	松本　覚

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
白瀬城の北側に位置し、低土塁・平坦地・堀等がみられる。試掘調査の結果、低土塁に沿う溝や井戸・礎石などの遺物及び青磁・施釉陶器等の遺物が出土している。	・土塁 ・溝 ・磁石？	・青磁 ・施釉陶器 ・陶器（摺鉢・甕） ・土師器（羽釜など） ・染付 ・古銭

関連文献	

No.	47	遺跡名	段遺跡（試掘）	所在地	員弁郡員弁町大字石仏字段
調査原因	店舗新築	事業主体	イナベパル	調査機関	員弁町教育委員会
調査期間	H4.2.12～3.5	調査面積	3,078㎡	担当者	松本　覚

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
員弁川左岸の川岸段丘上に立地する。竪穴住居（奈良時代）および掘立柱建物・溝等が検出されている。	・竪穴住居 ・掘立柱建物 ・溝	・土師器、須恵器

関連文献	

No.	48	遺跡名	村前遺跡（試掘）	所在地	員弁郡東員町瀬古泉字村前
調査原因	工場建設	事業主体		調査機関	東員町教育委員会
調査期間		調査面積		担当者	

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物

関連文献	

No.	49	遺跡名	西金井遺跡（試掘）	所在地	桑名市西金井字高添他
調査原因	土地改良	事業主体	下新田共同施行	調査機関	桑名市教育委員会
調査期間	H2.10.18	調査面積	272㎡	担当者	山崎　恒哉（県文化財調査員）
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
西金井遺跡は、町屋川南岸の水田一帯に位置する。14ヶ所の試掘の結果、東西約100m、南北約70mに及ぶ遺物包含層が確認された。			・溝		・弥生後期の土器片、細頸壺、甕、高坏他
関連文献					

No.	50	遺跡名	縄生廃寺跡	所在地	三重郡朝日町大字縄生字中谷2430番地ほか
調査原因	縄生廃寺跡緊急調査事業	事業主体	朝日町	調査機関	朝日町教育委員会
調査期間	H3.10.14～12.6	調査面積	182㎡	担当者	早川　裕己
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
昭和61年度の発掘調査により塔跡、その倒壊屋根の一部を検出。塔心礎舎利孔から舎利具一括が出土。平成元年6月12日付で国重要文化財に指定公示。 昭和63年度から範囲確認調査中である。平成3年度は第二次3か年計画の初年度にあたる。（4／6）。 これまでに塔の北で版築を確認（昭和63年度）。 本年度は塔の南と北東部に各1か所巾3mのトレンチをいれて範囲を確認した。 来年度は版築の規模を確認するとともに、塔の東の平垣地にトレンチをいれる予定である。					・軒丸瓦 ・平瓦 ・丸瓦 ・道具瓦 ・土師器（古墳時代もあり） ・須恵器（古墳時代もあり）
関連文献	『縄生廃寺跡発掘調査報告』（朝日町教育委員会 1988.3） 『縄生廃寺跡範囲確認調査報告Ⅰ』（朝日町教育委員会1991.3）				

No.	51	遺跡名	赤堀城跡（試掘）	所在地	四日市市城西町319-1他
調査原因	分譲マンション建設	事業主体	丸美産業株式会社	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H.3.4.15	調査面積	80㎡	担当者	春日井　恒・花井　千幸
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
遺跡推定範囲の北西部にあたる部分であるが、4m×4mの試掘調査坑を5ヶ所設定し調査を行ったが、中世の遺物が若干出土しただけで、遺構は検出されなかった。			なし		・中世陶器 ・土師器
関連文献	四日市市教育委員会『赤堀城跡』（四日市市埋蔵文化財調査報告16）1985 四日市市教育委員会『赤堀城跡2』（四日市市遺跡調査会文化財調査報告Ⅳ）1989				

No.	51	遺跡名	赤堀城跡	所在地	四日市市城東町263番地9号
調査原因	地中送電線新設	事業主体	中部電力株式会社	調査機関	四日市市遺跡調査会
調査期間	H4.1.27～2.20	調査面積	約40㎡	担当者	花井　千幸
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
昭和59年と平成元年の過去2回、一部発掘調査が行われており、礎石建物跡2棟をはじめ、中世の遺構・遺物を多数検出している。 今回は遺跡範囲の南東端での小規模な調査であるが、赤堀城存続時のものと思われる堀・土塁を確認している。			・堀・土塁		・土師器、山茶碗 ・聞香札
関連文献	『赤堀城跡』（四日市市埋蔵文化財調査報告16　四日市市教育委員会1985） 『赤堀城跡2』（四日市市遺跡調査会文化財調査報告書Ⅵ　四日市市遺跡調査会1989）				

No.	52	遺跡名	小割B遺跡	所在地	四日市市美里町小割～字北山
調査原因	市道改良事業	事業主体	市建設部	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H3.5.28	調査面積	70㎡	担当者	花井　千幸・春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鎌谷川上流の扇状地性台地上に位置する古墳時代の遺跡である。 開発計画区域内に4m×4mの試掘調査坑を11ヶ所設定し、調査を行ったが、いずれの試掘調査坑からも遺構・遺物は検出されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	52	遺跡名	小割B遺跡（試掘）	所在地	四日市市西山町字小割6753-4他
調査原因	店舗建設	事業主体	個人	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H.3.8.26	調査面積	160㎡	担当者	春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鎌谷川上流の扇状地性台地上に位置する古墳時代の遺跡である。 開発計画区域内に4m×4mの試掘調査坑を10ヶ所設定し、調査を行ったが、いずれの試掘調査坑からも遺構・遺物は検出されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	53	遺跡名	貝野遺跡（試掘）	所在地	四日市市東坂部町602他
調査原因	宅地造成	事業主体	大久保不動商事	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H3.6.17	調査面積	80㎡	担当者	春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
海蔵川と部田川に挟まれた丘陵上に所在する古墳時代～奈良時代の集落跡である。 開発計画区域内に4m×4mの試掘調査坑を5ケ所設定し、調査を行ったが、いずれの試掘調査からも遺構・遺物は検出されなかった。	なし	なし

関連文献	四日市市教育委員会『貝野遺跡－古代集落址の調査報告－』（四日市市教育委員会埋蔵文化財調査報告4 1969）

No.	54	遺跡名	南かに島遺跡	所在地	四日市市赤水町1274、1276番地
調査原因	宅地造成	事業主体	名古屋菱重興産株式会社	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H3.6.25	調査面積	48㎡	担当者	花井　千幸・春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
開発計画区域は、遺跡範囲の北西端であり、4m×4mの試掘坑を3ヶ所設定し、調査を実施したが、いずれも後世の攪乱が著しく、遺構、遺物とも確認されなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	55	遺跡名	御池古墳群	所在地	四日市市西坂部町字足洗
調査原因	資材置場造成	事業主体	株式会社萬代	調査機関	四日市市遺跡調査会
調査期間	H3.7.25～12.20	調査面積	約2500㎡	担当者	春日井　恒・花井　千幸

遺　跡　の　概　要

台地縁辺部に所在する、全10基からなる古墳郡である。このうち5号墳は、1965年に県道改良工事の際に主体部の発掘調査が行われており、7C前半の複室構造の横穴式石室であることが判明している。

今回の調査は、資材置場造成工事区域に5号墳を含む8基の古墳が所在するため、工事区域の全面調査を行った。調査した全ての古墳が、盗掘と思われる撹乱を受けており、主体部の遺存状態は良くなかった。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
1号墳	円墳	径12.5	横穴式石室	須恵器・刀子等	6C後半～6C末	周溝あり
2号墳	円墳	径15	横穴式石室	須恵器・耳環等	6C末～7C初	周溝あり
3号墳	—	—	—	—	—	新しい盛土
4号墳	円墳	径11	横穴式石室	須恵器・鉄鏃等	6C後半～6C末	周溝あり
5号墳	円墳	径13	横穴式石室	須恵器	7C前半	1965年調査
6号墳	円墳	径9.5	横穴式石室	土師器・須恵器等	7C初	周溝あり
7号墳	円墳	径9	横穴式石室	須恵器	7C前後	主体部は調査区外
8号墳	円墳	径13	横穴式石室	土師器・須恵器・耳環等	7C前後	周溝あり、追葬2回
11号墳	—	—	—	—	—	確認できず
13号墳	円墳か	—	横穴式石室	土師器・須恵器	7C初	墳丘流失

関連文献　四日市市教育委員会『四日市の後期古墳』（四日市市埋蔵文化調査報告8　1973）

No.	56	遺跡名	北野遺跡・四ツ谷橋北方遺跡	所在地	四日市市桜町西
調査原因	県道改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H3.8.12	調査面積	88㎡	担当者	春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
北野遺跡は台地上に広がる遺跡で、平安時代以降の遺物の散布が確認されている。 四ツ谷橋北方遺跡は台地上に広がる遺跡で、縄文時代の遺物の散布が確認されている。 開発計画区域内に試堀調査坑を10ヶ所設定し、調査を行ったが、いずれの試堀調査坑からも遺構・遺物は検出されなかった。	なし	なし

関連文献

No.	57	遺跡名	小判田遺跡（試堀）	所在地	四日市市芝田二丁目99-1他
調査原因	事務所建築	事業主体	丸一物産株式会社	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H3.9.30	調査面積	32㎡	担当者	春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
沖積低地に広がる遺跡で、1976年に一部発掘調査が行われており、中世の集落跡が検出されている。 開発計画区域内に4m×4mの試堀調査坑を2ヶ所設定し、調査を行ったが、いずれの試堀調査坑からも遺構・遺物は検出されなかった。	なし	なし

関連文献　四日市市教育委員会『小判田遺跡』（四日市市埋蔵文化財調査報告12　1977）

No.	58	遺跡名	宮の西遺跡	所在地	四日市市中川原二丁目122-2,123-3
調査原因	個人住宅建築	事業主体	個人	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H4.1.10～H4.2.8	調査面積	約230㎡	担当者	春日井　恒

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三滝川の南に広がる沖積低地に位置する弥生時代から室町時代にかけての複合遺跡である。1988年に一部発掘調査が行われている。 確認した遺構は、時期不明の土坑二基だけであるが、遺物は包含層中から弥生時代～室町時代の土器・木製品が出土している。1988年の調査でも数多く出土した斎串が、今回の調査でも数点が出土しており、祭祀に関連するものとして注目される。	・時期不明の土坑２基	・土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・斎串等

関連文献	四日市市遺跡調査会『宮の西遺跡』（四日市市遺跡調査会文化財調査報告Ⅲ　1988）

No.	59	遺跡名	西野山遺跡（試掘）	所在地	所在地四日市市南小松町字西野山2679-31他
調査原因	工場建設	事業主体	株式会社東洋スチロール	調査機関	四日市市教育委員会
調査期間	H.2.12～2.14	調査面積	128㎡	担当者	川崎　正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
開発計画区域は、遺跡範囲の西端であり、４ｍ×４ｍの調査区を８ヶ所設定して試掘調査を行った。調査の結果、性格不明の土坑４基と近年の畑に伴うものと思われる溝２条が検出されたのみで、遺物は須恵器甕が１片出土したのみであった。	・土坑４基 ・溝２条	・須恵器（甕）１片

関連文献	

No.	60	遺跡名	寺山遺跡	所在地	鈴鹿市高岡町寺山
調査原因	水管橋管理田道路建設他	事業主体	鈴鹿市	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H3.4.1～6.30,8.1～8.7	調査面積	1,000㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川左岸台地上に分布する集落遺跡である。調査は昨年度から継続して行われている。 〈水管橋調査区〉 舌状に張り出す台地の先端近くを横断する形で幅７ｍ幅100ｍの調査区である。 Ｆ区　台地の東辺縁で土砂の流失がいちじるしく遺構は残らず。		須恵器、瓦、土師器
Ｇ区　台地の中心部にあたり７世紀後半代の遺構・遺物が集中する。	竪穴住居１棟 堀立柱建物２棟以上	須恵器、土師器
〈都計道路調査区〉 Ⅱ－拡張区台地のつけ根部分にあたり昨年度の調査で弥生時代・奈良時代の建物が多数検出されている地区である。古墳時代竪穴住居、弥生時代中期溝が検出された。	竪穴住居１棟 ピット 溝１条	土師器 弥生土器

関連文献	

No.	61	遺跡名	南谷遺跡	所在地	鈴鹿市稲生町字稲生山
調査原因	中部電力鈴鹿河芸線新鈴鹿変ヶ引込No.31号鉄塔工事	事業主体	中部電力株式会社	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H3.4.8～4.30	調査面積	約200㎡	担当者	新　田　剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
標高30～36mの第三紀丘陵上に位置する。調査箇所は鉄塔部分（A地区）と進入路部分（B地区）に分かれる。 遺構検出は表Ⅰを0.1～0.2m除去した地山面で行った。 〔A地区〕丘陵の頂上付近の平坦部分。弥生時代後期前半の竪穴住居が1棟検出された。一辺約5mの方形を呈し、数回の建て替えが行われている。甕・高坏などが出土した。 〔B地区〕A地区から北東へ約60mの地点。方形周溝墓の一部と考えられる遺構が2基検出された。時期は出土した高坏などにより、弥生後期前半と考えられる。その他、発掘区外にある墳丘様の高まりに付随すると考えられる周溝状の落ち込みが検出されたが遺物を伴わず、時期は不明である。	〔A地区〕 ・竪穴住居1棟 〔B地区〕 ・方形周溝墓？2基	〔A地区〕 ・甕・高坏 〔B地区〕 ・高坏

関連文献

No.	62	遺跡名	伊勢国府跡推定地	所在地	鈴鹿市国府町字西木曽田、高畔
調査原因	モータープール建設	事業主体	㈲ニシキ開発	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H3.4.15～4.17	調査面積	約2,000㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
国府町西城戸集落の東方にあたる。開発区域の北半分は、藤岡謙二郎氏による、「長ノ城」を中心とする伊勢国府方八町説の区域内に入り、国府域に関する何らかの遺構の存在が予想されたため、東西と南北に長大なトレンチを設定して調査を行った。 基本的層序は第Ⅰ層・黒褐色粘質土1（耕作土）、第Ⅱ層・黄褐色粘質土2、第Ⅲ層・灰白色粘質土、第Ⅳ層・黄褐色砂質層（地山）である。	地形的に高い南側と西側に若干の遺構と遺物を確認したが、国府推定域に入る北側のトレンチからは、何ら遺構は確認されなかった。 西側の西城戸集落に近いトレンチからは、鎌倉時代の堀立柱建物跡1棟、幅2mの東西溝などが検出された。	東西溝からは多量の山茶碗と土師器鍋の出土をみた他、南側トレンチからは若干の天目茶碗や土師器の出土を見た。

関連文献　藤岡謙二郎「都市と交通路の歴史地理学的研究」

No.	63	遺跡名	大塚山古墳（試堀）	所在地	鈴鹿市御薗町字池ノ谷
調査原因	工業団地造成	事業主体	天名開発組合	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H3.5.7	調査面積	100㎡	担当者	浅尾　悟

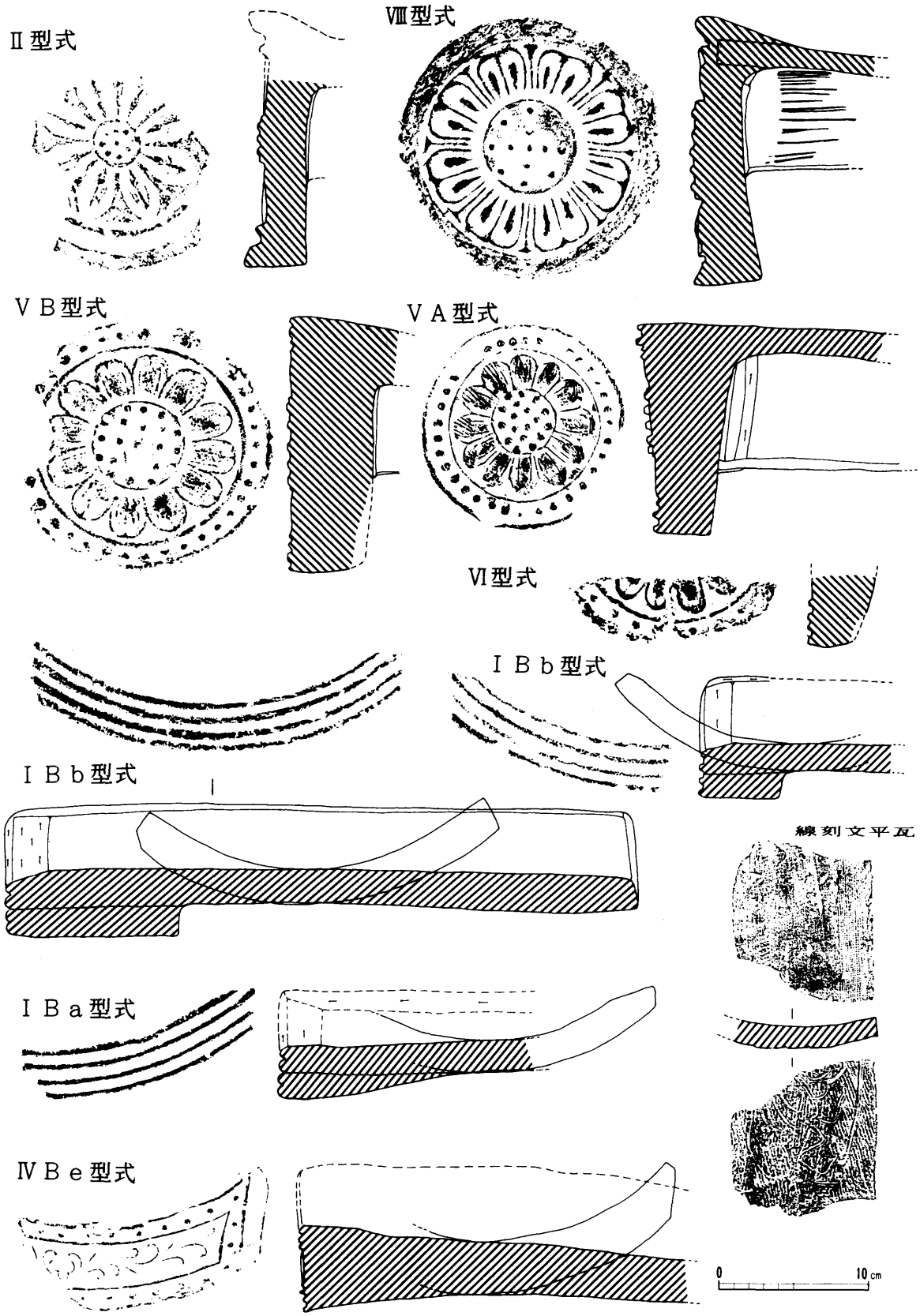
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
分布調査の結果、連続して2ヶ所の古墳状の高まりを確認した。当該地は位置が不確定で、消滅したとされる「大塚山古墳」の可能性もあり、試堀調査を実施した。	試堀調査の結果、古墳状の高まりは、全くの自然地形であり、遺跡としては全く認められなかった。	なし

関連文献

No.	64	遺跡名	伊勢国分寺跡	所在地	鈴鹿市国分町字南浦、外
調査原因	重要遺跡範囲確認緊急調査	事業主体	鈴鹿市教育委員会	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H3.10.2～12.25	調査面積	550㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
範囲確認調査の第4次調査にあたる。 本年度は僧寺に1ヶ所、尼寺推定地に6ヶ所を設定し、尼寺跡の解明を重点的に実施した。 南浦2・3地区からは大量の瓦類の出土をみた。時期的には白鳳期（7C末）と奈良期（8C末）に大別できる。 白鳳期は川原寺系複弁八葉蓮華文軒丸瓦と、二重圏文帯単弁八葉蓮華文軒丸瓦で、後者が主体を占める。これに対応する軒平瓦は四重弧文軒平瓦で、有顎（IBb）と無顎（IBa）があり、ややIBb型式が数的に多い。奈良期は単弁十二葉蓮華文軒丸瓦2型式　（VA、VB）と単弁十四葉蓮華文軒丸瓦（VI）で、軒平瓦は均整唐草文（IVBe）の1種類が出土した。 遺構では南浦3地区と木田坂上3地区の堀立柱建物3棟があり、奈良時代のものと考えられる。また、南浦2・3地区では瓦集積遺構が見つかっているが二次的に投棄あるいは敷きつめたものである。 今回、直接寺院に結びつく遺構は確認されなかったものの、鈴鹿川流域では初の白鳳寺院の存在を確かなものにした。その後、尼寺に改修されたことも考えられるが、大鹿氏の氏寺との関連も今後残された課題である。	＜僧寺跡＞ ・西高木3地区 土坑、ピット ＜尼寺推定地＞ ・南浦2地区 瓦溜土坑3基 溝6条 ・南浦3地区 堀立柱建物1棟 柵列 瓦溜遺構 土坑 ・南浦4地区 土坑 溝5条 ・木田坂上1地区 土坑 ・木田坂上2地区 （遺構なし） ・木田坂上3地区 堀立柱建物2棟 溝	・南浦2地区 ＜瓦類＞ 軒丸瓦…、II、VI、VIII型式 軒平瓦…IBa、IBb、IVBb型式 熨斗瓦、隅切瓦、線刻文瓦 ＜土器類＞ 須恵器、土師器（奈良） 灰釉碗（平安） 山茶碗（鎌倉） ・南浦3地区 ＜瓦類＞ 軒丸瓦…II、VI、VA、VB型式 軒平瓦…IBa、IBb、IVBd型式 ＜土器類＞ 円面硯（奈良） 灰釉碗（平安） 土師器甕（〃） ・南浦4地区 ＜瓦類＞ 軒丸瓦…II、VA型式 軒平瓦…IBa、IBb型式 ＜土器類＞ 須恵器坏、甕（古墳）

関連文献	瓦型式は「伊勢国分寺跡、第3次発掘調査概要報告」（1991）による。



伊勢国分寺跡（尼寺跡推定地）出土軒瓦（1：4）

No.	65	遺跡名	塚腰遺跡	所在地	鈴鹿市郡山町字塚腰
調査原因	市道秋永郡山線側溝工事	事業主体	鈴鹿市	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H3.10.9.～10.16	調査面積	30㎡	担当者	新田　剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中ノ川右岸の中位段丘上に位置する。当初は立合調査対応していたが遺構・遺物の検出があったため、途中で本調査にきりかえた。 調査の結果、鎌倉時代の溝3条と土壙2基が検出されたが、1m×30mという狭溢な発掘区であるため遺構の性格等は明らかにしえなかった。	・溝3条 ・土坑2基	・山茶碗

関連文献

No.	66	遺跡名	沢城跡（試堀）	所在地	鈴鹿市飯野寺家町城掛り
調査原因	店舗建設	事業主体	㈱伊藤陶器	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H3.10.14	調査面積	36㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地点は沢城本丸跡のすぐ北側にあたる。調査は、北と南に3×6mのトレンチを設定して行った。基本的層序は第1層（盛土整地層）、第2層・明褐色土混入黒色粘質土（旧耕作土）、第3層・黒色粘質土（植物繊維多数混入）、第4層・青灰色砂質土、第5層・黄褐色砂礫土（地山）で、第1層上面から第5層上面まで約2.0mほどである。	南トレンチ（本丸寄り）で、第4層中に人工的な土堤状の高まりを認めたが、性格等は不明である。 両トレンチ共、第3層は多量の木質・植物繊維を含み、本丸北の堀跡と考えられる。その他曲輪に関わる整地層等は検出し得なかった。	・土師器小皿片。

関連文献

No.	67	遺跡名	北ノ添遺跡	所在地	鈴鹿市北玉垣町北ノ添
調査原因	宅地造成	事業主体	株式会社三商	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H3.10.23～11.9	調査面積	450㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
昭和47年に調査された起A遺跡の東800m、鈴鹿川右岸中位段丘の辺縁、標高8mの所に位置する。開発面積4,000㎡のうち試掘調査により遺構の確認された450㎡について本調査を実施した。 弥生時代中期から中世にいたる復合遺跡であることが明らかになった。	○弥生時代 ・竪穴住居3棟 ○古墳時代6C末～7C初 ・方墳（周溝のみ2基） ・SX01　11.0m ・SX02　8.0m ・土坑（墓）11基 ○奈良時代 ・方形周溝1基 ○平安末～鎌倉 ・掘立柱建物1棟 ・土坑1基 ・溝2条	・弥生土器 ・磨製石斧 ・須恵器・台付短頸壺 ・土師器短頸壺 ・土師器高杯・壺 ・須恵器長頸壺 ・山茶碗

関連文献

No.	68	遺跡名	南畑遺跡	所在地	鈴鹿市西庄内町南畑
調査原因	一般県道水沢野田関線緊急地方道路整備事業	事業主体	三重県土木部	調査機関	鈴鹿市遺跡調査会
調査期間	H3.10.28～11.11	調査面積	1,100㎡	担当者	新田　剛

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
耕作土を0.4～0.5m除去した黒色腐食土ないし黄褐色砂質シルト層上面で遺構検出を試みた。 風倒木痕が多数検出され、山茶碗片・土師器片が4点出土したものの、遺構は全く検出されなかった。 出土遺物より、中世集落の存在が想定できるが、遺跡の中心は遺物が濃密に散布する現南畑集落付近にあると考えられ、今回出土した少量の遺物はそこからの混入の可能性が高いと判断される。	なし	・土師器片 ・山茶碗片

関連文献	

No.	69	遺跡名	上箕田遺跡	所在地	鈴鹿市中箕田町字上月
調査原因	消防署新分署建設用地造成工事	事業主体	鈴鹿市土地開発公社	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H3.12.2～H4.2.29	調査面積	3,000㎡	担当者	新田　剛・藤原　秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
三角洲性扇状地中の微高地に位置し、標高は約4mである。 基本層序はⅠ層：耕作土、Ⅱ層：黄褐色シルト質砂層、Ⅲ層：暗褐色細礫混り砂質シルト層、Ⅳ層：暗褐色シルト質粘土層、Ⅴ層：青灰色粘土質シルト～砂層、Ⅵ層：暗褐色シルト質粘土層、Ⅶ層：青灰色シルト質粘土～シルト層、Ⅷ層：砂礫層である。これらのうちⅡ～Ⅳ層は西半部ではみられない。　西半部において、弥生時代中期前葉の方形周溝墓2基と平安時代の堀立柱建物、溝が検出されたが、検出面はⅠ層（耕作土）を除去したⅤ層上面である。 東半部ではⅤ層ないしⅣ層上面で条理遺構を検出した。 さらに発掘区の東端ではⅥ層から、縄文時代晩期の凸帯紋系土器が出土した。層厚は0.05～0.20mで炭化物や骨片をはじめ、クルミの種子や木の根などの植物遺体も出土した。	○弥生時代中期前葉 ・方形周溝墓2基 ○平安時代中期 ・堀立柱建物 ・溝 ○その他 ・条理遺構	○縄文時代晩期後半 （五貫森段階） ・深鉢、浅鉢 ・磨製石斧 ・凹石 ○弥生時代中期前葉 ・壺 ○古墳時代後期 ・須恵器杯 ○平安時代 ・土師器、須恵器 ・灰釉碗、皿 ・布目瓦 ・北宋銭 ○フイゴの羽口 ・スラグ ・土錘 ○鎌倉時代 ・山茶碗 ・小皿 ○その他 ・砲弾

関連文献	

No.	70	遺跡名	石薬師寺	所在地	鈴鹿市石薬師町古里1番地
調査原因	石薬師寺本堂改修工事	事業主体	鈴鹿市教育委員会	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H4.1.10	調査面積	6㎡	担当者	浅尾　悟・藤原　秀樹

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
石薬師寺は東海道石薬師宿南端に位置する真言宗寺院で、本尊の石仏薬師如来に寺名の由来を持つ。寺伝では嵯峨天皇勅願所の創建と伝えるが、現在の本堂は化粧隅木の墨書から、寛永6（1629）年の建築とされている。県内最古の寺院建築の一つである。 その後何度かの改修を受けており、建築部材の傷みがひどく、今回の全面改修工事となった。改修に当たっては、建築当時の仕様に復することを基本的原則として行っている。 今回の調査は建築当時にはあったであろう、本堂背面の縁（改修前には取り払われていた）の有無と規模を確認することを目的に実施した。	本堂基壇の北端部を検出する。幅は身舎北端礎石中心より約1.2mであったが背面縁の礎石痕跡は検出されなかった。しかし、基壇から約50cm北方で、10〜20cmの小石を敷きつめた遺構が見つかっており、雨落溝と考えられる。	・瓦、釘

関連文献	

No.	71	遺跡名	石薬師東遺跡（丸山古墳群）	所在地	鈴鹿市河田町字丸山
調査原因	市道改修	事業主体	鈴鹿市	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H4.1.21〜2.1	調査面積	450㎡	担当者	藤原　秀樹

遺跡の概要

鈴鹿川左岸台地上に位置する一帯には戦前までは前方後円墳3基を含む50基以上の古墳が分布していた（石薬師東古墳群）が、陸軍の通信部隊の基地となり乗鞍古墳1基を除いて消滅した。立合調査時に多量の埴輪片の出土をみたため道路敷の幅5m、延長80mを拡張して調査したところ、幅24mの削平された墳丘部と幅（北）8m以上（南）18mの大形古墳跡と、南側に小形の方形周溝を検出した。調査区は前方後円墳（くびれ部近く）をナナメに横断しているものと考えられる。記録に残る丸山1号墳（全長41.5m）とその陪塚に該当するものである。

主な遺構

主な遺物

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
丸山1号墳	前方後円	検出 後円部24m 北側周溝 8m以上 南側周溝 18m 深1m 文献によれば 全長41.5m 後円部径 29m 高さ5.4m	———	・須恵器 堤瓶・器台 高坏・坏 甕・台付壺 ・土師器 高坏 ・円筒埴輪 ・朝顔形埴輪 ・形像埴輪 人形・家	6C前	
陪塚	方	不詳	———	———	———	

関連文献	鈴木敏雄「三重縣鈴鹿郡石薬師村考古誌考」

No.	72	遺跡名	沢城・沢遺跡（試掘）	所在地	鈴鹿市西条町城之西
調査原因	住宅建設	事業主体	三交不動産株式会社	調査機関	鈴鹿市教育委員会
調査期間	H4.1.29	調査面積	90㎡	担当者	浅尾　悟

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地点は沢城本丸跡から約200m西にあたる。周知の遺跡内ではないが字名「城之西」から、沢城に関わる何らかの施設があることも予想されたため、3m×10mの東西トレンチを3ヶ所設定して行った。 基本的層序は第1層・黒褐色砂質土（耕作土）、第2層・黒色粘質土（床土）、第3層・灰白色砂礫土（地山）で、第1層上面から第3層上面まで0.6〜0.8mほどである。	3試掘坑共、明確な遺構は確認されなかった。	第2層を中心に山茶碗（鎌倉時代）、土師器皿・鍋（室町時代）が比較的多量に出土した。 土師器は明らかに沢域に伴う遺物と考えられる。

関連文献	

No.	73	遺跡名	大垣内古墳	所在地	亀山市山下町字大垣内
調査原因	鈴鹿川災害復旧事業（山下橋架橋）	事業主体	亀山市	調査機関	亀山市教育委員会
調査期間	H3.2〜H3.7	調査面積	279㎡	担当者	亀山　隆・山口　昌直

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鈴鹿川右岸の段丘先端に所在する。 墳丘は、西半分を削平されているが、周溝の幅3m深さ60cm、復元径約20m高さ5mの規模をもつ円墳で、5世紀後半から6世紀初頭の築造と思われる。中心主体部は木棺直葬で、木棺痕跡が約4分の1程度遺存していた。 墳丘下層から、縄文中期末の竪穴住居が4棟確認でき、うち3棟は切り合い関係が明確である。 調査区域一帯は、古くから山下地区の三昧として使用されており、今調査でも江戸時代中頃〜明治時代初頭の人骨が出土している。	○縄文時代 ・竪穴住居4棟 ・土坑 ・ピット ○古墳時代 ・直径約20mの半壊円墳 ・主体部木棺直葬 ・周溝（幅3m、深さ60cm） ○近世墓 ・近世墓	・縄文土器 ・石鏃 ・石錐 ・石斧 ・横矧板鋲留式短甲1 ・鉄刀1 ・鉄鉾1 ・鉄槍（柄に文様有）1 ・鋸1 ・鹿角装刀子1 ・墳丘築造時の ○祭祀遺物（高杯） ・六道銭 ・灯明皿

関連文献	『亀山市文化財調査速報』第9号、第10号

No.	74	遺跡名	鈴鹿関関連遺跡	所在地	鈴鹿郡関町大字新所字東町北1819-1・1824-1
調査原因	宅地造成	事業主体	株式会社三商	調査機関	関町教育委員会
調査期間	H3.6.21〜6.26	調査面積	1,939㎡	担当者	木崎　辰雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
古代、日本三関の一つ伊勢鈴鹿の関設置場所の範囲内と想定されている。 グリットを掘削、土層の観察と遺物・遺構の有無確認をした。	なし	なし

関連文献	

No.	75	遺跡名	県史跡西の追分	所在地	鈴鹿郡関町大字新所字権現地内
調査原因	道路改良	事業主体	関町	調査機関	関町教育委員会
調査期間	H4.2.25	調査面積	22.8㎡	担当者	木崎　辰雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
旧東海道と大和道の分岐点。昭和57年県史跡に指定。 道路改良に伴い、トレンチにより土層の観察と遺物・遺構の有無確認を実施した。	なし	なし

関連文献	

No.	76	遺跡名	峯治城跡	所在地	津市一身田上津部田
調査原因	宅地開発	事業主体	三交不動産株式会社	調査機関	津市教育委員会
調査期間	H.3.3.25～H.4.1.14	調査面積	約7,000㎡	担当者	池端　清行・中村　光司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
応永年間（1394～1428）、佐脇勝久によって築城され、織田信長の伊勢進攻によって滅ぼされたとされる城館。 調査の結果、城域と考えられる範囲は、西側の堀（外堀）によって区画されると考えられる。 主郭をめぐる西北の堀も大規模で巾6m、深さはは土塁より4m以上を測る。また主郭内を横切る堀切も検出され注目される。 郭は、Ⅱ郭で出土遺物が多く、羽釜・茶釜の出土も多いことから居住としての郭の役割をもったものであろう。	第Ⅰ郭（主郭） 堀切、土坑、ピット 井戸（素堀） 第Ⅱ郭 井戸（石組）、土坑 堀立柱建物 土塁・堀	・羽釜、茶釜 ・土師器皿 ・常骨焼甕 ・天目茶椀 ・捏鉢、擂鉢 ・青磁椀、磁器片
丘陵西側では、弥生～奈良にかけての竪穴住居址10棟ほども検出された。（城山遺跡）	・竪穴住居址10棟	・高坏・台付甕 ・須恵器

関連文献	『伊勢名勝志』

No.	77	遺跡名	渋見砦跡	所在地	津市渋見町
調査原因	宅地造成	事業主体	六合建設	調査機関	津市教育委員会
調査期間	H3.3～H3.5	調査面積	約600㎡	担当者	米山　浩之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
安濃川左岸の長岡丘陵の端部に立地する戦国時代の城跡。平成元～2年に主部とそれに付属する郭約7,000㎡を調査。今回は城跡の東南部にある2つの小郭を調査。東側の小郭 からは掘立柱建物、井戸等から居住性の窺える遺構が検出されたが、西側の小郭は近世以降の削平と考えられる。	・掘立柱建物 ・井戸、土坑、溝	・土師器（羽釜・皿） ・常滑焼甕 ・近世陶磁器

関連文献	

No.	78	遺跡名	六大B遺跡	所在地	津市大里窪田町
調査原因	団体営圃場整備事業	事業主体	南窪田土地改良区	調査機関	津市教育委員会
調査期間	H.3.8.1～8.29	調査面積	200㎡	担当者	中村　光司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中勢道路の東側約100mほどの所が調査区。 遺構密度は低い。	・ピット ・土坑	め壷、高坏 ・山茶碗

関連文献	

No.	79	遺跡名	位田東遺跡	所在地	津市北河路町
調査原因	三重産業振興センター建設	事業主体	(財)三重産業振興センター	調査機関	津市教育委員会
調査期間	H3.9	調査面積	約200㎡	担当者	米山　浩之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
安濃川左岸の沖積地に立地する。試掘調査で畦畔状の高まりが検出され、プラントオパール分析でも可能性があるとでたのを受けて平面的に検出を試みたが、結果的に検出されなかった。	なし	・土器片

関連文献	

No.	80	遺跡名	平田遺跡	所在地	津市北河路町
調査原因	三重産業振興センター建設	事業主体	(財)三重産業振興センター	調査機関	津市教育委員会
調査期間	H3.9～H3.10	調査面積	約1,000㎡	担当者	米山　浩之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
位田東遺跡のすぐ北の微高地上に位置する遺跡。 平安時代末の掘立柱建物棟とそれに付属する井戸、土坑等を検出。柱穴には根石あるいは礎板をもち北東隅に1×2間の土坑がある。	・掘立柱建物（5×4間） ・井戸・土坑・溝	・山茶碗、山皿、土師器皿

関連文献	

No.	81	遺跡名	蔵田遺跡	所在地	津市北河路町
調査原因	三重産業振興センター建設	事業主体	(財)三重産業振興センター	調査機関	津市教育委員会
調査期間	H3.10～H4.3	調査面積	約3,400㎡	担当者	米山　浩之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
平田遺跡のすぐ北の微高地間の低地に位置する。今回の調査区では集落の外山に当たり河道・溝が多く検出された。弥生時代の堰は遺存状態がよく注目される。他に護岸処理した古墳時代の水路等が検出された。	・河道・堰・水路 ・溝	・弥生土器 ・土師器 ・須恵器 ・木製品（柱・壁板・坑・機織具・等）

関連文献	

No.	82	遺跡名	北ノ垣内遺跡	所在地	津市高茶屋小森町北ノ垣内
調査原因	宅地造成	事業主体	クボタハウス株式会社	調査機関	津市教育委員会
調査期間	H.4.1.27～2.26	調査面積	1,500㎡	担当者	池端　清行・中村　光司

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
相川の支流、天神川の南側（右岸）に位置する遺跡。 遺物は、黒色粘質土の包含層に破片が多く含まれる。古墳～室町と時期は長期にわたる。地山は砂地で、旧海岸線近くと考えられる。 調査区西半では、包含層の下に厚く植物遺体が堆積し旧雲出川河口付近の低湿地が、複雑に入り組んでいた一部分とも考えられる。	・溝1条（鎌倉時代）	・土師器（台付甕・皿等） ・須恵器 ・山茶碗 ・瓦器碗

関連文献	

No.	83	遺跡名	雲林院青木遺跡	所在地	安芸郡芸濃町雲林院字青木
調査原因	河原・新田地区土地改良事業（圃場整備）	事業主体	芸濃町	調査機関	芸濃町教育委員会
調査期間	H.3.2.8～H.3.6.6	調査面積	1,800㎡	担当者	油田　秀紀

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は、安濃川中流右岸の河岸段丘上に位置し、東側に北奥遺跡、南側に下川遺跡が近接する。今回の調査は、排水路等で削平される部分の1.800㎡を行なった。 全体的には、平安時代末期から鎌倉時代の遺構が占めるが、谷地形に沿った段丘上では、縄文時代後期の土坑を数基検出した。出土した遺物は、深鉢（中津式）の破片が中心であるが、1.8m程の土坑からは、双耳壺（中津式）の完形品が1点出土した。平安時代 末期から鎌倉時代の主な遺構としては、東西に流れる4m程と8m程の大溝を2条、集石土坑を数基検出した。他の時代の遺物も若干混じる。 遺構面が現在の耕土のほぼ直下にある上、近年の排水路等による削平の為、検出等に困難を要した。	・縄文時代後期 土坑、6基 ・平安時代末期～鎌倉時代 大溝2条 集石土坑3基 方形竪穴状遺構1基 堀立柱建物10棟 土坑、溝	縄文土器（深鉢、双耳壺） 黒曜石 土師器（杯、皿、カメ、羽釜、「伊勢型」鍋） ロクロ土師器、山茶椀、山皿、灰釉陶器、緑釉陶器片、擂鉢、白磁（椀）木製品、砥石、土錘、

関連文献	

No.	84	遺跡名	下川遺跡	所在地	安芸郡芸濃町雲林院字宗下他
調査原因	県道津・芸濃・大山田線改良事業	事業主体	県土木部	調査機関	芸濃町教育委員会
調査期間	H.3.8.19～12.17	調査面積	1,600㎡	担当者	油田　秀紀

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
当遺跡は、安濃川中流右岸に位置し、後背丘陵地より、安濃川に注ぐ一支流によって形成された扇状地上に立地し、雲林院青木遺跡の南側にあたる。 全体として、平安時代末期から室町時代の遺構であるが、浅い溝より弥生土器が一点出土している。主な遺構としては、区画溝と思われる溝のコーナーに一辺3m程の方形の石組土坑を検出した。 埋土中には、若干の灰が混入し、出土遺物の中には、羽釜の他にフイゴ羽口とるつぼと思われる表面の焼けた小型の土器が数点出土した。雲林院には、刀鍛冶があったことから、それとの関連も考えられる。 又、大溝と思われる溝のおち込みが見られるが、現存する県道にのびている為、全貌は、確認できなかった。東西に200m、幅4m前後のトレンチ状の調査の為、全貌は、明らかではないが、遺跡の縁辺もしくは、境目かと思われる。	・堀立柱建物6棟 ・井戸1基 ・石組土坑1基 ・溝、土坑	・弥生土器（壷） ・土師器（杯、皿、羽釜、茶釜） ・山茶椀、山皿、灰釉陶器、鉄釉陶器、瓦質陶器片、黒色土器、常滑甕、擂鉢、天目茶椀、フイゴ羽口、大形土製品、瓦

関連文献	『三重県埋蔵文化財センター年報　平成元年度』（三重県埋蔵文化財センター1990）

No.	85	遺跡名	内多馬場遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字内多字馬場
調査原因	工業団地造成事業	事業主体	安濃町	調査機関	安濃町遺跡調査会
調査期間	H.3.5.7～11.2	調査面積	3,600㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
県道窪田・津・草生線を南に接し、西を伊勢自動車道に接した標高38～40mの見当山丘陵上の遺跡である。また、昨年度調査した大城古墳郡から約500m東に位置する。 飛鳥時代末から奈良時代の竪穴住居跡が丘陵の縁に沿って弧状に並んで検出された。また、内側に奈良時代以降の堀立柱建物跡が検出された。 調査の結果、飛鳥時代から中世の複合した集落遺跡であることが判明した。また、調査地は、昨年度、県埋蔵文化財センターの六大B遺跡の調査で明らかになった奄芸郡「窪田郷」と安濃郡の境にあたり関連が注目される。	・竪穴住居跡 8棟 ・堀立柱建物跡 7棟 ・溝 3条 ・土坑 5基	・須恵器杯身、高杯、短頸壷 ・土師器壷、甕、山茶碗 ・瓦、石製品、砥石 ・鉄製品

関連文献	『一般国道23号 中勢道路 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ』（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター1990.3）

No.	86	遺跡名	平塚遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字戸島字平塚
調査原因	工業団地造成事業	事業主体	安濃町	調査機関	安濃町遺跡調査会
調査期間	H.3.10.1.～11.2	調査面積	880㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要

経ヶ峰山麓から派生する台地上にあり、中勢世用水の分布調査時には平塚1～4号墳が知られていた。当遺跡は、先の古墳郡の北側の尾根に新規発見の2基の古墳の他、縄文土器、中世墓も発見された。新規発見の2基の古墳を平塚6・7号墳と呼称した。7号墳は保存されることになり、6号墳及び中世墓について調査を進めたところ、6号墳は中大谷13号墳と同様な竪穴系横口式石室の流れを汲む主体部であることが判明した。埋葬は出土須恵器から4時期に渡り行われたと推定される。また、小竪穴式石室も1基検出された。

中世墓は21基検出され、土坑中に焼いて埋葬したものと推定される。また、銅銭がが出土したものもあった。

縄文土器は、試掘調査中、土坑内から出土したものと包含層から出土したもので、前者は縄文時代早期後半の茅山下層式、後者は中期末か後期初めの中津式と推定される。

今回の調査の結果は、①安濃川流域で初めて縄文時代早期に遡る遺跡が発見されたこと、②安濃川流域の初期の横穴式石室が滋賀県の湖東地域に見られる南朝鮮系の渡来人である「依智秦氏」が築造したと推定される古墳の横穴式石室と共通性があるということが判明したことである。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
平塚6号墳	円墳	径12m	横穴式石室 玄室 3.6m×1.25m 羨道 1.5m×0.5m	・須恵器 杯　20点 　　1点 壺　1点 甕　1点 提瓶　5点 ・鉄製品 鉄刀　2点 鉄鏃　10点	TK10 ｜ TK43 (6世紀前半～末)	
小竪穴式石室			1.2m×0.5m	須恵器 短頸壺	7世紀前半	

関連文献

水野　正好編　『図説発掘が語る古代史』4近畿編（新入物往来社1985年）
浅生　悦生　『中大谷13号墳・中大谷16号墳発掘調査報告書』
（安濃町遺跡調査会1988年5月）

No.	87	遺跡名	岡副遺跡	所在地	安芸郡安濃町大川西字岡副
調査原因	農業集落道新設工事	事業主体	安濃町	調査機関	安濃町遺跡調査会
調査期間	H.3.11.25.～12.26	調査面積	480㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地は安濃川右岸の低位段丘上にあり、北東側に岡南古墳郡、藤ヶ森城の独立丘陵と隣接している。調査区は便宜上、A・B地区に分けて行った。 A地区では江戸時代の溝1条及び、調査区南端で、弥生時代から中世にかけての旧河道1条を検出した。また、時期不明の土坑1基も検出した。 B地区では、A地区の旧河道と続くと推定される流路の他、江戸時代の大溝1条、土坑、古墳時代の溝1条、中世の柱穴等が検出された。 今回の調査は岡南古墳郡の成立時期に近い遺溝が確認され、弥生時代中期？に遡る旧河道が発見された。おそらく、北大谷川と思われる。さらに、江戸時代の地割りに関連すると思われる大溝、土坑などが検出されたことは、当時の土地利用の方法を考えるうえで貴重な成果をもたらしたといえよう。	○弥生時代 ・旧河道　1条 ○古墳時代 ・溝　1条 ○中世 ・柱穴　数個 ○江戸時代 ・大溝　1条 ・柱穴　数個 ・土坑　数基	・弥生土器　数点 ・石鏃　1点 ・須恵器破片　数点 ・土師器　数点 ・古伊万里焼　数点 ・瓦破片　数点

関連文献

No.	88	遺跡名	天野山遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字今徳字天野山
調査原因	宅地造成事業	事業主体	高杉開発株式会社	調査機関	安濃町遺跡調査会
調査期間	H.4.1.8.～2.22	調査面積	491㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
以前は今徳B遺跡と呼称されていた場所で今回の調査から小字名を冠して天野山遺跡とした。穴倉川右岸の長谷山から伸びる丘陵上で、平田古墳郡の北東約700mに位置する。 調査の結果奈良時代から中世・江戸時代にかけての集落遺跡であることが判明した。	・竪穴住居跡　4棟 ・堀立柱建物　1棟以上 ・溝　20条 ・土坑　22基	須恵器・土師器・陶器・山茶碗・瓦・砥石。

No.	89	遺跡名	南口遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字内多字南口
調査原因	宅地造成事業	事業主体	三鈴ハウス株式会社	調査期間	安濃町教育委員会
調査期間	H.3.4.22	調査面積	20㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
調査地はすでに、削平を受けていた。	なし。	なし。

関連文献

No.	90	遺跡名	西前野遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字今徳字西前野
調査原因	工場建設事業	事業主体	共立印刷株式会社	調査機関	安濃町教育委員会
調査期間	H.3.11.22	調査面積	491㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
西前野遺跡として周知されていた場所であるが、穴倉川と接しており、なおかつ削平を受けていた。	なし。	なし。

関連文献

No.	91	遺跡名	蛇ヶ谷・合野遺跡	所在地	安芸郡安濃町大字田端上野字北合野
調査原因	町道改良工事事業	事業主体	安濃町	調査機関	安濃町教育委員会
調査期間	H.3.11.29・12.6	調査面積	29.6㎡	担当者	田中　秀和

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
昭和37年に発見された遺跡で縄文時代前期の遺物が採取されている。当時畑であった場所は、グラウンドとして埋められていた。 検出された土坑はおそらく縄文時代のものと思われる。 範囲が狭く他の試堀坑で遺構が発見されなかったので、土層及び遺構についての記録保存を行った。	土坑1基	なし。

関連文献

No.	92	遺跡名	川南中世墓（試堀）	所在地	安芸郡美里村家所3465ほか
調査原因	工業団地造成	事業主体	美里村	調査機関	美里村教育委員会
調査期間	H.3.9.21	調査面積	100㎡	担当者	本堂　弘之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
開発予定地の北東に、コブ状につき出た丘陵の東側。標高120mの頂部から、斜面にかかる肩の部分に、人頭大の石が散乱していた。範囲は、南北12～15m、東西6～8m	石組が東西に連なる。	・常滑焼甕（または壷）片 底部　1 肩部　2 ・五輪搭、地輪　2 ・石仏（地蔵？立像）2

関連文献

No.	93	遺跡名	久居城址	所在地	久居市西鷹跡町
調査原因	県道新設工事	事業主体	県都市計画課	調査機関	久居市教育委員会
調査期間	H.3.7.31～H4.3.31	調査面積	5,000㎡	担当者	辻　富美雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
寛文10年に開かれた久居藩の城中にあたり、武家屋敷が配置されていた。	武家屋敷の建て物遺構は検出できなかったが、江戸時代初期の各武家屋敷の地割り溝が確認された。	近世陶磁器

関連文献

No.	94	遺跡名	赤坂遺跡		所在地	久居市木造町字赤坂
調査原因	県一般農道改良工事	事業主体	県農林水産部		調査機関	久居市教育委員会
調査期間	H3.11.5～12.5	調査面積	1,000㎡		担当者	辻　富美雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川沿いの低湿地に営まれた遺跡である。 付近には昭和32年に発掘調査が実施された縄文～中世にまたがる赤坂遺跡、弥生～中世にまたがる長持元屋敷遺跡、また現在は開墾されその姿をとどめていないが古墳時代前期の大塚山古墳などが存在している。遺跡は縄文時代から中世にわたる集落遺跡である。	○弥生時代 ・堀1 ・塀に隣接して立ち木及び土器群 ○5世紀後半 ・堀1	○弥生時代 ・後期の土器群 ・壺・甕・高杯・碗他 ○5世紀後半 ・須恵器　坏・壺 ・土師器　台付甕・壺・小型丸・底壺他 ○木器　建築用材・きぬた・木串他

関連文献

No.	95	遺跡名	里ノ内遺跡		所在地	久居市川方町字里ノ内
調査原因	民間宅地開発	事業主体	池田土地開発		調査機関	久居市教育委員会
調査期間	H3.5.20～7.10	調査面積	2,000㎡		担当者	辻　富美雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
雲出川の河岸段丘（久居段丘）上の南端に遺跡は位置している。 付近には奈良時代集落遺跡、あるいは中世の川方城址などが所存する。 里ノ内遺跡は弥生時代から奈良時代にかけての集落遺跡である。	○弥生時代 中期に属する土器を伴う方形土坑3 住居址1 ○奈良時代 掘建柱建物2 ○中世（室町時代） 濠条遺構2	・弥生土器 第3様式甕・壺・甑 ・石器　石鋏・石包丁 ○奈良時代 須恵器　碗 土器器　皿 ○中世 山茶碗

関連文献

No.	96	遺跡名	野田遺跡		所在地	一志郡嬉野町大字野田
調査原因	宅地造成	事業主体	㈱七福林材会		調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H3.3.10～4.20	調査面積	1,400㎡		担当者	和気清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中村川右岸における低湿地の遺跡である。 周辺には西山古墳など遺跡が所在する地帯であるが現状においては、周辺の遺跡の状況については不明である。 今回の調査区においては、縄文時代晩期～中世（鎌倉後期）にかけての湿地帯と自然堤防が確認された。	・溝2条 幅50cm・深さ30cm 幅1m・深さ30cm ・その他 40cm程度の柱穴 昨年度調査段階においては流水路であるとした遺構については、その後の調査により、自然堤防と後背湿地であることが確認された。 この湿地の上面には1mほどの土坑が確認され、その上面に弥生時代前期の土器が確認された。	○縄文時代 1条の凸帯を有する破片であり、凸帯部には貝殻による施紋が施される。 石鏃 ○弥生時代 前期新段階の遠賀川式の土器と亜式の土器が出土した。 ○古墳時代 須恵器・坏蓋など土師器 ○奈良時代　土師器椀 ○中世 鎌倉を主とする山茶碗

関連文献

No.	97	遺跡名	ミツコベ古墳	所在地	一志郡嬉野町須賀字ミツコベ
調査原因	ふるさと館進入道路建設	事業主体	嬉野町企画課	調査機関	嬉野町教育委員
調査期間	H3.4.10～4.15	調査面積	40㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
県道松阪・久居線の西側部分の、かって墳丘を分断されたミツコベ古墳の周溝の一部の調査である。 ミツコベ古墳は嬉野町須賀に立地する古墳であり、遺跡地図においては径20ｍの円墳であるとされたが、今回の調査においては径25ｍ以上の円墳であると推定される。	周溝肩の１／８程が確認されたが墳丘側の周溝部については確認することが出来なかった。周溝は深く地山面から約60㎝掘り込まれたものである。	今回確認された遺物は埴輪の小片である。 円筒埴輪はＢ種ヨコハケが施されるもので、タガも扁平な台形を呈するものである。 他の埴輪は線刻を有する埴輪や鋸歯紋を施す破片があり、人物埴輪や盾形埴輪等も存在していたものであると考えられる。

関連文献	

No.	98	遺跡名	上尾土窯跡Ａ・Ｂ区	所在地	一志郡嬉野町大字滝之川
調査原因	ゴルフ場建設	事業主体	三栄開発	調査機関	嬉野町教育委員
調査期間	H3.4.23～11.5	調査面積	4,600㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中村川左岸の丘陵・及び谷筋に形成される窯跡群であり。丘陵上には奈良時代の窯跡が存在し、その窯跡群の下段の水田地においては、窯跡の灰原層が広がる。 灰原層上面には中世の遺物包含層が確認された。 また、谷部の南東部に形成される谷部においては谷底部分より石組の遺構やその中より木材等が確認された。	【窯跡３基】 １号窯 ・全長７ｍ、最大幅1.4ｍ地下式、燃焼部については削閉れているため欠損する。 ２号窯 ・全長７ｍ、最大幅1.4ｍ地下式、燃焼部については削閉れているため欠損する。 ３号窯ａ ・全長11ｍ、最大幅1.6ｍ半地下式、側面には粘土が被覆されているが、床面部については明らかに粘土が被覆されておらず、還元化はされているが、床としての硬質化はしていない。 ３号窯ｂ ・３号窯ａの直下で確認された窯跡である。全長11ｍ、最大幅1.7ｍ、地下式であり、床・側面については粘土の被覆がなされておらず、岩盤層のくり貫きによる。 ３号窯は燃焼部については、両側面に凸面布目により補強がなされる。 谷部に確認された石組は３列確認され、２列は幅約７ｍ間隔で平行する。	○奈良時代 ・須恵器 坏蓋・身・甕等 凸面布目平瓦 ・金属製品・鑿 その他 ・木材・曲げ物底・木　製刀子等

関連文献	

No.	98	遺跡名	土尾土窯跡C区	所在地	一志郡嬉野町大字滝之川
調査原因	ゴルフ場建設	事業主体	三栄開発	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H4.1.10～1.30	調査面積	1,600㎡	担当者	和気　清章

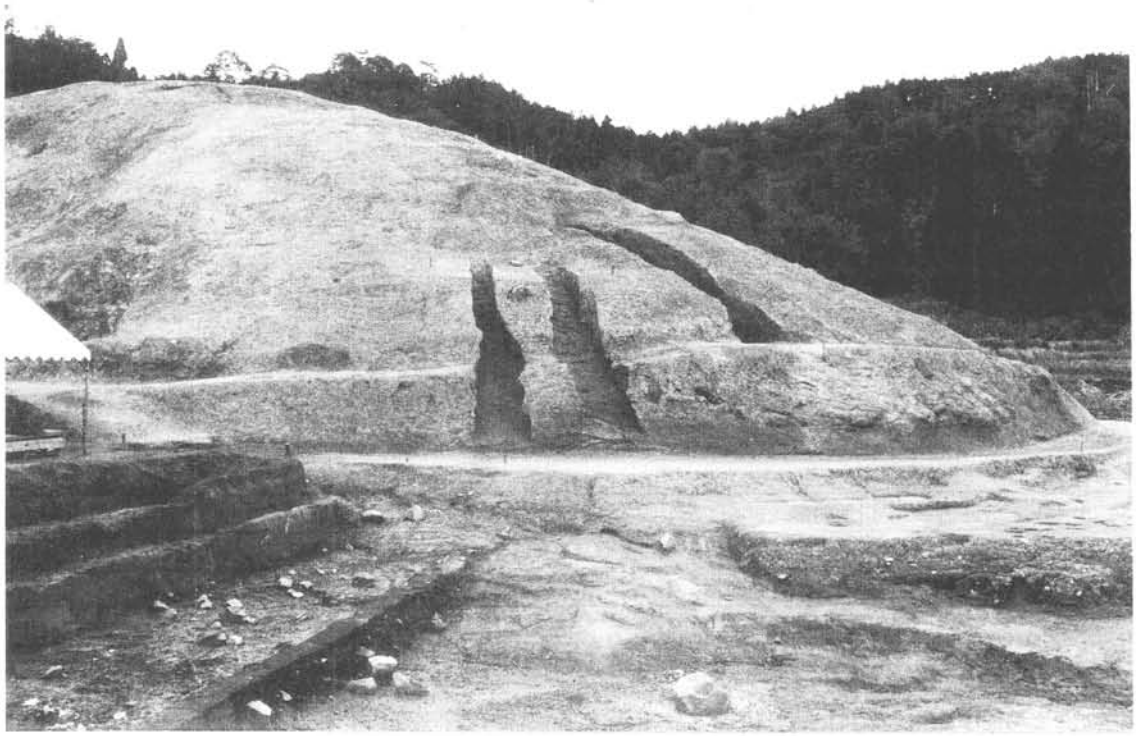
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
土尾土窯跡の最南端にある丘陵に位置する遺跡である。 当初丘陵上より土師器が出土することから、丘陵上の平坦部に発掘区を設定したが、溝や石組み遺構等が確認されたが、工房等の須恵器生産と直接的な関係を示す遺構については確認することが出来なかった。	溝1条・幅60cmで丘陵に対して直行する溝である。区画溝であると考えられる。 土坑7基 Ｐｉｔ等 石組炉・径50cm程度の円形の石組炉である。	○奈良時代 土師器甕

関連文献	

No.	99	遺跡名	下沖遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字宮野字下沖
調査原因	県営ほ場整備事業	事業主体	県農林水産部	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H3.11.15～H4.1.20	調査面積	1,700㎡	担当者	和気　清章

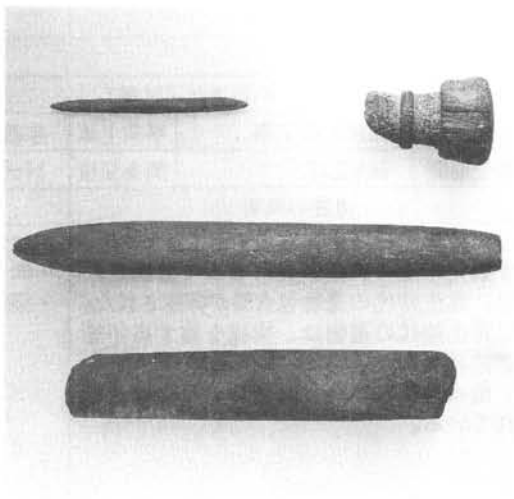
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中村川右岸の標高39mの河岸段丘上に位置する縄文時代を主とする遺跡である。 この周辺部においては釜生田遺跡（早期～）・井之広遺跡（早期末～）・弥五郎垣内遺跡（後期）・東野B遺跡（早期）と早期からの遺跡が点在する。また天白遺跡については下沖遺跡と同様に中村川に面した河岸段丘上に立地しほぼ同時期の遺跡であり、今後そのあり方については再検討を要する。 下沖遺跡における遺跡の範囲は約10,000㎡の遺跡範囲であると推定される。	○縄文時代 土坑や柱穴状遺構 竪穴式住居1 柱穴状の遺構は径30cm程度の円形の遺構が多数確認された、これらの遺構については、建物に伴うものであるとは考えにくく、今後その性格については再検討を要するものである。 ○古墳時代 横穴式石室1 わずかに片袖になる横穴式石室であり、規定石の一段のみが残存していたものである。	・土偶11体 板状の土偶4体 立体の土偶1体 土偶の頭部3体 手・足3 ・石刀7本 把飾り1 無装飾6 ・石棒3本 ・土器） 今回確認された縄文土器は、 早期）黄島式 前期）北白河下層C字爪形文 中期）あり 後期）一乗寺K～宮滝 晩期）滋賀里Ⅲ（浅鉢）

関連文献	



上尾土窯跡

下沖遺跡出土　土偶



石剣など

No.	100	遺跡名	下之庄東方遺跡	所在地	一志郡嬉野町大字中川
調査原因	区画整理事業	事業主体	南浦土地区画整理組合	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H4.2.20～調査中	調査面積	8,000㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
中村川沿い下之庄東方遺跡の東に位置する段丘上に所在する遺跡である。 遺跡の中心年代は鎌倉後期が中心の年代であり、南北に流れる溝2条が主になり、それに東西方向の溝が3条形成されている。 また溝に伴う形の柱穴等も確認されており今後、数棟の掘立柱建物が確認することが出来よう。	溝9条 溝1・幅1m・深さ50cm・長さ20m 溝2・幅0.8m・深さ50cm・長さ20m強 井戸2基 共に石組の井戸で、上半部は崩れており下半部のみ確認された、最下段には曲げ物の設置は見られず岩盤のくり抜きがなされる。	・山茶碗 ・土師器皿 ・羽釜

関連文献

No.	101	遺跡名	中川西遺跡（試掘）	所在地	一志郡嬉野町大字中川
調査原因	中川駅区画整理事業	事業主体	中川駅区画整理組合	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H3.9.～	調査面積	500㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
近鉄伊勢中川駅東側に広がる水田地帯である。 当初分布調査においては、ほ場整備事業が完了している事から遺物の散布状況は希薄であり、遺跡の存在率は少ないものであると推察されたが、表土層の除去がある事から工事中に試掘及び立ち会いを行った結果、ほ場整備事業の除去後良好な遺物包含層が確認された。主な時期は奈良時代を主とした時期の遺物が確認された。	不明	○奈良時代 甕・坏等

関連文献

No.	102	遺跡名	小谷遺跡（試掘）	所在地	一志郡嬉野町大字天花寺
調査原因	霊園拡張工事	事業主体	宗教法人天華寺	調査機関	嬉野町教育委員会
調査期間	H4.2.27	調査面積	34㎡	担当者	和気　清章

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
天花寺山丘陵上に立地する遺跡であり、平成元年度の試掘調査によって確認された。弥生時代の遺物包含層が確認された。 弥生時代の遺物は、横線を施す高坏等が確認された。 他の遺物には奈良時代等の遺物は含まれている。	・柱穴 ・溝 ・竪穴式住居1	○弥生時代後期 ・高坏 ○奈良時代 ・坏蓋

関連文献

No.	103	遺跡名	片野遺跡第4次調査	所在地	一志郡一志町片野字北浦
調査原因	共同住宅建設	事業主体	中勢産業株式会社	調査機関	一志町教育委員会
調査期間	H4.2.12～3.17	調査面積	約800㎡	担当者	伊勢野久好

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
片野遺跡は雲出川右岸の中位段丘上に位置しており、縄文～近世まで連なる著名な複合遺跡である。 既に3回発掘調査が実施されているが、今回の調査区は県教委によって為された県道丹生寺一志線の調査区（第一次調査）の東端付近のすぐ南側に位置する。 調査の結果、各時代の遺構・遺物が認められたが、特筆すべきは方形周溝墓の1基に組合式木棺とみられる主体部が検出されたことと、飛鳥・奈良時代の土器廃絶坑であろう。このうち後者は、暗文土師器を中心として100個体以上の土器が出土したもので一括資料として貴重な資料となろう。	○弥生時代中期 方形周溝墓4 ○飛鳥・奈良時代 竪穴住居6棟以上 土坑 ○中世 掘立柱建物5棟以上 土坑墓5墓以上 ○近世 土坑墓6墓以上	○弥生土器 ・壺、甕（Ⅲ～Ⅳ期） ・石鏃 ○飛鳥・奈良時代 ・土師器（皿・椀・蓋等） 100個体以上 ・須恵器 ○中世 ・土師器（皿・鍋） ・山茶椀 ・陶磁器類 ○近世 ・陶磁器類

関連文献

No.	104	遺跡名	薬師谷古墳群	所在地	一志郡一志町八太
調査原因	ゴルフ場造成	事業主体	株式会社　丸二	調査機関	一志町教育委員会
調査期間	H3.1.10～継続中	調査面積	約4,000㎡以上	担当者	伊勢野久好

遺　跡　の　概　要

前年度からの継続調査。延長200m、幅20m弱の尾根上に古墳11基が、また谷筋には石切場跡（採石場・加工場等）が築かれている。このうち古墳群については、すべて片袖式の横穴式石室であり、2～3基がひとつのグループをなして偏在している。

各石室の特徴は片持送りで、玄室と羨道部に段差、もしくは框石を有し、閉塞石が残存するものも多い。時期はMT15型式のもの1、TK10型式のもの6、TK43のもの1、他は調査中で遅くとも当古墳群はTK10型式には群集墳として成立している。各古墳の遺存状態も良好で、副葬品の配置にも3パターンが認められ、当時の葬法を知る手がかりとなろう。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
薬師谷1号墳	方墳	一辺約10m	横穴式石室	杯身、ガラス玉、耳環等	6C中	閉塞石、框石
〃 2号墳	不整円形	直径約8m	〃	刀子、杯身、広口壺	6C中	〃 、〃
〃 3号墳	〃	〃 約10m	〃	杯身3セット 横瓶	6C中	閉塞石
〃 4号墳	方墳	一辺約10m	〃	杯身・堤瓶 刀子・鉄鏃	6C中	〃 、框石
〃 5号墳	円墳	直径約10m	〃	杯身・鉄刀 刀子・鉄鏃	6C中	
〃 6号墳	方（？）墳	一辺約8m	〃	杯身・𤮔	6C後	閉塞石、箱式石棺
〃 7号墳	円墳	直径13m	〃	杯身・堤瓶	6C中	〃 、框石
〃 8号墳	不整形	約10m	〃	杯身3セット土師椀	6C前	〃 、〃

関連文献

No.	105	遺跡名	世古地内（試掘）	所在地	美杉村大字下多気世古地内
調査原因	宅地造成	事業主体	コスモ住宅	調査機関	美杉村教育委員会
調査期間	H3.11.26	調査面積	27㎡	担当者	宮崎洋史

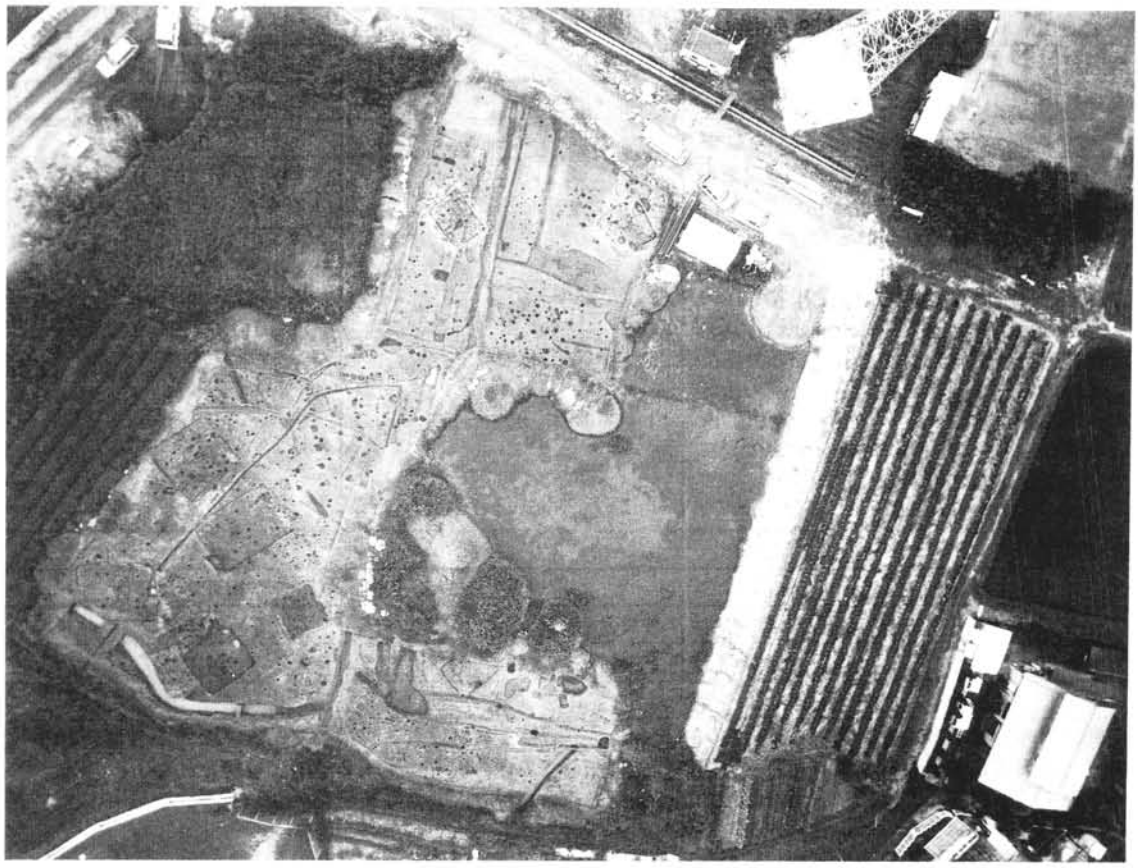
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
八手俣（はまたて）川の川岸段丘の畑地である。この場所は通称「ナカヤマ」と呼ばれており、「多気古図」又は「北畠城下図」を見ると、中山丹後守の屋敷がこの附近に記されている。 雑草等により、表面調査は充分にできなかったので、試掘調査をした。	なし	土師器片１ヶと陶器片数片のみ

関連文献	多気古図

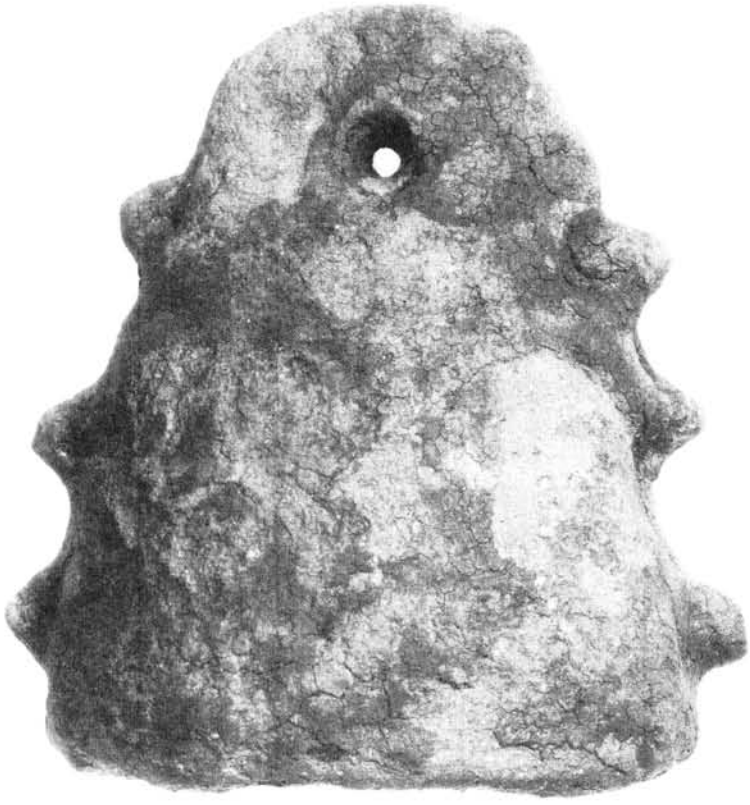
No.	106	遺跡名	涌早崎遺跡	所在地	松阪市大津町涌早崎
調査原因	民間宅地造成	事業主体	三重エステート株式会社	調査機関	松阪市教育委員会
調査期間	H3.4.15～8.10	調査面積	約1,600㎡	担当者	福田昭、西田尚史

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
名古須川と金剛川に挟まれた丘陵の端部に位置する弥生時代中期から中世にかけての遺跡である。 遺跡の中央部、突端部は河川改修や道路造成により削平され、消滅していた。残存する畑部分に遺跡があった。 平成２年の試掘調査でも弥生土器、須恵器、土師器が出土している。 平成２年～３年の本調査で竪穴住居12棟、掘立柱建物、溝、土坑、等が検出されている。竪穴住居は隅丸方形を呈し、主柱穴、炉端、周溝も検出されている。多くは出土遺物より、弥生中期後半～後期初頭と思われる。 ピット内より銅鐸形土製品も出土している。 溝は中世のもので、山茶椀、土師皿、鍋等が出土している。	・竪穴住居12棟 ・掘立柱建物９棟 ・土坑８基 ・溝６条 ・井戸１基	・銅鐸形土製品 ○弥生土器 把手付水差形土器 台付鉢形土器 高杯、鉢、甕 細頸壷、無頸壷 ○須恵器、 林身、蓋、高杯 ○中世の土器 鍋、土師皿、山茶椀 山皿、羽釜 ○その他 石包丁 太型蛤刀石斧 石鏃 紡錘車（土製） 土錘 等

関連文献	



涌早崎遺跡航空写真



涌早崎遺跡出土
銅鐸型土製品

No.	107	遺跡名	松阪城跡（試掘）	所在地	松阪市殿町
調査原因	公共施設設置	事業主体	松阪市	調査機関	松阪市教育委員会
調査期間	H3.9.24～25	調査面積	20㎡	担当者	西田尚史・福田昭

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
松阪城三の丸跡に昨年まで蒸気機関車が置かれていた。 遺構は何も検出されなかった。何度か整地され深さ40～90cmの深さまで撹乱されていた。撹乱はほぼ地山面まで達していた。 遺物も地山直上から瓦片・陶磁器片（志野焼等）がわずか出土しただけだった。 地山のレベルは、城跡周囲の民家の土地の高さに近かった。 調査は、1辺2mのグリッドを2m間隔で5ヶ所設定して行った。	なし	・軒丸瓦（巴文）片 ・軒平瓦（とび唐草文）片 ・平瓦片 ・丸瓦片 ・陶磁器片

関連文献	

No.	108	遺跡名	立岡山（たちこやま）古墳群	所在地	多気郡多気町大字相可字立岡谷
調査原因	住宅団地造成	事業主体	ＪＲ丸亀共同企業体	調査機関	多気町教育委員会
調査期間	H3.6.1～H3.9.17 H3.12.2～H3.12.11	調査面積	1,022㎡	担当者	中里守・野田修久

遺　跡　の　概　要

櫛田川の形成する段丘を見下ろす標高54mほどの独立丘陵上に営まれる古墳群である。以前から直径10～16mほどの円墳5基が知られていたが、今回の開発に際しての分布調査で7・8号墳が追加された。

1～4号墳に関しては、緑地部分として現状保存されるため5～8号墳を発掘調査したが、古墳としての遺物、遺構が確認できたのは6号墳のみであった。

※5号墳はその裾部から中世墓群が検出された。古墳に関係する遺物・遺構は今のところ皆無。

※7・8号墳は、尾根に沿ったテラス状の古墳と思われたが、表土下はすぐに地山の土となり、たちわりトレンチを入れても主体部らしきものは見当たらなかった。遺物もなし。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
立岡山6号墳	円	直径16.5 高2.6	木棺直葬	棺内 ・鉄刀 ・鉄鏃片 ・鉄斧 墳丘（盛土） ・須恵器 有蓋高坏 壺 甕 器台片	6C前半	盗掘あり

関連文献	

No.	108	遺跡名	立岡山中世墓群	所在地	多気郡多気町大字相可字立岡谷
調査原因	住宅団地造成	事業主体	ＪＲ丸亀共同企業体	調査機関	多気町教育委員会
調査期間	H3.7.3～H3.9.2 H4.3～	調査面積	320㎡	担当者	中里守・野田修久

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
立岡山5号墳とされていた古墳状の高まりの裾から丘陵斜面に営まれた中世墓地である。 20cm大の川原石で埋葬場所や墓道が区画され、一石五輪を中心とする石塔が多数検出された。 ひとつの区画の中に複数の蔵骨器が埋められていたところもあり、全く区画のないところから、火葬された骨片がつまった壺が検出されてもいる。 石材をとり除いてからの調査はこれからである。	・区画墓11基程度	・蔵骨器 陶器壺（常滑） 土師鍋 ・刀子 ・土師小皿 ・骨片 ・石塔 五輪塔 宝篋印塔片 ・経筒外容器片

関連文献

No.	109	遺跡名	明気（みょうげ）古墳群	所在地	多気郡多気町大字相可字明気
調査原因	住宅団地造成	事業主体	ＪＲ丸亀共同企業体	調査機関	多気町教育委員会
調査期間	H3.7.26～H4.4（予定）	調査面積	6500㎡	担当者	中里守・野田修久

遺　跡　の　概　要

立地する丘陵や古墳の時期から、明気古墳群Ａ（１～11号墳）と同Ｂ（12～15号墳）に大きく分けられる。

Ａは標高70～50ｍで、細かく放射状に突き出る尾根に点々と古墳が築かれているもので、大型の古墳と小型のものがセットでつくられているようでもある。時期は６世紀の後半から７世紀初頭にかけてのものである。

Ｂは、Ａとは丘陵を異にし、一辺10ｍほどの方墳が集中している。主体部に遺物が全くないものもあり、７世紀代の古墳と思われる。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
明気１号墳	円	直径19.5 高2.2	木棺直葬	〔棺内〕 ・須恵器 坏・蓋・身 壺 ・馬具 轡 ・耳環 〔棺外〕 ・須恵器 坏・蓋・身 提瓶 ・土師器 甕 ・鉄鏃片	６Ｃ後半	盗掘あり
〃　２号墳	円	直径18.5 高1.7				半壊 主体部調査は４月以降
〃　３号墳	円	直径6.0 高0.4	土坑	・須恵器 坏蓋・身 短頸壺	６世紀末？	

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
明気4号墳	砲弾形 〔楕円？ 方？〕	長辺30 短辺24	木棺直葬	棺内 ・須恵器 坏蓋・身 高杯 壺 瓶 横瓶 提瓶 ・土師器 甕 ・玉類 勾玉 勾玉 ガラス小玉	6C後半	墓坑は 7m×2m×1.8m ほどの大きなもの
〃 5号墳	円	直径12 高2.0	木棺直葬	・須恵器 坏蓋・身 短頸壺	6C後半	
〃 6号墳	円	直径8 高1.2	木棺直葬	棺　内 ・須恵器 坏蓋・身 横瓶 ・土師器 甕 棺　外 ・須恵器 坏蓋・身 瓶 高坏	6C末	
〃 7号墳	円	直径12		耳環		調査中
〃 8～11号墳						調査中 詳細は4月 以降
〃 12号墳	方	一辺11	木棺直葬 〔木棺A 木棺B〕	木棺A ・須恵器 坏身 木棺B ・須恵器 坏蓋・身 平瓶 高坏	7C初	炭化した棺材が 残る
〃 13号墳	方	一辺8	木棺直葬	なし		
〃 14号墳	方	一辺10	木棺直葬	なし		
〃 15号墳	方？	？	？	なし		周溝の一部のみ 検出。
関連文献						

No.	110	遺跡名	石塚谷古墳	所在地	多気郡多気町大字荒蒔字石塚谷
調査原因	工業団地造成	事業主体	多気町	調査機関	多気町教育委員会
調査期間	H4.1.24～2.24	調査面積	1,000㎡	担当者	野田修久・中里守

遺　跡　の　概　要

標高66mほどで、西に櫛田川流域の水田、東に佐奈川流域の水田を見下ろせる屋根頂部に位置する。古墳北側と南側は明らかに整形され比高2mほどの墳丘が造り出されるが、西側はダラダラと自然地形のままのようであり、東側はくずれて崖となっている。墳形は、現状では楕円であるが東側の崩れを考慮すると“円”となろう。出土遺物は、6世紀後半のものと思われるが棺跡B・Cのものより棺跡Aのものの方が新しい。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
石塚谷古墳	円	直径30 高2.0	木棺直葬 第1墓　坑 棺跡A 第2墓　坑 棺跡B 〃C	棺跡A ・須恵器 坏蓋・身 高坏 𤮈 壺 提瓶 ・土師器 甕 ・鉄鏃 棺跡B ・須恵器 台付壺など ・鉄刀 ・馬具 雲珠など 棺跡C ・須恵器 壺 ・鉄刀	6C後半	

関連文献

No.	111	遺跡名	倉懸（くらかけ）古墳群（試掘）	所在地	多気郡多気町大字五佐奈字倉懸
調査原因	工業団地造成	事業主体	多気町	調査機関	多気町教育委員会
調査期間	H3.4.19～.5.8	調査面積	100㎡	担当者	中里守・野田修久

遺　跡　の　概　要

佐奈川左岸の丘陵部先端で、水田面との比高が10mにも満たない低い場所にある。1号墳は中心部に大きな盗掘坑をもつが、しっかりしたマウンドをもつ。

2号墳は屋根の端部で、自然地形の延長とも思われるような墳丘である。十字に設定したトレンチの交点から1mほど西側で須恵器坏蓋身と土師器甕が出土したが、棺跡等は不明である。

※3号墳としてトレンチを入れた丘陵頂部は遺構・遺物とも全くなく古墳とは認められなかった。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
倉懸1号墳	円	直径約18 高約1.8		須恵器片	?	H4度本掘予定
倉懸2号墳	円	直径約20 高約2.0		須恵器 坏蓋・身 土師器 甕	6C後半	H4度本掘予定

関連文献

No.	112	遺跡名	平松東方遺跡（試掘）	所在地	多気郡多気町大字土羽字平林
調査原因	工場建設	事業主体	神都工業株式会社	調査機関	多気町教育委員会
調査期間	H 3.12.15	調査面積	96㎡	担 当 者	中里守、野田修久

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
町遺跡番号306の遺跡で“剝片”が採取されている。 現状は、周囲の水田面との比高が4ｍほどの丘陵端部で、南東に向かってなだらかに傾斜している。 しかし、当地はすでに開墾の手が加えられて最近まで柿畑となっていたということである。実際、除草すると地表に、細かな礫を含む地山とも思われる土が顔を出し、掘ってみても包含層らしきものはなかった。 遺構・遺物も確認されなかった。	なし	なし

関連文献

No.	113	遺跡名	戸峯B遺跡（試掘）	所在地	多気郡明和町大字池村字戸峯
調査原因	資材置場の造成	事業主体	㈱平井組	調査機関	明和町教育委員会
調査期間	H3.9.25～9.30	調査面積	20㎡	担当者	中野　敦夫

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
申請地は、県道鳥羽・松阪線南方、玉城丘陵北側中央部にある標高42mの丘陵の南斜面に位置する。昭和53年以降に土取りがおこなわれた南側の農地である。事業地825㎡のうち旧地形をとどめている82㎡の中心に4ｍ×4ｍ試掘坑を1ヶ所と土器の散布が密集しているところに2ｍ×2ｍを1ヶ所設定した。事業地の地目は畑になっているが、現状は竹藪であるため伐採および表土を重機で除去したあと人力で調査をおこなった。	なし	・土馬 ・土師器杯・甕 ・須恵器壺

関連文献

No.	114	遺跡名	粟垣外遺跡（試掘）	所在地	多気郡明和町大字坂本字粟垣外
調査原因	社宅・管理室・駐車場の造成	事業主体	㈱テイビョウ	調査機関	明和町教育委員会
調査期間	H3.10.4～10.16	調査面積	80㎡	担当者	中野　敦夫

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
調査地は、坂本地内広域圏道路東側、標高8ｍの台地にある。周辺は、昭和53・54年に道路建設で調査しており、縄文時代から鎌倉時代の土坑・溝・掘立柱建物・竪穴住居・土器焼成坑などの遺構を検出し、石鏃・石棒・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・山茶椀・土馬など多数出土している。　事業地2,168㎡の中に4ｍ×4ｍの試掘坑を5ヶ所設定した。 すでに40～90cmの盛土がされているため、重機によりそれを除去したあと人力で調査をおこなった。	竪穴住居3 掘立柱建物2 土坑7 柱穴	・弥生土器 ・土師器 ・須恵器 ・灰釉土器 ・山茶椀 ・土製紡錘車

関連文献

No.	115	遺跡名	坂本古墳群（試掘）	所在地	多気郡明和町大字坂本字西垣外
調査原因	共同住宅の建設	事業主体	個人	調査機関	明和町教育委員会
調査期間	H4.2.5～2.7	調査面積	96㎡	担当者	中野　敦夫

遺　跡　の　概　要

申請地は、明和町役場北西450mにある畑で、坂本古墳群痕跡地域内に位置する。当該地には、3基の古墳が存在していた記録があり、遺跡台帳に坂本115号・116号・120号墳 として登録されているところである。

調査は、昭和17年の開墾によって墳丘は削平されているが残存していると考えられる周溝を検出することによって、規模、形態、位置等を確認することを目的とし、事業地796㎡に1m幅のトレンチを5ケ本設定した。その結果に基づいて拡張していく方法をとった。

調査の結果、116号墳の周溝と溝1条を検出したが、位置としては当初考えていた地点よりずれていることを確認した。115号・120号墳については確認できず、開墾の際すべて破壊されたが、記録の位置が誤っているのか検討の必要がある。

古墳名	墳形	規模（m）	主体部	出土遺物	時期	備考
坂本116号墳	方墳	12m	消失	須恵器甕・土師器	7C初？	

関連文献

No.	116	遺跡名	六軒屋遺跡	所在地	度会郡小俣町湯田
調査原因	『小俣茶屋』新設工事	事業主体	㈱マスヤ	調査機関	小俣町教育委員会
調査期間	H3.7.24～9.11	調査面積	896㎡	担当者	山崎富三郎・中西健・東谷利和

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
当遺跡は、新旧国道23号線に通じるアクセス道路に面しており、宮川用水によって田畑の共用されている地域である。 発掘調査前は、さつきの苗木・葉煙草・飼料作物の栽培がされており、かつては山林（松・栃・雑木）であったが約40年前に開墾・畑地となった。 その後、宮川用水が通水し、また圃場整備により丘状地がけずられ低地部に置土がされ、畑地となっていたが、遺構の一部は、開墾時の水路のために切断されたところもあった。	○弥生時代後期 ・竪穴式住居14棟 ・土坑　溝等　数か所	・弥生土器（後期） ・土師器 ・穀類粉砕用石器 ・炉辺に置かれた石 （使用法不明）

関連文献

No.	117	遺跡名	大仏八端古窯・酒部屋西遺跡（試掘）	所在地	度会郡玉城町長更酒部屋西1212外
調査原因	小俣町大仏山公園陸上競技場建設	事業主体	小俣町	調査機関	玉城町教育委員会
調査期間	H3.9.16～10.19　H4.1.7	調査面積	477㎡	担当者	大西素行・中西正典

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
古窯址の存在が想定されたため、丘陵斜面・麓部にトレンチを設定し調査を行った。調査地 中央部で表土下に黒色土の堆積が認められ、その上面で生焼けや融着した須恵器・窯壁片・ 粘土塊が出土したため、調査区を拡張したが、窯体・灰原は確認できなかった。周辺に窯本体が存在するものと考えられる。		・須恵器(横瓶ほか) ・窯壁片

関連文献

No.	118	遺跡名	乗入田遺跡	所在地	度会郡玉城町長更376
調査原因	町立有田小学校講堂防音工事	事業主体	玉城町	調査機関	玉城町教育委員会
調査期間	H3.5.28～6.15	調査面積	821㎡	担当者	大西素行・中西正典

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
調査地は水田を埋め立てたところであるが、分布調査の結果付近に中世の遺物が多量にみられるところから、調査を行った。 遺跡は長更地区の集落の中にあり、大きな集落跡が予想されたが、竪穴らしいものと自然の溝3条が出土したにとどまり、遺物も少量出土したに過ぎなかった。	竪穴住居？ 自然溝とおもわれるもの数条	土師器片

関連文献	

No.	119	遺跡名	県史跡　田丸城址	所在地	度会郡玉城町田丸114-1
調査原因	田丸城址石積修復	事業主体	玉城町	調査機関	玉城町教育委員会
調査期間	H3.8.26～11.4	調査面積	130㎡	担当者	大西素行・中西正典

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
県史跡田丸城址の石積修復工事のため、事前に試掘調査を行い石積の存否の確認を行った。 工事箇所はもともと石積が現状ではないところであり、試掘の結果、根石と判断がつかない結果であった。	特になし	瓦片数枚

関連文献	

No.	120	遺跡名	細尻・東沢遺跡（試掘）	所在地	度会郡玉城町世古字細尻1783の2他
調査原因	店舗造成	事業主体	ミスタージョン㈱	調査機関	玉城町教育委員会
調査期間	H3.11.23	調査面積	160㎡	担当者	大西素行・中西正典

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
調査地全域にわたり、ほ場整備による攪乱が地山下まで及んでいた。攪乱された土に土師器片が含まれていた。		

関連文献	

No.	121	遺跡名	安養寺跡・豆石山経塚ほか（試掘）	所在地	度会郡二見町溝口・山田原
調査原因	もてなしの郷造成事業	事業主体	三交不動産㈱	調査機関	二見町教育委員会
調査期間	H3.6.26～6.28 H3.7.22～9.21	調査面積	1,320㎡	担当者	大西隆（町村職員研修）

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
安養寺跡 かつて軒平瓦等が出土し、西行の庵との関係が考えられていた所である。丘陵に入り込む谷の平坦面にトレンチを設定した。谷中央部で遺物が多量に出土。 豆石山経塚 すでに盗掘を受けているが、かつて石組が確認され、陶製経筒が出土している。周辺の屋根にもトレンチを入れたが、遺構は無く単独の経塚である事を確認した。 溝口1号墳 径約6ｍの円墳。大規模な盗掘を受けている。 五峯山2号墳 径約5ｍの円墳。盗掘を受けている。 その他、井戸状石組や露岩があり、本調査の際に再確認する必要がある。また、古墳状の高まり3ヶ所についてもトレンチを設定したが自然地形と判断した。	集石遺構・ピット 周溝 横穴式石室？	土師器、山茶椀、瓦

関連文献	

No.	122	遺跡名	向井古墳（笠松塚）（試掘）	所在地	度会郡紀勢町錦字向井
調査原因	林道開設工事	事業主体	紀勢町	調査機関	紀勢町教育委員会
調査期間	H3.12.26～12.26	調査面積	61.9㎡	担当者	中西正典・大西素行

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高20mの岬上にあり推定直径17～20mの円墳と推定される。 主体部のほとんどが崩落しており確認は困難であった。	直径17～20mの円墳のうち、東・西・北側は完全破壊の状態で南側のみ墳丘らしき形態をとどめていた。	なし

関連文献	

No.	123	遺跡名	昼河（ひるこ）古墳群	所在地	伊勢市朝熊町字昼河
調査原因	世界祝祭博予定会場造成	事業主体	伊勢市	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H3.5.8～7.12	調査面積	約3,000㎡	担当者	岩中　淳之

遺跡の概要	主な機構	主な遺物

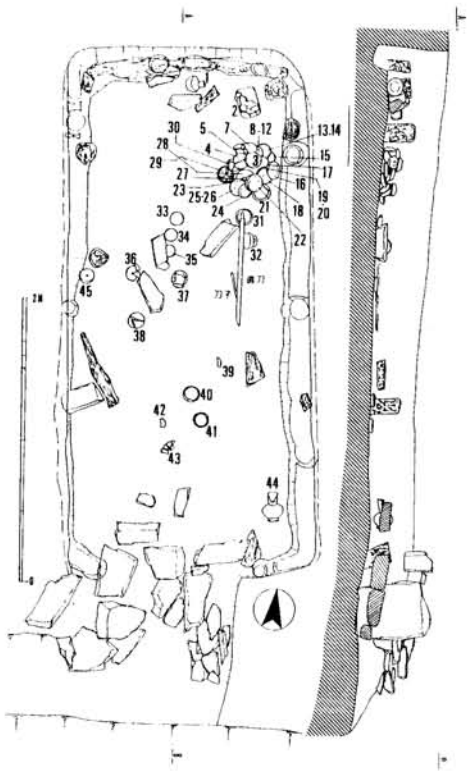
昼河古墳群は、伊勢市の北東を夫婦岩で著名な二見浦へと流れる五十鈴川脈川最下流右岸に位置する標高10～15m前後の丘陵地に所在する新発見の古墳群である。（従来の昼河１号墳［市遺跡番号208］、同２号墳［209］は試堀調査の結果自然地形であることが確認されたため、各古墳の名称は今回の調査成果で以降統一することとする。）

調査の結果、木棺直葬・横穴式石室・横穴式木室・石組墓・甕棺墓を埋葬施設にもつ17基の古墳を検出した。古墳の立地する丘陵は、戦中・戦後の開墾が頻繁で、分布調査で墳丘が確認できる古墳は少なく、また、埋葬施設も現地表下10～20cm前後で検出される例も多かった。

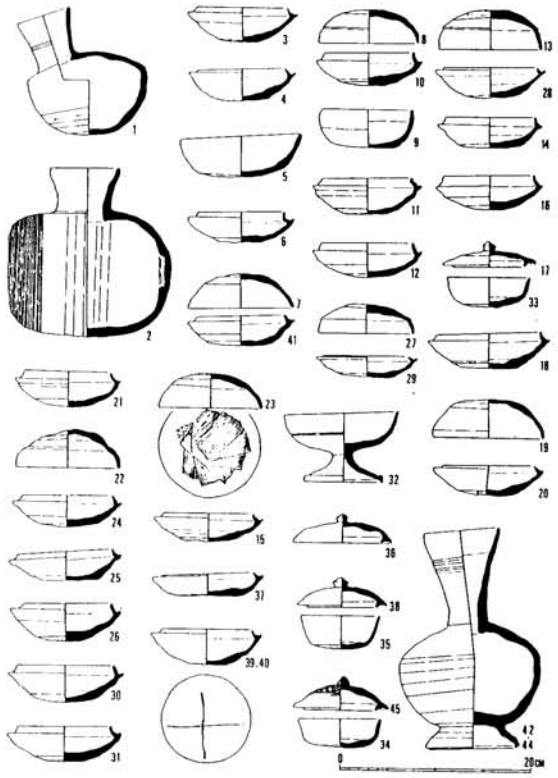
各古墳の概要は下表のとおりであるが、市内初の円筒埴輪を墳丘裾部に巡らし250個余 のガラス製小玉やガラス製勾玉が出土したＡ４号墳、多数の鉄鏃・珍しい三連壺が出土したＡ１号墳、火化された横穴式木室のＡ２・Ｃ12・13・14号墳など、概ね６世紀初頭～７世紀中頃にかけて造営された古墳群であることが判明した。

古墳名	調査時No.	墳形	規模（m）	埋葬施設	規模(長さ×幅m)	主体部内出土遺物	備考
Ａ１号墳	１号墳	円墳	16.0×16.5 高さ2.5	木棺直葬 第Ⅰ主体部	墓坑4.9×0.24 Ａ棺3.9×0.75 Ｂ棺3.7×0.52	坏蓋３・坏身１・有蓋高坏２・同 蓋１・無蓋高坏１ 提瓶１・土師器直口壺１・同椀１・直刀１・鉄鏃・刀子１ 長頸壺１・三連壺１・坏蓋片１・直刀２・鉄鏃約80	Ａ棺・Ｂ棺の二棺同時並列埋葬 ６世紀前半頃？
				木棺直葬 第Ⅱ主体部	墓坑5.2×0.8 棺3.6×0.6	坏蓋１・坏身１・有蓋高坏１・同蓋６・小型壺１ 鉄鏃・刀子	６世紀前半頃？
Ａ２号墳	２号墳	円墳？	13.2×10.0 高さ1.0	横穴式木室 片袖型	玄室5.3×1.9 高さ1.0～0.5 羨道3.7×1.8	杯身24・杯蓋18・短頸壺６・同蓋６・平瓶１・鼎１ 甕１・鉢２・台付長頸壺１・土師器坏１・直刀１ 鉄鏃４・金環１	木室内火化、遺物も二次焼成 される ７世紀中葉前後頃
Ａ３号墳	３号墳	円墳？	8.0×7.0 高さ0.8	木棺直葬 第Ⅰ主体部	墓坑4.6×2.3 Ａ棺2.75×0.55 Ｂ棺2.36×0.5	高坏１・坏身片１・刀子１ 坏身・坏蓋片・土師小型壺片・刀子１	６世紀初頭～前半？
				木棺直葬 第Ⅱ主体部	墓坑4.2×1.5 棺3.8×6.5	坏蓋１・坏身１・直刀１・刀子６・鉄鏃約30 滑石製白玉８・碧玉製管玉12	６世紀前半頃？
Ａ４号墳	４号墳	円墳？	17.5×17.0 高さ2.2	木棺直葬	墓坑5.2×2.0 Ａ棺4.35×0.75 Ｂ棺3.0×0.68	墳丘裾部に円筒埴輪列、墳丘斜面～裾部円筒埴輪・形象埴輪片（人物・動物・家） 坏蓋３・坏身３・直刀１・刀子２・鉄鏃 坏身片・碧玉製管玉14・ガラス製勾玉１・同小玉約250	６世紀初頭～前半頃？
Ｂ５号墳	５ａ号墳	円墳？	10.0前後 高さ（1.2）	木棺直葬	Ａ棺（0.8）×0.9 Ｂ棺－　1.2	坏蓋５・坏身８・短頸壺１・壺１・台付小型壺１ 木口を覆う石材の一部のみ検出　裾部斜面須恵器片	６世紀前半頃？
Ｂ６号墳	５ｂ号墳	円墳？	7.5×7.0 高さ（0.6）	不明	埋葬施設は削平？	墳丘斜面、裾部より杯蓋・杯身が出土	全壊

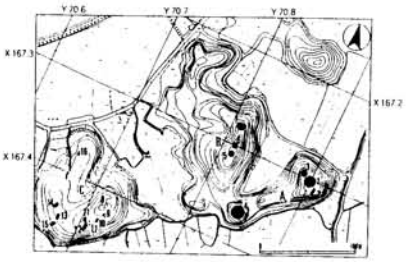
B7号墳	6号墳	円墳?	(8.5×10.0) 高さ1.4	木棺直葬 第Ⅰ主体部 第Ⅱ主体部	棺 (2.3) ×0.8 墓壙4.38×1.55 棺3.72×0.8 t	坏蓋9・杯身8・有蓋高坏 1・同蓋1・無蓋高坏1 鑣1・土師器直口壺1・直刀2・刀子1・鉄鏃 坏蓋2・坏身2・直刀1・刀子2・鉄鏃約20	6世紀後半頃? 6世紀前半頃?
C8号墳	C地区 1a号墳	不明	戦後の開墾等 で墳丘不明	不明	不明	坏蓋・坏身・高坏・鑣・直刀・鉄鏃 ガラス製小玉・碧玉製管玉	全壊
C9号墳	C地区 1b号墳	不明	〃	〃	〃	坏蓋・坏身	全壊
C10号墳	C地区 1c号墳	不明	〃	石組墓	1.96×0.72	副葬遺物なし	築造時期不明
C11号墳	C地区 2号墳	不明	〃	横穴式石室	墓壙 (2.4) ×1.77 石室 (1.95) ×1.05	台付長頸壺1・坏身片・刀子1	半壊 6世紀末～ 7世紀前半頃?
C12号墳	C地区 3号墳	不明	〃	羨道部石積 横穴式木室 片袖型	玄室3.5×1.7 高さ (0.4) 羨道 (1.2) ×1.1	坏蓋11・坏身25・平瓶1・横瓶1・無蓋高坏1 台付長頸壺1・土師器碗2・直刀1・刀子	木室内火化 6世紀～ 7世紀前半頃?
C13号墳	C地区 4号墳	不明	〃	横穴式木室	3.08×1.5 高さ (0.1～0.3)	坏身・坏蓋・高杯・短頸壺・壺・土師器碗・ 直刀1 刀子2・鉄鏃・鉄釘・金環	木室内火化 7世紀前半頃?
C14号墳	C地区 5号墳	不明	〃	横穴式木室	2.57×1.35 高さ (0.15)	坏蓋・坏身・高坏・平瓶・横瓶 土師器碗・直刀2・用途不明鉄製品・金環	木室内火化 7世紀前半頃?
C15号墳	C地区 6号墳	不明	〃	横穴式石室	墓壙 (3.5) ×2.3 石室 (3.0) ×1.2 高さ (0.4)	杯身5・平瓶1・鑣1・フラスコ型壺1・短頸壺1 土師器碗1	半壊 6世紀末～ 7世紀前半頃?
C16号墳	C地区	不明	〃	石組墓	1.15×0.46	副葬遺物なし	築造時期不明
C17号墳	C地区	不明	〃	甕棺墓	0.5×0.2×0.2	須恵器甕を横転させて棺に利用	6世紀末頃?
関連文献	『伊勢を掘る』(伊勢市立郷土資料館1992、2) 「昼河古墳群調査概要」『伊勢市周辺の古墳文化』(皇学館大学考古学研究会1992、3)						



昼河C12号墳羨道部石積横穴式木室実測図



昼河C12号墳出土土器実測図（1：8）



昼河古墳群位置図

昼河A２号墳
横穴式木室

No.	124	遺跡名	隠岡遺跡（かくれがおか）	所在地	伊勢市倭町字隠岡
調査原因	天理教三重教区教会敷地造成	事業主体	天理教三重教区	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H3.8.1～11.25	調査面積	1,800㎡	担当者	岩中　淳之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本遺跡は、標高20m前後の舌状に張り出す段丘北端部に立地する。昭和59年度に市営住宅建設に伴って約2,300㎡を調査し弥生後期の竪穴住居23棟、平安時代の掘立柱建物９棟 などが検出され、宮川右岸初の弥生後期のムラや神宮神主層の居宅地として注目を集めました。 今回は、前回調査地の北側を発掘し弥生後期の竪穴住居23棟、主幹排水溝、平安時代の掘立柱建物４棟、土坑などを検出。竪穴住居は、前回と同様に隅丸方形で床面には地床炉をもつものの貯蔵穴はない。規模はほとんどが５m前後で、一部６mを超える建物もある。平安時代の掘立柱建物は、総柱建物もみられた。 出土遺物は右記のとおりですが、竪穴住居内の一括資料は良好でない。また、遺構や土器は未検出であるが、石鏃・石錐・剝片（サヌカイト・チャート・黒曜石）も検出され縄文時代の移動生活の一地点としても利用されていたことが判明した。 なお、旧石器時代の生活跡検出の可能性も伺えたため、剝片が多く出土した付近を地山面以下も掘り下げたものの、該期の遺物・遺構は未検出におわった。	○縄文時代？ 石鏃・石錐・くさび形石器？ 削器・剝片（チャート・サヌカイト・黒曜石→4.2×4.2cm、県下最大級の大きさか） ○弥生時代～古墳時代初頭 壺・高坏・甕・Ｓ字口縁甕 ○奈良・平安～鎌倉時代 土師器坏・皿・甕・鍋 須恵器甕・坏身・坏蓋 灰釉陶器・緑釉陶器 山茶碗・山皿 など	○弥生時代後期 ～古墳時代初頭 竪穴住居23棟、このうち１棟は焼失建物（ただし建築部材は未検出）・主幹排水溝３条など ○平安時代 掘立柱建物３間×２間　２棟 総柱建物３間×２間　１棟 １間×５間　１棟 ○奈良・平安～鎌倉時代 土坑５基 など

関連文献	『隠岡遺跡発掘調査報告』（伊勢市教育委員会1987・3）

No.	125	遺跡名	袴田遺跡（はかまだ）（試掘）	所在地	伊勢市磯町字コウダ
調査原因	倉庫建設敷地造成	事業主体	㈱ナカニシ盛ガラス店	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H3.10.10	調査面積	64㎡	担当者	岩中　淳之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本遺跡は宮川左岸標高５m前後の段丘上に立地する。過去に勾玉や渥美窯壺などが出土したことが、鈴木敏雄氏の『考古誌考』などで知ることができる。 今回、遺跡の北西端に開発事業が計画されたため、試掘調査を実施。 遺跡の層序は、水田耕作土→同床土→黒色土→円礫混黄褐色粘土となるが、黒色土中でも遺物は検出されなかった。 今回の調査地は、おそらく遺跡の端部にあたると考えられる。	なし	なし

関連文献	鈴木敏雄『豊浜村考古誌考』Ｓ16他

No.	126	遺跡名	皆戸(かいと)遺跡（試掘）	所在地	伊勢市東大淀町字皆戸
調査原因	小学校プール用地造成	事業主体	伊勢市教育委員会	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H3.4.5	調査面積	48㎡	担当者	岩中　淳之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本遺跡は、標高２ｍ前後の浜堤上に立地する。かつて、小学校の砂場から奈良時代～平安時代にかけての土器が出土しているため今回の造成に先立って試掘調査を実施。 遺跡の層序は、黄灰砂質→茶褐色砂質土→青灰砂質となる。Ⅱ層の茶褐色砂質土中で、若干土師器甕や灰釉陶器の小片が出土したものの、遺構は全く検出されなかった。	土師器甕小片 灰釉陶器小片 山茶碗片　など	なし

関連文献

No.	127	遺跡名	下屋敷(しもやしき)遺跡（試掘）	所在地	伊勢市旭町字下屋敷
調査原因	マンション建設用地造成	事業主体	個人	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H3.9.16	調査面積	150㎡	担当者	岩中　淳之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本遺跡は標高20ｍ前後の丘陵端部に位置する。現況は、果樹園・畑地・水田などで中世以降の土師器、陶器が表採されている。 今回、遺跡の北東端に開発事業が計画されため、試掘調査を実施。遺跡の層序は、耕作土→角礫混黄褐色粘土となり、丘陵を削平した状況であった。	なし	なし

関連文献

No.	128	遺跡名	まこも遺跡	所在地	伊勢市上地町字湯田野南
調査原因	工場用地造成	事業主体	虎屋ういろ株式会社	調査機関	伊勢市教育委員会
調査期間	H4.2.27～3•2	調査面積	250㎡	担当者	岩中　淳之

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
まこも遺跡は汁谷川左岸標高17ｍ前後の河岸段丘上位置する弥生後期最終末の遺跡である。今回の開発予定地は、遺跡の西端外に位置し、現況は畑地・豚小屋などで、分布調査の結果ほとんど遺跡の散布は認められないものの、遺跡が広がっている可能性が十分考えるため試掘調査を実施した。 調査の結果、段丘端部付近は、遺物も遺構も未検出であったが、西端部で遺構が検出されため、約120㎡を調査。 なお、遺構検出部分は駐車場となるため土盛りして保存されることとなった。	壺形土器・高坏型土器 台付甕（タタキ文様） 甕壺形土器 Ｓ字状口縁台付甕	隅丸方形竪穴住居１棟（弥生後期最終末～古墳時代初頭）

関連文献

No.	129	遺跡名	阿津里貝塚（試掘）	所在地	志摩郡志摩町越賀字阿津里
調査原因	町道阿津貝線道路改良	事業主体	志摩町	調査機関	志摩町教育委員会
調査期間	H3.8.18～8.19	調査面積	90㎡	担当者	竹内　正弘

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
阿津里貝塚は、先志摩半島に位置する縄文時代以降の複合遺跡で、古くより鈴木敏雄氏らによって、出土遺物が紹介されている。 遺跡の立地する浜堤の裾部近くに町道が計画されたため試掘調査を行った。結果、遺構は認められず、流出土の埋積と考えられる土層から少量の縄文時代以降の土器及び貝等が出土した。調査地は遺跡の縁辺部にあたるものと考えられる。	なし	・縄文時代以降各時代の土器片 ・貝片 ・人骨片

関連文献

No.	130	遺跡名	釜ノ平遺跡（試掘）	所在地	熊野市有馬町松原5156ほか
調査原因	工場建設	事業主体	エース電子㈱	調査機関	熊野市教育委員会
調査期間	H3.6.24	調査面積	30㎡	担当者	福村　直人・古部　　均

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
工場予定地内をA～D地区に分け試掘を行った。遺構は確認できなかったが、B・D地区の包含層から縄文土器片が約30片出土した。		縄文土器片

関連文献

No.	131	遺跡名	北門遺跡	所在地	上野市大谷字北門670～674
調査原因	教育会館建設用地造成	事業主体	財団法人前田教育会	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.2.12～6.17	調査面積	2,000㎡	担当者	山岡裕・東山則幸・堀川敬二

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
北門遺跡は、平成元年度詳細分布調査によって発見された遺跡で、柘植川右岸の標高約147mの河岸段丘上に位置し、調査時の状況は田であった。 平成2年6月から8月にかけ、この遺跡の東部において埋蔵文化財発掘調査が行われ、古墳時代から中世にかけての遺構・遺物を検出した。 今回の調査では、弥生時代後期から鎌倉時代初期にかけての竪穴住居、掘立柱建物、古墳、井戸、溝、土坑などの遺構を検出し、長期にわたる複合遺跡であることが確認された。	○弥生時代後期 ・竪穴住居跡1棟 ○古墳時代 ・古墳1基 〔直径23mの円墳で、その周囲には幅約3.5mの周溝がめぐらされ、裾部分は葺石で覆われている。しかし、平安時代には削平を受けていたらしく、主体部分は確認できなかった。〕 ○奈良時代 ・竪穴住居跡2棟 〔方形（約4×4.5m）で排水溝、かまどを持つ〕 ・掘立柱建物跡7棟 ・井戸2基 〔直径約1m程の木製円形型の井戸、約10cm程の木の厚みがある。〕 ○平安時代～鎌倉時代初期 ・掘立柱建物跡7棟 ・土坑9基	・弥生土器　甕 ・円筒埴輪片 ・盾型埴輪片 ・青銅製鏡の一部分 ・土師器　杯、ミニチュア土器 ・須恵器　杯身、杯蓋、甕 円面硯 ・緑釉陶器片 ・土錘 ・斎串 ・黒色土器　椀、皿 ・瓦器　椀、皿

関連文献

No.	132	遺跡名	堂垣内・大多田遺跡	所在地	上野市佐那具町字堂垣内・大多田・澤
調査原因	工業団地造成	事業主体		調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.7～9.14 H4.2.14～2.21	調査面積	約2,500㎡	担当者	前川依久雄・東山則幸・堀川敬二

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
柘植川の左岸から南に約200mはなれた段丘上に位置し、西方には、御墓山古墳が近接する。 平成2年度に実施された分布調査及び試掘調査で確認された遺跡で、西部の「庚申塚古墳」の周辺とその北東の段丘端部に近い地域を中心とし、約17,500㎡ほどに広がる、古墳時代から中世に及ぶ複合遺跡である。 なお試掘調査では、縁釉陶器片や墨書された灰釉陶器などが出土している。	※堂垣内地区 ・掘立柱建物（12棟平安～鎌倉頃か） ・溝（15条、鎌倉～室町後期） ・土坑（20基鎌倉～室町） ・他棚列など ※大多田地区 ・竪穴住居（11棟古墳後期、6世紀） ・掘立柱建物（39棟飛鳥～奈良） ・溝（30条、古墳後期～奈良、中世） ・土坑（36基、古墳、奈良、鎌倉） ・他柵列など	※堂垣内地区 ・須恵器 ・土師器（主に鎌倉・室町） ・黒色土器・瓦器 ・布目瓦 ※大多田地区 ・須恵器（古墳～奈良、うち墨書土器1点） ・土師器（古墳～奈良） ・瓦器　他

関連文献	

No.	133	遺跡名	鳥ヶ峰遺跡	所在地	上野市下友生字鳥ヶ峰2027.2028
調査原因	宅地造成	事業主体	日研ハウス工業㈱・㈱合同	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.8.16～9.5	調査面積	約200㎡	担当者	山岡裕、東山則幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
鳥ヶ峰遺跡は周知の遺跡であり、なだらかな傾斜地にある。 北には、伊賀国分寺跡、長楽山廃寺の所在する丘陵をひかえ、南は、久米川沿いに広がる水田がひらけている。 調査地からは、飛鳥時代～奈良時期末、平安時代初頭の遺構が確認された。 また土坑より多量の製塩土器が出土したが、これらは奈良時代後半から平安時代初頭にかけて廃棄されたものであると考えられる。	・竪穴住居1棟 ・掘立柱建物6棟 ・柱列1列 ・溝5条 ・土坑2基	・製塩土器 ・円面硯 ・土師器・須恵器

関連文献	

No.	134	遺跡名	西蓮寺中・近世墓	所在地	上野市長田字垣内1931他
調査原因	墓地整備によって、県指定文化財、市指定文化財の現状変更に伴う調査	事業主体	西蓮寺	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	第1次H3.10.29～11.14 第2次H4.2.3～調査中	調査面積	15㎡	担当者	豊岡勇・堀川敬二

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
木津川左岸の標高約180mの丘陵地に位置し、現況は墓地である。その中に県指定史跡「西蓮寺供養塔」、市指定史跡「服部土芳墓所」「藤堂元甫墓所」がある。墓石の中に五輪塔の残欠が点在している。	・中世の五輪塔を転用した石積み（長辺2.5m短辺1.7m）と火葬墓2基（長辺60cm短辺50cm深さ20cm, 長径45cm短径30cm深さ10cm） ・攪乱を受けているが、「一字一石経石」を伴う土坑と土坑墓2基 ・石室（長径2.7m短径2m深さ1.4m）	・鉄製品 ・一石一字経 ・早桶、人骨、数珠、鏡、硯他

関連文献	

No.	135	遺跡名	堂垣内館址	所在地	上野市佐那具町堂垣内98ほか
調査原因	工場等増設	事業主体		調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.9.9～9.18	調査面積	約350㎡	担当者	前川依久雄

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
御墓山古墳の北東約100mのところに位置する。工場用地造成の際に、土塁の一部を残し、大部分が地山まで削平を受け、郭内の遺構は消失しているものと考えられる。 昨年度の試掘調査で、南北に走る東濠が確認され、これより西に屈曲し、残存土塁の南に向い東西に延びる南濠の存在が想定された。 本年度は東濠と南濠を合せて、長さ34.3m検出し、発掘調査した。	・東濠（上幅3.0～3.5m・下幅1.5～1.7m・深さ0.6～1.0mで薬研堀に近い形態） ・南濠（上幅4.0～4.6m・下幅2.7～3.1m・深さ0.6～0.8mで箱薬研堀）	土師器・中世陶器ほか（少量）

関連文献	

No.	136	遺跡名	三反田遺跡	所在地	上野市佐那具町三反田
調査原因	宅地造成	事業主体	個人	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.10.1～11.6	調査面積	約500㎡	担当者	東山則幸、堀川敬二

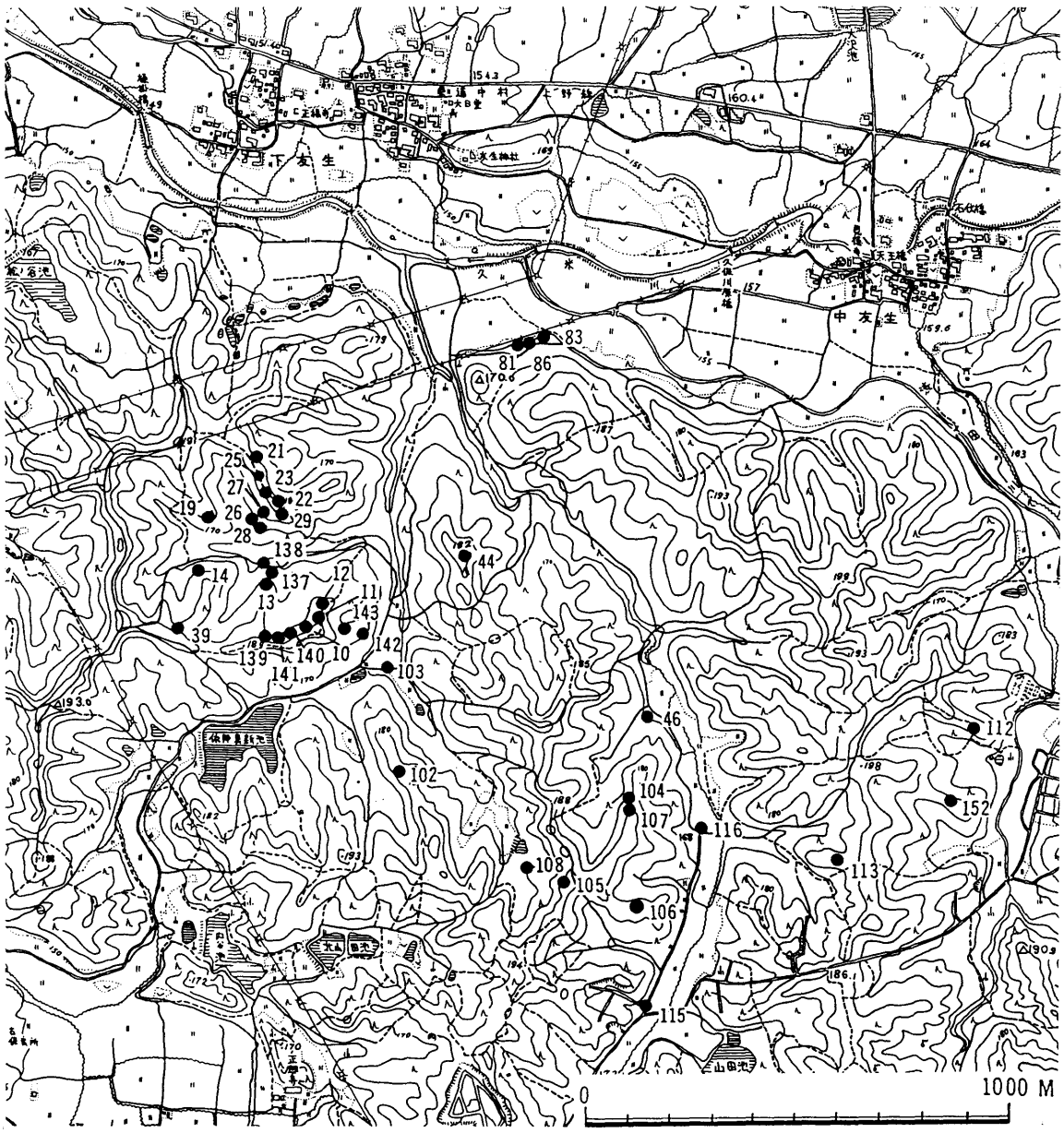
遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
本調査地は、国道25号線沿いにあり、1988年上野市遺跡調査会が発掘した三反田遺跡の西に接する。 遺跡は、平安時代後半～鎌倉時代のものである。 弥生土器の出土はあったが、それに伴う遺構は検出されなかった。 また、井戸枠は、丸太一本くり抜き井戸である。	・掘立柱建物5棟 ・溝7条 ・土坑4基 ・井戸1基	・瓦器 ・黒色土器 ・土師器 ・弥生土器 ・井戸枠

関連文献	

No.	137	遺跡名	森脇・城田遺跡所在地		上野市市部字森脇726他 上野市依那具字城田156－1ほか
調査原因	上野新都市開発整備事業関連公共事業 南部取り付け道路建設事業	事業主体	上野市	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.11.5～12.5	調査面積	200㎡	担当者	山岡裕、堀川敬二

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
森脇遺跡は、縄文時代から鎌倉時代に至る複合遺跡で、今回の調査地は平成元年度に調査された道路建設予定地の北側にあたる。 平成元年度発掘調査で旧河道が確認されているが、今回の調査地からは、その旧河道の上流部分にあたる遺構が一部検出され、部分的ではあるが、北北東の方向から流れていた事が確認された。	・旧河道	・須恵器小片
城田遺跡は、今回新たに発見された遺跡で、森脇遺跡の北側、山腹に位置する。 今回の調査で平安時代の墓坑1基と弥生時代の溝1条が確認され、当初想定されていた弥生時代の高地性集落跡が近くに存在した可能性がいっそう高くなったといえる。	・平安時代の墓坑1基 ・弥生時代中期～後期の溝（断面V字型）1条	・土師器片（小皿片など） ・黒色土器皿 ・黒色土器片 ・土師器片 ・須恵器小片 ・石鏃 ・弥生土器 甕片、高杯片

関連文献	



上野新都市開発整備事業区域内発掘調査地点位置図

No.	138	遺跡名	No.10地点 仮称源鳥14号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.20～5.24	調査面積	39㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
屋根上に立地する径９ｍの円墳と推定されていたが、調査の結果、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。		なし		なし	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.11地点 仮称源鳥15号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.23～5.29	調査面積	56㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
付近は砂防工事により地形改変を受けていたが、尾根上に立地する径６ｍの円墳と推定されていた。調査の結果、地山が露呈し、自然地形であると判断したが、石鏃が２点出土したため、遺構の存在する可能性が考えられ、調査区を拡張したが、遺構を確認することができなかった。		なし		石鏃	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.12地点 仮称源鳥16号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.23～5.28	調査面積	45㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
付近は砂防工事により地形改変を受けていたが、尾根上に立地する径６ｍの円墳と推定されていた。調査の結果、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。		なし		なし	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.13地点 仮称源鳥17号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.6.5～6.7	調査面積	87㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な遺構		主な遺物	
付近は砂防工事により地形改変を受けているが、丘陵斜面に立地する径8.5ｍの円墳と推定されていたが、調査の結果、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。		なし		なし	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.14地点 仮称源鳥8号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.23～7.25	調査面積	37㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
付近は砂防工事により地形改変を受けていたが、尾根上に立地する径8ｍの円墳と推定されていた。調査の結果、墳丘状の高まりは自然地形によるものと判断した。また、調査地内から、砂防工事に伴い、植樹をしたとみられる布掘り状の溝が砂防の段に沿ってみられた。	溝	なし

関連文献

No.	138	遺跡名	No.19地点 仮称源鳥4号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.7～7.1	調査面積	378㎡	担当者	川崎　正幸

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
昨年度の試掘調査によって疑似墳丘であることが判明したが、西側平坦部で遺物包含層・ピットが検出されたため、本調査を実施した（Ⅰ・Ⅱ区）。また、進入路によって削られた崖面に土師器・須恵器片の露出が見つけられたため、この部分にも調査区を設定した（Ⅲ区）。調査の結果、Ⅰ・Ⅱ区ではピットを24検出したが建物として並ぶものは見られなかった。Ⅲ区では土坑1を検出した。遺物は大半が包含層からの出土で、遺構に伴うものはⅠ区のピットから出土した弥生中期の甕口縁部のみである。	Ⅰ・Ⅱ区 ピット24 Ⅲ区 土坑1	Ⅰ・Ⅱ区 打製石鏃3・磨製石鏃1・弥生土器片1 Ⅲ区 須恵器片・土師器片

関連文献

No.	138	遺跡名	No.21地点 仮称鳶ケ谷12号墳	所在地	上野市依那具鳶ケ谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.8～7.9	調査面積	34㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
尾根上に立地する径7ｍの円墳と推定されていたが、現地ではほとんど盛土らしいものは確認できず、調査の結果も一切の遺構・遺物が認められなかった。	なし	なし

関連文献

No.	138	遺跡名	No.22地点 仮称鳶ヶ谷15号墳	所在地	上野市依那具鳶ケ谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.11～7.19	調査面積	51㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
尾根上に立地する径9ｍと径6ｍの2基の円墳が推定されていた。しかし、調査の結果、わずかにNo.23地点で瓦器細片が出土したのみで、墳丘上の高まりは自然地形によるものと判断した。	なし	瓦器細片1

関連文献

No.	138	遺跡名	No.23地点 仮称鳶ヶ谷14号墳	所在地	上野市依那具鳶ケ谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.11～7.19	調査面積	49㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
尾根上に立地する径９ｍと径６ｍの２基の円墳が推定されていた。しかし、調査の結果、わずかにNo.23地点で瓦器細片が出土したのみで、墳丘上の高まりは自然地形によるものと判断した。			なし		瓦器細片１
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.25地点 仮称鳶ヶ谷13号墳	所在地	上野市依那具鳶ケ谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.9～7.10	調査面積	45㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
尾根上に立地する径７ｍの円墳と推定されていたが、調査の結果、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。			なし		なし
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.26地点 仮称鳶ヶ谷５号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.1～7.23	調査面積	132㎡	担当者	川崎　正幸
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
直径６ｍ、高さ1.5ｍの円墳とされていた。調査は、頂部を中心に十字にトレンチを設 定した。その結果、疑似墳丘あることが判明したが西トレンチ内で土坑２を検出したため西トレンチを中心に調査区を拡張した。遺構はすべて黄色砂質土から掘り込まれ、土坑８・ピット10を検出した。土坑・ピットともに遺物は出土せず、わずかに暗灰褐色砂質土からサヌカイト剝片が１片出土したのみである。			土坑８ ピット10		サヌカイト剝片
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.27地点 仮称源鳥６号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.1～7.23	調査面積	39㎡	担当者	川崎　正幸
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
直径６ｍ、高さ１ｍの円墳と想定されたが、伐採後の地形測量では、全長26ｍの墳丘規模をもつ前方後円墳状の高まりが観察された。調査は頂部を中心に十字にトレンチを設定し行った。その結果、表土直下で地山が見られ、No.27地点は疑似墳丘と考えられた。			なし		なし
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.28地点 仮称源鳥7号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.1～7.23	調査面積	58㎡	担当者	川崎　正幸
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
直径6m、高さ1.5mの円墳と想定されたが、伐採後の地形測量では、全長17mの墳丘 規模をもつ前方後円墳状の高まりが観察された調査は頂部を中心に十字にトレンチを設定し行った。その結果、表土下に暗灰褐色砂質土・黄色砂質土が堆積していたが、遺構・遺物とも認められず疑似墳丘と考えられた。			なし		なし
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.29地点 仮称源鳥16号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.19～7.23	調査面積	54㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
屋根上に立地する径8mの円墳と推定されていたが、調査の結果、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。			なし		なし
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.39地点 仮称源鳥20号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.1	調査面積	21㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
屋根上に立地する径8mの円墳と推定されていたが、調査の結果、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。			なし		なし
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.44地点 仮称深川谷3号墳	所在地	上野市依那具深川谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.7.23～7.30	調査面積	67㎡	担当者	境　　宏
遺跡の概要			主な遺構		主な遺物
標高178mの尾根上に単独で位置する。分布調査時には、直径6m・高さ1mの円墳と 想定されていた。調査の結果、埋葬主体・周溝等は検出できず自然地形と考えられる。			なし		なし
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.46地点 仮称西卯谷B号墳	所在地	上野市依那具西卯谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.10.24～11.20	調査面積	1,040㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
谷部の湧水地に立地し土堤に囲まれた凹地状の平坦面が確認され、調査を行った。その結果、谷上部から、流水を導入する素掘りの溝と、土堤外部に排出する樋門の一部を検出し、一定量の貯水を目的とした溜池状の遺構であると判断した。築造時期を示す遺物がわずかであるが、近代以降のものと思われる。	溜池状遺構	・木製樋・徳利片

関連文献

No.	138	遺跡名	No.81地点 仮称奥小波田1号墳	所在地	上野市下友生奥小波田
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.9.9～11.12	調査面積	725㎡	担当者	境　宏

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
奥小波田1号墳は標高157mを測る丘陵裾に立地し、平成2年度に調査された奥小波田古墳群の最北部に位置する。調査の結果、周囲に周溝をめぐらした径20m・高さ3mの円墳を確認した。主体部は南東方向に2主体が検出された。盛土より出土した朱は、墳丘築造前の祭祀跡か？	・木棺墓2基 ・盛土・周溝	第一主体部　須恵器（坏身・坏蓋・甕・甑）・鉄鏃・直刀・練玉（160個） 第二主体部　須恵器（坏身・小型提瓶2）直刀・馬具・歯 周溝部　須恵器（坏身・坏蓋・高坏） 盛土部　石鏃・朱

関連文献

No.	138	遺跡名	No.83地点 仮称奥小波田2号墳	所在地	上野市下友生奥小波田
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.10.2～10.29	調査面積	725㎡	担当者	山本雅靖

遺跡の概要	主な遺構	主な遺物
1987年3月の試掘調査により中世期以降の盛土が確認されていた。この地点の調査は工事削平を受ける南側の約半分と東側の遺物の散布する地域を中心に実施した。調査区の全面に土器細片を多く含む薄く堆積する包含層などを掘り下げたところ、試掘時に一部検出していた溝遺構をいくつか検出したほか谷状微地形部の自然流路やNo.83地点に伴う周溝状凹部などを把握した。出土遺物は細片が多く、石鏃をはじめ土師器・須恵器など時期幅の大きいものであり、比較的長期にわたる遺跡の形成のあったことをうかがわせるが、まとまった遺構は見られなかった。	・盛土 ・溝　数条 ・自然流路	・土師器片・須恵器 ・瓦器片・瓦質土器 ・石鏃 ・炭化物片

関連文献

No.	138	遺跡名	No.86地点仮称奥小波田A遺跡	所在地	上野市下友生奥小波田
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.8.26～10.23	調査面積	813㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
No.81地点及びNo.83地点と隣接する。径11mの木棺直葬の円墳は、小古墳ながらも多量の須恵器が墳丘上、墓坑上、棺上及び周溝内にまとまって出土し、そのあり方が注目される。またNo.81地点に隣接して木棺墓も検出され、No.81地点の古墳も含めて、6世紀前半代に規模を異にした墳墓が次々に築造された状況が確認されるにいたった。	・古墳1基 ・木棺墓1基 ・土坑3 ・溝1	須恵器（蓋杯・高杯・有蓋壺・𤮈・広口壺・甕） 土師器（台付甕）・鉄小刀 刀子・鉄鏃・滑石紡錘車・滑石製臼玉

関連文献

No.	138	遺跡名	No.102地点仮称西卯谷1号墳	所在地	上野市依那具西卯谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.9.4～9.5	調査面積	16㎡	担当者	境　宏

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高180mを測る丘陵尾根に単独で位置する。分布調査時には、直径7m、高さ1mの円墳と想定されていた。調査の結果、埋葬主体・周溝等も検出できず、自然地形の高まりと考えられる。	なし	なし

関連文献

No.	138	遺跡名	No.103地点仮称西卯谷A遺跡	所在地	上野市依那具西卯谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.8.26～9.26	調査面積	130㎡	担当者	境　宏

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高165mの丘陵の北向き斜面に一基存在する。天井部の一部が崩れ落ち、炭焼き窯であることが確認されていた。調査の結果、窯体は重宝毛長方形で天井部はドーム状をしている。焚き口と奥壁には補強のため石が使用されている。上部構造として屋根等の存在が想定されたが、柱穴は検出できなかった。	・窯体 ・灰原	土管・茶碗

関連文献

No.	138	遺跡名	No.104地点仮称西卯谷5号墳	所在地	上野市依那具西卯谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.11.11～11.12	調査面積	23㎡	担当者	山本雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高約188mを測る北方向に伸びる尾根上に立地する。直径約8m前後・高約1.5m前後の小円墳状を呈する高まりであった。調査の結果、中心部分で表土下がすぐ地山となり、遺構は確認されず、出土遺物も見られなかった。	なし	なし

関連文献

No.	138	遺跡名	No.105地点仮称西卯谷3号墳	所在地	上野市依那具西卯谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.11.13～11.15	調査面積	35㎡	担当者	山本雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高195mを測る北方向に伸びる尾根上に立地する。直径約20m前後・高約3.5前後の中型の円墳状を高まりであった。調査の結果、いずれのトレンチにおいても表土下がすぐ地山となり、遺構は確認されず、出土遺物も見られなかった。	なし	なし

関連文献	

No.	138	遺跡名	No.106地点仮称羽根川2号墳	所在地	上野市部羽根川
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.11.13～11.18	調査面積	37㎡	担当者	境　宏

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高185mの丘陵端に位置する。分布調査時に直径6m・高さ1.2mの円墳と想定された。調査の結果、表土下すぐ地山となり、埋葬主体、周溝等は検出できなかった。自然地形の高まりと考えられる。	なし	なし

関連文献	

No.	138	遺跡名	No.107地点仮称西卯谷4号墳	所在地	上野市依那具西卯谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.11.13～11.26	調査面積	228㎡	担当者	山本雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高約189mを測る北方向に伸びる尾根上に立地する。東西に主軸をおき、西側を前方部とする全長約15m前後・後円部直径約10m・前方部幅9m・高約2m前後を測る前方後円墳状を呈するものであった。調査の結果、中心部分では表土下がすぐ地山となり遺構は確認されなかったほか、前方部状の部分も厚く残る土層が堆積土であり盛土でないことを把握した。調査区内で細片ではあるが須恵器片をいくつか検出したほか、包含層内から石鏃などの遺物を検出するなど、遺跡の形成のあったことが窺われた。	なし	石鏃・須恵器

関連文献	

No.	138	遺跡名	No.108地点仮称西卯谷2号墳	所在地	上野市依那具西卯谷
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.11.13～11.14	調査面積	38㎡	担当者	山本雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高約182mを測る北方向に伸びる尾根上に立地する。直径約9m前後・高約1.5m前後の小円墳状を呈する高まりであった。調査の結果、中心部分では表土下がすぐ地山となり、遺構は確認されず、出土遺物も見られなかった。	なし	なし

関連文献

No.	138	遺跡名	No.112地点仮称高塚2号墳	所在地	上野市市部高塚
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.24～5.31 H8.26～9.30	調査面積	1,012㎡	担当者	山本雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
1987年3月の試掘調査により、落とし穴状の土坑が検出されていた。調査前の現状は痩せ尾根部を中心に砂防工事による加工の著しい地形が認められた。調査の結果、尾根部で落とし穴遺構を検出したほか、北側斜面で2m近い厚い堆積土の下部から焼土面や柱穴・土坑・石鏃・土器などの遺構・遺物を検出した。調査区域内の南側斜面はほぼ全域が砂防工事などによる削平などを受けて、表土下は堆積土をほとんど残さず地山となっており、遺構・遺物は検出されなかった。	焼土面 土坑 柱穴	石鏃・土器

関連文献

No.	138	遺跡名	No.113地点仮称羽根川C遺跡	所在地	上野市市部羽根川
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.11.11～11.26	調査面積	225㎡	担当者	川崎正幸・山本雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
分布調査の時点で瓦製祠が認められていた。小規模な神社的遺跡を想定して祠の安置してあった最も高くなる部分を中心に造成整形面の検出と旧参拝道部を中心に調査を実施した。調査の結果、境内地は北側から参拝道が付き、南側に祠が位置するものであることが判明したほか、小規模な盛土による造成整形を行い、方形に近い境内域を造っていることも把握された。しかし、盛土内部からの遺物は認められず造成時期を特定することは出来なかった。	盛土	瓦製祠

関連文献

No.	138	遺跡名	No.115地点仮称羽根川A遺跡	所在地	上野市市部羽根川
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.10.29～11.12	調査面積	11㎡	担当者	山本　雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
市部地区と友生地区を結ぶ舗装道路と農道部分が分岐する三叉路に位置する。石仏には、江戸時代初期の紀年銘がほられており、近世初頭より設置されていたことも予測された。調査の結果、石仏を安置した範囲を少し楕円形に整形し、西側に小溝を巡らすなどの形跡を確認したが、祠などの施設の有無などは確認することは出来なかった。遺物は江戸期にさかのぼる遺物は認められず、賽銭などの遺物もすべて近現代のものであった。	溝 主な	・石仏 ・賽銭

関連文献	

No.	138	遺跡名	No.116地点仮称羽根川B遺跡	所在地	上野市市部羽根川
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.10.29～11.12	調査面積	16㎡	担当者	山本　雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
No.115地点から農道を北進した市部地区からの道が下友生地区と中友生地区へそれぞれ分岐する道路の三叉路に位置する。石仏は、室町時代の特長を持つが、紀年銘などは彫られていない。調査の結果、石仏は設置に伴う土坑のほか、農道の肩部を保護・補強する杭列や農業用水路と考えられる溝などを検出した。中世期にさかのぼる遺物をはじめ近現代の遺物も全く認められなかった。	土坑・杭列 溝	石仏

関連文献	

No.	138	遺跡名	No.137地点仮称源鳥遺跡	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.6.5～6.7	調査面積	16㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
No.113地点の斜面下方で若干の高まりが認められ、古墳の可能性が推定されたため、試掘調査を実施した。しかし、調査の結果、自然地形によるものと判断された。	なし	なし

関連文献	

No.	138	遺跡名	No.138－B地点仮称源鳥19号墳－B	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.6.7～7.4 H3.11.20～11.26	調査面積	203㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な機構		主な遺物	
調査中、新規発見されたもので、谷に面して延びる舌状尾根端に立地する。遺構はわずかであるが、北白川下層式に属する縄文時代前期の土器とともにサヌカイト製の鍬首石器類や剝片等が包含層中より多量に出土した。しかし、遺物の散布は局所的であり、居住後も確認されておらず、石器類にも未製品がみられ、野外における石器製作所的な性格の遺跡であったと思われる。		土坑3 自然流路1		・縄文土器・石鏃多数・石錘 ・石匙・石錐・スクレイパー ・磨石・叩石・石皿・剝片・ ・石屑多数・須恵器甕片	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.139地点仮称源鳥20号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.17～5.30	調査面積	312㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な機構		主な遺物	
丘の緩斜面に立地する墳丘上の高まりが認められたため試掘調査を実施した。しかし、その結果、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。		なし		なし	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.140地点仮称源鳥20号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.13～5.20	調査面積	150㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な機構		主な遺物	
尾根上に不整形ながらも墳丘上の高まりがみられたため、試掘調査を実施した。その結果、自然地形によるものであると判断された。		なし		なし	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.141地点仮称源鳥22号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.14～5.20	調査面積	132㎡	担当者	竹内　英昭
遺跡の概要		主な機構		主な遺物	
尾根上に墳丘上の高まりが認められたため、試掘調査を実施した。しかし、その結果、わずかに堆積土中から須恵器の小片が出土したが、古墳等に伴うものではなく、よって自然地形によるものと判断した。		なし		須恵器小片1	
関連文献					

No.	138	遺跡名	No.142地点仮称源鳥23号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.29～5.30	調査面積	190㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
谷部に面した丘陵裾部に墳丘上の高まりが2基認められたため試掘調査を実施した。しかし、その結果は、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。	なし	なし

関連文献

No.	138	遺跡名	No.143地点仮称源鳥24号墳	所在地	上野市依那具源鳥
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.29～5.30	調査面積	250㎡	担当者	竹内　英昭

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
谷部に面した丘陵裾部に墳丘上の高まりが2基認められたため試掘調査を実施した。しかし、その結果は、地山が露呈し、自然地形によるものと判断した。	なし	なし

関連文献

No.	138	遺跡名	No.152地点仮称高塚5号墳	所在地	上野市市部高塚
調査原因	上野新都市整備事業	事業主体	地域振興整備公団	調査機関	上野市遺跡調査会
調査期間	H3.5.8～5.14	調査面積	329㎡	担当者	山本　雅靖

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
標高約186mの東西に続く尾根上に立地する。直径約8m・高約1.5mの小円墳状を呈する高まりであった。調査の結果、中心部分及び連続する尾根では表土下がすぐ地山となり、古墳と想定できる遺構や遺物は確認できなかったが、堆積土の残る北側斜面で包含層がわずかに残り、柱穴・土坑・石鏃・土器などの遺構・遺物を検出した。	柱穴・土坑	石鏃

関連文献

No.	139	遺跡名	夏見廃寺跡	所在地	名張市夏見字赤坂
調査原因	史跡整備事業	事業主体	名張市	調査機関	名張市教育委員会
調査期間	H3.5.10～8.20	調査面積	約450㎡	担当者	水口　昌也

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
史跡、夏見廃寺の整備事業に伴う、遺構確認調査で、これまで未確認だった寺域周辺の築地の確認調査をした。 築地は、基底部のみの確認で、地山を削り出した幅約1.8mのものであった。 東西両側のものは両側に素掘溝が伴うが、北辺の築地は、北側だけに溝がある。	築地基底部 寺域周辺の東西両辺と北辺の三方向	瓦類 軒丸重弁八葉弁 複弁八葉弁 軒平三重弧文 均整唐草文 陶質の相輪の一部 塼仏 方形三尊塼仏 土師器皿 須恵器

関連文献	

No.	140	遺跡名	名張藤堂家邸跡５次	所在地	名張市丸之内54番地
調査原因	史跡整備	事業主体	名張市	調査機関	名張市遺跡調査会
調査期間	H3.9.27～10.16	調査面積	60㎡	担当者	門田　了三

遺跡の概要	主な機構	主な遺物
名張藤堂家邸は、天正13年(1585)筒井定次の家臣松倉右近勝重が築城した名張城の跡に、寛永13年(1636)藤堂高虎の養子藤堂高吉が屋敷を築いたものである。 当初の建物は宝永７年(1710)の名張大火により焼失し、その後直ちに建てかえられ、幕末期作成と考えられる屋敷図は大名屋敷の規模を伝えている。現在は奥向き住居のみ残っているが、数少い上級武家屋敷を知る資料として県史跡に指定され、保存修理が行なわれている。	○16世紀後半 ・井戸１基 ・地山掘り込み ○江戸時代前半 ・溝１条 ○江戸時代後半 ・溝２条	・常滑甕 ・天目 ・伊万里

関連文献	福井健二『三重の近世城郭』（三重県教育委員会1984）

Ⅲ．埋蔵文化財保護体制の充実

1．各種会議

〔三重県埋蔵文化財担当者会議〕

当埋蔵文化財センターのほか、県文化振興課・斎宮歴史博物館及び市町村の埋蔵文化財担当者による技術研修や情報交換を目的として、本年度は次の４回を開催した。

	開催日	場所	内容
第１回	平成３年４月26日	斎宮歴史博物館講堂	・平成３年度の事業計画について ・講演会「土器の蛍光Ｘ線分析による産地推定」 三辻利一氏（奈良教育大学教授） ・事例報告「南勢地方の古瓦」 河北秀実氏（当埋文センター調査第二課主事）
第２回	平成３年８月９日	亀山市青少年研修センター	・市町村及び県の現状と課題 ・調査概要発表（スライド使用） ・現地見学（亀山市武家屋敷長屋門ほか）
第３回	平成３年11月22日	名張市役所大会議室	・市町村及び県の現状と課題 ・現地見学（第11回三重県埋文展ほか）
第４回	平成４年２月18日	斎宮歴史博物館講堂	・市町村及び県の現状と課題 ・講演会「埋文写真について」 井上直夫氏（奈良国立文化財研究所文部技官）

〔その他の会議〕

全国公立埋文協などが主催する会議、研修会に職員を派遣し、県外他機関との交流や技術研修を行っている。今年度は次の会議等参加した。

名称	内容	期日	場所	出席者
全国遺跡データベース研究会	文化財データベースの設計について	５月２日	奈文研飛鳥藤原宮跡発掘調査部	斎藤　直樹
第３回埋蔵文化財写真技術研究会	総会	７月５日	奈良国立文化財研究所	田村　陽一
平成３年度全国公立埋文協総会	平成３年度事業計画その他	６月６・７日	埼玉県伊奈町	山澤　義貴 東谷　勇
全国公立埋文協第４回全国研修会	遺物保存処理の現状と問題点	10月17・18日	愛知県犬山市	河北　秀実
平成３年度東海４県文化財担当者会議	発掘調査経費の積算について	10月22・23日	静岡県静岡市	新田　洋

平成３年度文化財行政基礎講座	文化財保護の課題その他	10月22～24日	東京都千代田区	田村　陽一
全国公立埋文協中部・北陸ブロック会議	収蔵庫の問題 管理体制について その他	11月13日	福井県教育庁埋蔵文化財センター	山澤　義貴 小坂　宜広

2．埋蔵文化財発掘技術者研修

〔職員研修〕

職員の技術的向上を目的に、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターが実施する埋蔵文化財発掘調査技術者研修を随時受講させるほか、平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部に職員を派遣して研修・指導を受けている。

内　　容	実施機関	期　　間	受講者
平城宮跡発掘調査研修	奈文研平城宮跡発掘調査部	平成３年７月１日～９月30日	石川　隆朗
飛鳥藤原宮跡発掘調査研修	奈文研飛鳥藤原宮跡発掘調査部	〃　８月１日～10月31日	浜口　元
保存科学応用過程	奈文研埋蔵文化財センター	〃　11月６日～11月20日	野原　宏司
水田遺跡調査過程	奈文研埋蔵文化財センター	〃　11月26日～12月７日	山口　格

〔埋蔵文化財発掘技術者研修（教員研修）〕

昭和42年度以来県下の学校教員を対象として埋蔵文化財の発掘調査等についての専門的知識と技術の習得を目的とする研修事業を実施している。昭和54年度以降期間１カ年の研修となり、本年度は次の３名が県埋蔵文化財センター及び県内発掘調査現場において研修を行った。これまで昭和54年度から本年度までに53名が研修を終了した。

平成３年度研修生

高崎仁　　小俣町立明野小学校

中浦基之　上野市立府中小学校

伊藤徳也　県立菰野高校

〔平成３年度研修内容〕

月	研　修　内　容
4	・研修ガイダンス　・室内講義Ⅰ・Ⅱ　・遺物実測実習　・分布調査実習
5	・発掘調査実習（斎宮跡第90次調査　西加座地区）　・室内講義Ⅲ
6	・　〃　（城之越遺跡　本郷遺跡　大石遺跡）
7	・　〃　（　〃　〃　〃）
8	・　〃　（　〃　〃　〃）
9	・　〃　（　〃　西殿遺跡　東榊野２号墳）
10	・　〃　（　〃　伊勢寺遺跡　大里西沖遺跡ほか）
11	・　〃　（伊賀国府推定地　〃　〃　ほか）

12	・発掘調査実習（伊賀国府推定地・阿形遺跡・大里西沖遺跡ほか）
1	・　〃　（　〃　ほか）　・分布調査実習　・試掘調査実習
2	・報告書作成実習　・分布調査実習　・試掘調査実習
3	・　〃　・室内講義Ⅳ・Ⅴ

〔室内講義内容〕

月　日	内　　容	担　当　者
〔室内講義Ⅰ・Ⅱ〕		
4．10	埋文センターの組織と機能	山澤　義貴（埋蔵文化財センター）
	埋蔵文化財の保護行政と発掘調査	伊藤　克幸（　〃　）
	測量機材の取り扱い	杉谷　政樹（　〃　）
	写真機材の取り扱い	田村　陽一（　〃　）
4．11	遺跡の調査と方法	新田　洋（　〃　）
	遺物の整理と実測	駒田　利治（　〃　）
	調査記録（図面・写真類）の整理	小坂宜広・小林秀（　〃　）
〔室内講義Ⅲ〕　考古学よりみた三重の歴史		
5．13	遺跡の立地と地形環境	田村　陽一（埋蔵文化財センター）
	旧石器時代の三重	久保　勝正（斎宮歴史博物館）
	縄文時代の三重	田村　陽一（埋蔵文化財センター）
5．16	古墳時代の三重	上村　安生（　〃　）
	奈良平安時代の三重	倉田　直純（　〃　）
	考古学からみた三重県の中世	伊藤　裕偉（　〃　）
	中世における文献史学と考古学の接点	小林　秀（　〃　）
5．17	三重の弥生文化	伊藤　久嗣（斎宮歴史博物館）
	斎宮について	田阪　仁（　〃　）
〔室内講義Ⅳ・Ⅴ〕報告書作成の方法、遺構・遺物各論		
3．16	縄文土器	穂積　裕昌（埋蔵文化財センター）
	弥生土器	伊藤　裕偉（　〃　）
	報告書作成法	杉谷　政樹（　〃　）
3．19	中世の土器	前川　嘉宏（　〃　）
	瓦	河北　秀実（　〃　）
3．25	古墳時代の土器	泉　雄二（　〃　）
	石器	久保　勝正（斎宮歴史博物館）
	埴輪	上村　安生（埋蔵文化財センター）
3．26	斎宮跡の遺構・遺物	吉水　康夫（斎宮歴史博物館）

〔町村職員研修〕

県下各市町村においては20市町村、約40名の埋蔵文化財専門担当職員が配置されており、未配置の市町村についても県文化振興課を通じてその配置をはたらきかけているところである。また、一方で埋蔵文化財専門担当職員が配置されていない町村教育委員会の職員を対象として埋蔵文化財発掘調査技術を研修し、埋蔵文化財保護行政に資するための研修を実施している。本年度は次の1件を実施した。

所属・氏名	種別	内容	期間
二見町教育委員会 大西隆	Aコース	試掘調査実習 （二見町安養寺跡・豆石山経塚ほか）	平成3年7月22日～9月21日

3. 市町村事業等への指導・協力

依頼者	内容	期日	備考
玉城町教育委員会	乗入田遺跡発掘調査の指導	5月30～6月30日	
二見町教育委員会	安養寺跡・豆石山経塚ほかの試掘調査指導協力	6月26日～9月21日	町村職員研修
鈴鹿市教育委員会	市埋蔵文化財センター建設調査委員会出席	6月27日	
玉城町教育委員会	村山龍平記念館特別展の企画指導	7月9日～8月9日随時	
小俣町教育委員会	六軒屋遺跡発掘調査の指導	8月5日～8月31日随時	
志摩町教育委員会	阿津里貝塚試掘調査の指導	8月23日・12月25・26日	
関町教育委員会	鈴鹿関関連遺跡地内試掘調査の指導	8月29日・2月12日	
玉城町教育委員会	酒部屋西遺跡・入端遺跡試掘調査の指導	9月14日～9月21日随時	
美里村教育委員会	川南中世墓試掘調査の指導	9月26日	
多気町教育委員会	出土遺物復元作業の指導		
桑名市教育委員会	西金井遺跡試掘調査の指導	10月21日	
松阪市立茅広江公民館	歴史教室での講演	10月21日	
(財) 三重県長寿社会推進センター	みえ長寿社会大学での講演	10月22日	
藤原町教育委員会	白瀬城跡周辺測量及び試掘調査の指導	10月28日・2月27日	
紀勢町教育委員会	向井山古墳墳丘確認等の指導	10月29日	
関町教育委員会	歴史講座での講演	11月7日	
多気町教育委員会	普賢寺収蔵庫収蔵環境の指導	11月～3月随時	
上野市教育委員会	上野新都市内埋蔵文化財調査指導委員会出席	12月3日	
津市中央公民館	成人学級での講演	12月8日	
鈴鹿市教育委員会	伊勢国分寺跡調査の測量の指導・協力	12月12日～13日	
嬉野町教育委員会	下沖遺跡発掘調査の指導	12月24日	

伊勢市教育委員会	伊勢市郷土資料館特別展への協力	12月～2月随時	
鈴鹿市教育委員会	薬師寺解体修理に伴う赤外線カメラ利用の指導	1月17日	
島ケ原村教育委員会	鋼ケ峰一帯分布調査の指導	1月21日	
青山町教育委員会	ふるさと文化歴史教室での講演	1月29日	
青山町教育委員会	川上ダム予定地分布調査の指導・協力	2月	
志摩文化財調査保護委員協議会	研修会での講演	2月17日	
桑名市教育委員会	桑部北・南城址発掘計画策定の指導	2月20日	
三重県高等学校社会科研究会	日本史部会での講演	2月25日	
朝日町教育委員会	縄生廃寺跡範囲確認調査指導委員会に出席	2月26日	
紀和町教育委員会	国史跡赤木城等保存整備の指導	2月26日・27日	
員弁町教育委員会	段遺跡試掘調査の指導	2月27日	
伊勢市教育委員会	伊勢市文化財講演会での発表	3月14日	
上野ロータリークラブ	例会での講演	3月17日	
考古学研究会	研究例会での発表	3月21日	
四日市市教育委員会	四日市市史編集専門部会委員に委嘱		
三重県社会科教育研究会	中学校歴史資料集編集委員に委嘱		

〔発掘技術者研修（教員対象）実施要項〕

平成３年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項

１．目的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得に務めようとする者を、三重県埋蔵文化財センターにおいて研修を実施し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

２．主催

三重県埋蔵文化財センター

３．期間

平成３年４月１日～翌年３月31日までの12か月間

４．場所

・多気郡明和町大字竹川　　三重県埋蔵文化財センター

・各発掘現場

５．人員

６名（小・中・高校教員）

６．参加資格

（１）県内の小・中・高校の教員のうちで、原則として大学において考古学・歴史学を専攻、もしくは発掘調査の経験を有する者。

（２）健康で現場作業に従事することのできる者で、原則として昭和30年４月以降生まれである者。

７．研究内容

（１）論議

総論　・文化財の保護

各論　・文化財保護法

・史跡および埋蔵文化財保護の現状

・発掘調査方法

調査計画、墳墓・集落・生産所・窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査

・遺物調査方法

実測原理、土器・土製品・石器・木製品・瓦の観察と整理、人骨・動植物遺体の調査

・関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

・報告書作成方法等

（２）実習　・発掘調査実習、測量実習、遺構実測実習、写真撮影実習、遺物保存処理実習等

８．講師

三重県埋蔵文化財センター職員ほか

９．その他

（１）研修者の旅費は、県の旅費規定にしたがって支給する。

（２）研修期間中は、当該学校に対し教員の補充がなされる予定である。

（３）研修を修了した者には、修了証書を交付する。

埋蔵文化財発掘調査技術者研修年間計画表

内容		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
室内講義ⅠⅡⅢ	文化財保護行政	—											
	埋文調査の基礎知識	—											
基礎実習	遺物実測・拓本実習	—											
	測量調査実習		—										
発掘調査	調査計画立案法（実習）		—										
	調査準備法　（実習）		—										
	遺構検出法　（実習）			—	—	—	—	—	—	—			
	遺構写真法　（実習）									—			
	遺構実測法　（実習）									—			
分布調査	分布調査実習										—		
試掘調査	試掘調査実習											—	
室内講義ⅣⅤ	遺物各論												—
報告書作成	遺物整理法　（実習）										—		
	遺構整理法　（実習）											—	
	記述原理											—	
	報告書編集法　（実習）												—
研修場所		埋文センターほか	斎宮歴史博物館	埋蔵文化財センターほか							埋蔵文化財センターほか		

〔町村職員研修実施要項〕

平成3年度埋蔵文化財発掘技術町村職員研修実施要項

1．目的

近年、各種開発事業に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査件数は増大し、各町村においても調査体制の確立が急務となっている。そのため、遺跡の現地分布調査、出土品整理、報告書作成等に関する専門的な調査技術の研修を実施して埋蔵文化財行政の強化に資する。

2．主催　　三重県教育委員会

3．対象　　町村教育委員会担当職員

4．場所

（1）多気郡明和町大字竹川　　三重県埋蔵文化財センター

（2）県内各地　　埋蔵文化財発掘調査現場

5．期間及び実施時期

（1）各講座（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は2か月とする。

（2）研修年度は、単年度が望ましいが、数年度にまたがってもよい。

（3）研修実施期間は、研修者派遣機関の希望を考慮する。

〔受講例〕

期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A		――	――	講座Ⅰ								
B			――	――	講座Ⅱ		――	――	講座Ⅲ			
C		――	――	講座Ⅰ	――	――	講座Ⅱ		――	――	――	講座Ⅲ

6．研修内容

講座	名称	実習内容	期間
Ⅰ	発掘コースA	現地分布調査実習　試掘調査実習	2か月
Ⅱ	発掘コースB	発掘調査実習	2か月
Ⅲ	発掘コースC	遺物整理実習　報告書作成実習	2か月

（1）文化財保護法の概要

（2）埋蔵文化財の判定

（3）埋蔵文化財の確認調査の立案と実習

（4）試掘調査の立案と実習

（5）発掘調査の立案と実習

（6）遺構の実測技術と写真撮影技術

（7）遺物の整理実習

（8）製図・レイアウト等報告書作成実習

7．修了証書の交付

全研修講座修了者には、修了証書を交付する。

8．研修の経費

（1）研修実施場所への旅費は、研修者派遣機関において負担するものとする。

（2）研修に必要な資料等の経費は、研修者派遣機関の実費負担を求める場合がある。

Ⅳ. 資料の整理・保管・公開

1. 資料の整理・保管

本年度の各事業別遺物出土量の概数は下表のとおりであり、その整理は埋蔵文化財センター及び受託事業現場整理所で行っている。出土遺物の保管については、原則として再検討・貸出等利用頻度の高いものを埋蔵蔵文化財センター収蔵庫に、その他のものは各収納倉庫に保管している。

また、本年度は明和町教育委員会に対し同町内の神前山1号墳等10遺跡出土資料の保管転換を行った。

一方、実測図面・写真フィルム類についても出土遺物と同様に整理保管し、必要に応じて貸し出し等に対応している。一方、受贈図書は約2,020冊有り、図書室に分類保管して職員等の利用に供している。

〔平成2年度出土品量（概数）〕

事業		平成3年度出土量
公共事業		2，010
受託事業	近畿道	250
	国一バイパス	——
	中勢道路	150
	松多バイパス	240
斎宮跡		540
合計		3，190

〔出土遺物保管状況〕

施設		遺物保管量
埋文センター収蔵庫2	センター	6，460
	斎宮	9，120
収納倉庫	桜橋	19，340
	藤方	4，600
	上野	3，030

受託事業現場整理所（一時保管）	近　畿　道	810
	国一バイパス	1,470
	中勢道路	2,410
	松多バイパス	340
合　計		47,580

※数量はコンテナ（55cm×35cm×15cm）による

〔市町村教育委員会への出土遺物の保管転換〕

保管転換先	資料名
明和町教育委員会	・大林1号墳(S44)・金剛坂遺跡(S54)・北野遺跡(S46)・神前山1号墳(S47) ・発シA遺跡(S47)・明星古墳群(S48・52)・水池土器製作遺跡(S51) ・二ツ塚遺跡(S51・52)・粟垣外遺跡(S53・54)・露越遺跡(S54) 出土遺物

2．科学的保存処理

埋蔵文化財センターには出土遺物の保存処理を実施するため保存科学室1（木製品保存処理）にPEG樹脂含浸装置2基、保存科学室2（金属製品保存処理）に減圧樹脂含浸装置1基ほかが設置されている。現在のところ専任の担当職員は配置していないが、保存処理技術を研修した職員等が保存処理にあたっている。

〔平成2年度保存処理遺物〕

保存処理遺物	保存処理方法
太田遺跡・森脇遺跡・伊賀国府推定地出土木製品	PEG樹脂含浸

3．資料の公開

・出版物の発行

発掘調査報告書・概報のほかに『三重県埋蔵文化財センター研究紀要1』『三重県埋文センター通信みえ』No. 4～6等を発行し、関係機関へ配布している。

・現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し文化財保護への理解を深めていただくため、現地説明会を開催しその調査結果について報告を行っている。当埋蔵文化財センターが調査主体となった発掘調査にかかる現地説明会は下表のとおりであり、毎回多数の人々の参加を得ている。

〔現地説明会一覧〕

遺跡名	所在地	担当課	開催日	参加人数
勝地大坪遺跡	名賀郡青山町勝地	調査第1課	H3. 7.20	200名
ヒタキ廃寺	松阪市阿形町	調査第1課	H3. 7.21	100名
本郷遺跡	多気郡明和町明星本郷	調査第1課	H3. 7.27	70名
大石遺跡	安芸郡芸濃町椋本	調査第1課	H3. 8. 3	50名
城之越A遺跡	上野市比土字城之越	調査第1課	H3. 8.11	1,800名
打田遺跡	松阪市岡本町	調査第1課	H3. 8.31	80名
西殿遺跡	志摩郡阿児町大字国府	調査第1課	H3. 9. 7	50名
阿形遺跡	松阪市阿形町	調査第1課	H4. 1.11	200名
伊賀国府推定地	上野市坂之下国町	調査第1課	H4. 1.18	200名
大古曽遺跡ほか	津市一身田大古曽	調査第2課	H4. 1.25	80名
朱中遺跡	松阪市射和町	調査第2課	H4. 2. 1	100名

・斎宮歴史博物館速報コーナーでの展示

斎宮歴史博物館映像展示室の速報コーナーで、埋蔵文化財センターが実施している発掘調査の成果の一部を速報的に随時展示している。本年度は次の資料を展示した。

鴻之木遺跡　縄文土器（深鉢）
高賀遺跡　土師器（線刻壷・壷・高杯・甕）
城之越遺跡　土師器（小型丸底壷・甕・高杯・甕）
ヒタキ遺跡　鬼瓦、軒丸瓦、軒平瓦

・三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は、昭和56年度から三重県教育委員会が主催して，各市町村を会場に毎年実施してきた。平成元年度からは埋蔵文化財センターが主催し、三重県が実施した発掘調査の成果および市町村主体の発掘調査の成果を展示して広く県民に公開し、社会教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めている。本年度は第11回を迎え、名張市立図書館を会場に平成3年11月12日（火）～11月24日（日）までの会期で実施した。今回は「古代の伊賀を探る」をテーマにこれまで伊賀地区で出土した古墳～奈良時代の資料を各関係機関・個人のご協力を得て展示・紹介した。会期中の入場数は約1250名であった。

〔埋文展実施要項〕

第11回　三重県埋蔵文化財展実施要項

1．目的

県下各地で行われる各種開発事業と埋蔵文化財保護との調和は積年の課題となっている中で、開発事業に伴う発掘調査は年々増加し、県下においても貴重な文化財が数多く出土している。

そこで、本県では、これら県下各地の発掘調査により出土した遺物や関連資料を広く県民に公開展示し県民文化の向上と埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めているところである。

今年度は、特に伊賀地方における古代史に焦点をあて、そのすぐれた資料を紹介する。

2．主催　　三重県埋蔵文化財センター

3．後援　　上野教育事務所管内各市町村教育委員会

4．期間　　平成３年11月12日（火）～11月24日（日）10:00 ～16:30
　　ただし、11月18・23日は図書館休館日のため休み

5．場所　　名張市立図書館２階視聴覚室（名張市桜ヶ丘３０８８－１５６）

6．展示テーマ　「古代の伊賀を探る」
　　近年、伊賀地方における発掘調査の進展により、同地方の古代史を考える上で重要な資料が増加している。このため今回は伊賀地方の古墳～奈良時代に焦点をあて、最新の成果を含めて展示を行う。

7．記念講演会
・日時　平成３年11月17日（日）14:00 ～16:00
・場所　名張市役所１階大会議室
・講師　三重大学教授　八賀　晋　先生
・演題　古代の寺院　－伊賀と伊勢－

8．主な展示物

資料名	出土地	所蔵者
鍬形石・車輪石	石山古墳	京都大学
四獣鏡・銅鏃	東山古墳	三重県
銀象嵌刀装	前山古墳	三重県
変形獣帯鏡・玉類	鳴塚古墳	鳳凰寺史跡保存会
飾金具・金銅製釧	上山９号墳	名張市
木製品	北堀池遺跡	三重県
土師器	城之越遺跡	三重県
塼仏・軒丸瓦	夏見廃寺	名張市
軒丸瓦・軒平瓦	三田廃寺	上野市
軒丸瓦・軒平瓦	鳳凰寺廃寺	大山田村ほか
軒丸瓦・軒平瓦	伊賀国分寺	個人ほか
緑釉陶器	伊賀国府推定地	三重県

4．保管遺物等の貸出・写真等の掲載許可

資　料　名	申 請 者	目　　的	期　間	許可日
井田川茶臼山古墳出土須恵器写真２点	雄山閣出版	「古墳時代の研究」第６巻への掲載		4／８
天華寺廃寺出土軒丸瓦等４点	斎宮歴史博物館	企画展「斎宮をめぐる人々」での展示公開		4／12
井田川茶臼山古墳出土画文帯神獣鏡の写真撮影	川西宏幸	個人研究		4／12
納所遺跡出土弥生土器８点	愛知県埋蔵文化センター	財弥生土器産地同定の基準資料		4／17
森山東遺跡弥生時代水田	中島千年	社会科の教材資料		4／25

遺構写真２点				
森脇遺跡第３次調査航空写真１点	森本祐子	個人資料		5／ 9
御墓山古墳写真等３点	紀行社	「図説日本の史跡」への掲載		5／13
下郡遺跡出土木葉型鋸写真	秋山実	（株）木村工務店会社案内への掲載		5／29
寺垣内遺跡出土弥生土器５点	明和町教育委員会	歴史民俗資料館考古コーナーの常設展示	5／22 ～3／31	5／30
寺垣内遺跡遺物出土状況写真等３点	明和町教育委員会	歴史民俗資料館考古コーナーの年表パネル展示		5／30
神前山１号墳等１０遺跡出土資料	明和町教育委員会	保管転換・ふるさと会館での展示		6／ 6
山神城跡発掘調査航空写真２点	郷土出版社	「定本三重県の城」への掲載		6／19
城山古墳出土埴輪実測図等	鈴木敏則	「Mie history 」所収論文への掲載		7／ 1
川原井瓦窯跡出土軒丸瓦等７点	鈴鹿市教育委員会	鈴鹿市埋蔵文化財展での展示	8／8 ～8／12	7／ 6
蚊山遺跡左郡地区航空写真等６点	玉城町教育委員会	玉城町の埋蔵文化財展パンフレットへの掲載		7／10
蚊山遺跡左郡地区出土遺物等２６２点	玉城町教育委員会	「玉城町の考古資料展」への展示		7／26
高賀遺跡出土木製品実測図１点	雄山閣出版	「古墳時代の研究」第５巻への掲載		7／29
納所遺跡出土遺物写真等20点	津市立安東小学校	教材マップへの掲載、郷土資料館への展示		8／ 7
おじょか古墳出土埴枕写真２点	伊藤久嗣	「海と日本列島」７巻への掲載		8／20
深長古墳出土壺形埴輪	太田区郷土博物館	春季特別展での展示	H.４年度	8／28
六大Ｂ遺跡出土和同開珎（銀銭）写真１点	津市教育委員会	「津市政だより」9／1号への掲載		9／ 3
城之越遺跡遺構写真１点	伊勢志摩編集室	月刊「伊勢志摩」への掲載		9／12
城之越遺跡遺構写真３点	石乃美社	月刊「愛石の友」への掲載		9／18
納所遺跡出土弥生土器等の実測・写真撮影	若林邦彦	論文作成		9／18
正法寺山荘跡航空写真等５点	郷土出版社	「定本　三重の城」への掲載		9／24
大石遺跡出土縄文土器等６点	勢和村教育委員会	「勢和と縄文展」で展示	10／4 ～10／14	10／4
伊勢系（型）鍋に関する	葛飾区郷土と天文	平成５年特別展「東京低地の中世		10／7

資料の閲覧	の博物館	遺跡」の準備		
大谷遺跡出土須恵器杯等１３点	員弁町教育委員会	員弁町文化祭 農業商工祭での展示	10／23 11／22	10／8
納所遺跡出土磨製石斧	愛知県埋蔵文化財センター	「朝日遺跡・科学分析編」の諸分析資料		10／24
中楽山遺跡出土遺物等25点	皇學大学考古学研究会	大学祭での展示	10／29 ～11／8	10／25
鴻之木遺跡出土押型文土器フィルム等１１点	朝日新聞社アサヒグラフ編集部	「特集1991古代史発掘総まくり」への掲載	11／14 ～1／13	11／28
西出遺跡出土縄文土器の実測	守屋豊人	論文作成	12／12	12／10
城之越遺跡全景フィルム８点及び同遺跡出土土器写真掲載	伊勢志摩編集室	月刊「伊勢志摩」への掲載	12／27 ～1／28	12／27
井田川茶臼山古墳出土画文帯神獣鏡写真等14点	郷土出版社	「図説北勢の歴史」への掲載		1／ 6
城之越遺跡遺構写真	公立埋文協	「公立埋文協会報」への掲載		1／ 6
城之越遺跡遺構写真１点	ブリタニカ年鑑編集部	「ブリタニカ国際年鑑」（1992年度）への掲載		1／17
伊賀国府推定地出土土符等２点の実測	山本雅靖	個人研究		1／13
納所遺跡出土磨製石斧等２８点	愛知県埋蔵文化財センター	「朝日遺跡調査報告書」第２集作成		1／27
下郡遺跡出土鋸１点	国立歴史民俗博物館	企画展での展示	1／29 ～5／25	1／30
納所遺跡等出土木製品の閲覧	中山正典ほか	個人研究		1／30
阿形遺跡出土遺物等の閲覧	足立順司	調査研究		2／ 3
落合古墳群出土遺物等44点	伊勢市教育委員会	特別展「伊勢を掘る」でへの展示		2／ 7
北切遺跡出土資料の閲覧	石黒立人	個人研究		2／17
鴻之木遺跡竪穴住居及び炉跡写真	角川文化振興財団	「古代の日本」第５巻へ掲載		2／21
伊賀国府推定地出土土符２点の写真撮影	百上進一	個人研究		3／ 5
おじょか古墳出土埴製枕写真等３点	郷土出版社	「図説伊勢志摩の歴史」への掲載		3／ 6

斎宮歴史博物館展示品協力遺物一覧

遺　跡　名	遺　　物　　名
大安中世墓	蔵骨器(3)、蔵骨器蓋(2)、五輪塔（1 式）
丹生川上城跡	蔵骨器(1)
西ケ広遺跡	異形硯(1)
東庄内Ａ遺跡	縄文土器：深鉢(1)
東庄内Ｂ遺跡	縄文土器：台付鉢(1) 壺棺墓：壺(1) 甕(1) 台付鉢(1)
	方形周溝墓出土：壺(1) 石器：石包丁(1)
上箕田遺跡	直柄鋤(2)
神大寺遺跡	石器：石斧(1)
川原井瓦窯	伊勢国分寺式軒丸瓦(1) 軒平瓦(1)
川原井遺跡	灰釉陶器：浄瓶(1)
柴崎遺跡	土製勾玉(1)、朱(1)、土師器：壺(1)
大鼻遺跡	土偶(1)、子持勾玉(1)
井田川茶臼山古墳	須恵器：器台(5) 台付壺(4) 壺(7) 甕(1) 装飾台付壺(1)鐙(1)
	有蓋高杯(2) 有蓋高杯蓋(2)
	土師器：壺(1)
	馬具：杏葉(4) 鏡板(2) 辻金具(2) 銅鈴(1)
上椎ノ木古墳	四神鏡(1)、石製壺(1)、石釧(1)、勾玉(5)、管玉(34)
木下古墳	獣帯鏡(1)
柳垣内遺跡	蔵骨器(1)
大塚古墳	水晶切子玉(11)　玉管玉(4)
浄土寺南遺跡	円面硯(1)
納所遺跡	弥生土器：彩文壺(1) 黒色壺(1) 手焙型土器(1) パイプ型土器(1) 壺(1)
	片口鉢(1) 台付壺(1)
	木製品：琴(1) 箆状木製品(1) 木鐸(1) 斧の柄(2) 鋤(4) 鍬(2)
	直柄鋤(1) 櫛(1) 石器：石斧(6) 石包丁(4) 石小刀(3)
亀井遺跡	双脚壺(1)
太田遺跡	銅鐸型土製品レプリカ(1)
鳥居本遺跡	方形周溝墓：壺(1)
午前坊遺跡	瓢壺(1)
堀ノ内遺跡	縄文土器：深鉢(1)
天華寺廃寺	塑像(1)塼仏(20)、軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)、ヘラ描き軒平瓦(1)
東野遺跡	線刻礫(1)
堀田遺跡	円面硯(1)
中ノ庄遺跡	馬型埴輪(1)、朝顔形埴輪(1)、人物埴輪(1)
杉垣内遺跡	石器：石包丁(1) 木製品：人形(2) 櫛(1) 斎串(11)
	土馬(4)、ミニチュア土器：壺(7)
伊勢寺廃寺	軒丸瓦(1)、軒平瓦(1)
深長古墳	土師器：壺（1）
横尾墳墓	群経筒容器(2)、経筒容器蓋(1)、五輪塔(1)、石仏(1)
養徳寺遺跡	柿経（1 式）
崎谷遺跡	五輪塔(1)、石仏(2)
牧瓦窯	軒丸瓦(1)、軒平瓦（1）
牧中世墓	石仏(1)
河田古墳群	土師器：高杯(3) 甕(1)、須恵器：杯蓋(2) 杯身(2) 高杯(2) 壺(3)
東裏遺跡	土師器：杯「中臣」(1) 椀(1) 青磁：椀(1)
カウジデン遺跡	土馬(1) 土師器：杯「中万」(2)、灰釉陶器杯「中万」(1)
	黒色土器：椀(1)
神前山古墳	円筒埴輪(1)、須恵器：二重鐙(1) 鳥形鐙(1)
寺垣内遺跡	独鈷石(1)
西出遺跡	土板(1)
大藪遺跡	方形周溝墓：壺(1)
樋ノ谷遺跡	抉状耳飾(1)
東畑中世墓	蔵骨器(2)
東山古墳	土師器：高杯(1) 器台(1)、四獣鏡(1)、銅鏃(3)、鉄斧(2) 鉄剣(1)
北掘池遺跡	木製品：槌(1) 鍬(3) 剣型木製品(1) 舟型木製品(2)、円面硯(1)
北切遺跡	方形周溝墓：壺(1)
前山古墳	銀象嵌刀装(2)
小上野西谷遺跡	土製勾玉(1)
歌野遺跡	製塩土器(2)
辻垣内遺跡	縄文土器深鉢(1)

〔付１〕平成３年度三重県文化財調査員名簿

地　区	氏　　名	勤　務　地	住　　所
北　勢	伊　東　春　夫		
	片　岡　雅　章	川越高	
	丹　羽　　徹	四日市西高	
	清　水　弘　之	東員第二中	
	川　添　　譲	桑名高校衛生看護分校	
	桐　生　定　己	市立教育研究所	
	鎌　田　雅　生	菰野中	
	大　場　範　久	神戸高	
	荒　木　昌　俊	笹川東小	
	安　川　富　春		
中　勢	河　合　良　成		
	高　森　英　純	豊田小	
	下　村　純　也	三雲中	
	小　林　和　彦	雲林院小	
	本　堂　弘　之	村主小	
	津　村　善　博	久居中	
	宮　崎　洋　史		
松　阪	榎　本　義　譲		
	世　古　且　守	大河内小	
	岡　本　好　雅	中部中	
	小　浜　　学	松阪第二小	
	奥　谷　義　一	松阪市教委	
	筒　居　利　久	飯高西中	
	三　井　博　之		
	奥　　義　次	松阪高	
南　志	中　西　正　典	玉城中	
	大　西　素　行	外城田小	
	東　　浩　成	志摩高	
	御　村　精　治	度会中	
	中世古　一　芳	宿田曽小	
	村　上　喜　雄	国崎小	
	山　崎　富三郎		
	竹　内　正　弘	志島小	
	川　添　昭　博	東海中	
	東　谷　利　和	小俣中	
上　野	市　田　進　一		
	福　井　健　二		
	中　山　　暁	崇広中	
	岡　本　武　和	島ヶ原小	
	寺　岡　光　三	会社員	
	森　前　　稔	名張中	
	奥　西　　勲	比奈知小	
	松　鹿　昭　二	名張西高	
	竹　内　英　雄	比奈知中	
	谷　戸　　実	一ノ井教育集会所	
尾　鷲	田　崎　通　雅		
	東　　成　志	三船中	
熊　野	福　村　直　人	阿和田小	
	田　中　安　弘	御浜小	
	古　部　　均	尾呂志小	